Cisco BroadWorks 版 Webex 設定ガイド

解除 46.6

ドキュメントバージョン 1

目次

1 変更の概要 1
1.1 リリースの変更46.6、6 月 2026 1
1.2 リリースの変更46.5、5 月 2026 1
1.3 リリースの変更46.4、4 月 2026 1
1.4 リリースの変更46.3、3 月 2026 1
1.5 リリースの変更46.2、2 月 2026 1
1.6 リリースの変更46.1、1 月 2026 2
1.7 リリースの変更45.12、12 月 2025 2
1.8 リリースの変更45.11、11 月 2025 2
1.9 リリースの変更45.10、10 月 2025 2
1.10 リリースの変更45.9、9 月 2025 3
1.11 リリースの変更45.8、8 月 2025 3
1.12 リリースの変更45.7、7 月 2025 3
1.13 リリースの変更45.6、6 月 2025 3
1.14 リリースの変更45.5、5 月 2025 3
1.15 リリースの変更45.4、4 月 2025 4
1.16 リリースの変更45.3、3 月 2025 4
1.17 リリースの変更45.2、2 月 2025 4
1.18 リリースの変更45.1、1 月 2025 4
2 設定ファイルの変更 5
2.1 リリースの設定ファイルの変更 46.6 5
2.2 リリースの設定ファイルの変更 46.5 5
2.3 リリースの設定ファイルの変更 46.4 5
2.4 リリースの設定ファイルの変更 46.3 5
2.5 リリースの設定ファイルの変更 46.2 5
2.6 リリースの設定ファイルの変更 46.1 5
2.7 リリースの設定ファイルの変更 45.12 5
2.8 リリースの設定ファイルの変更 45.11 6
2.9 リリースの設定ファイルの変更 45.10 6

2.10 リリースの設定ファイルの変更 45.9 8
2.11 リリースの設定ファイルの変更 45.8 8
2.12 リリースの設定ファイルの変更 45.7 8
2.13 リリースの設定ファイルの変更 45.6 9
2.14 リリースの設定ファイルの変更 45.5 9
2.15 リリースの設定ファイルの変更 45.4 10
2.16 リリースの設定ファイルの変更 45.3 10
2.17 リリースの設定ファイルの変更 45.2 10
2.18 リリースの設定ファイルの変更 45.1 10

3 紹介 11

4 インストール 12

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード 12
4.2 Android クライアント 12
4.3 iOS クライアント 12
4.4 デスクトップ クライアント 13

5 デバイス管理 14

5.1 デバイス管理タグ 14
5.2 デバイス タイプ選択の一致の強化 15
5.3 クライアントの設定 16
5.4 config-wxt.xml の展開 16
5.5 設定ファイル (config-wxt.xml) 16
5.6 システム デフォルト タグ 17
5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ 18

6 カスタムタグ 21

6.1 共通機能 34
6.1.1 SIP サーバー設定 34
6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol 37
6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー 39
6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する 40
6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト 42

6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出 43
6.1.7 SIP の優先ポート使用量 48
6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック 49
6.1.9 SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新および SUBSCRIBE 再試行 54
6.1.10 登録で P-Associated-URI を使用する 54
6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー 55
6.1.12 SIP 更新のサポート 56
6.1.13 レガシー SIP INFO FIR 56
6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理 57
6.1.15 SIP セッション ID 58
6.1.16 着信通話拒否の動作 58
6.1.17 リアルタイム トランスポート プロトコル ポート範囲 58
6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ) 59
6.1.19 RTCP MUX 60
6.1.20 転送 60
6.1.21 N 方向電話会議 62
6.1.22 コール プル 63
6.1.23 コールパーク/保留解除 65
6.1.24 通話統計 66
6.1.25 コール自動リカバリ /シームレスなコールハンドバー 66
6.1.26 通話録音 67
6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ 70
6.1.28 ボイスメール クラウド ネイティブ ストレージ (Webex Calling のみ) 72
6.1.29 Webex Calling のボイスメールの文字起こし 73
6.1.30 通話設定 74
6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定 76
6.1.32 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト 80
6.1.33 Xtended Services Interface（XSI） 81
6.1.34 コーデックの設定 85
6.1.35 SIP-URI ダイヤル 87
6.1.36 通話履歴 87

6.1.37 ビデオ通話を無効にする 88
6.1.38 緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート 89
6.1.39 アイデンティティとして PAI 90
6.1.40 画面共有を無効にする 91
6.1.41 スパムコール通知 91
6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張 91
6.1.43 QoS DSCP マーキング 92
6.1.44 プライマリ プロファイル 93
6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ) 94
6.1.46 Media Adaptation and Resilience Implementation（MARI） 95
6.1.47 同じユーザーとの同時通話 97
6.1.48 RTCP-XR 98
6.1.49 着信転送情報 98
6.1.50 発信元 ID 99
6.1.51 複数回線 102
6.1.52 SIP 認証の強化 104
6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中) 104
6.1.54 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ) 105
6.2 デスクトップのみの機能 107
6.2.1 強制的にログアウト 107
6.2.2 通話ピックアップ 108
6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート 108
6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ) 109
6.2.5 卓上電話のコントロール 109
6.2.6 トーン通知による自動応答 110
6.2.7 卓上電話コントロール – 通話中制御 – 会議 110
6.2.8 コール ピックアップ通知 111
6.2.9 リモート コントロール イベント パッケージ 113
6.2.10 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ) 114
6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ) 114
6.2.12 通話を移動 115

6.3 モバイルのみの機能 118
6.3.1 緊急コール 118
6.3.2 コールのプッシュ通知 119
6.3.3 単一アラート 122
6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック) 122
6.3.5 MNO サポート 123
6.3.6 着信発信者 ID 128
7 アーリーフィールドトライアル（BETA）の特徴 130
7.1 緊急（911）コール - Cisco 緊急ロケーション情報サービス（Webex Calling のみ）および設定のクリーンアップ 130
8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング 135
9 別紙A: TLS 暗号化 143
10 別紙B: DM タグプロビジョニング スクリプト 144
10.1 デスクトップ 145
10.2 モバイル 148
10.3 タブレット 151
10.4 システム タグ 154
11 頭字語と略語 155

1 変更の概要

このセクションでは、各リリースおよびドキュメントバージョンに対するこのドキュメントへの変更について説明します。

1.1 リリースの変更46.6、6 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.28 ボイスメール クラウド ネイティブ ストレージ (Webex Calling のみ)*を追加しました。
- %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-n% を付録 B のシステム タグ リストおよび Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグリファレンス テーブルに追加しました。

1.2 リリースの変更46.5、5 月 2026

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.3 リリースの変更46.4、4 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.50 発信元 ID*
  - %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% タグの説明を更新し、Webex Calling でのみ使用可能になりました。

1.4 リリースの変更46.3、3 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクションを追加*6.2.5 卓上電話のコントロール*
- セクション *6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ* – サポートされていないファイル形式が削除されました。ソリューション ガイドへの参照を追加しました。
- セクション *6.1.21 N 方向電話会議*
  – %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% タグの説明を更新し、Webex Calling でのみ使用可能になりました。
- セクション *6.1.50 発信元 ID*
  - %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% タグの説明を更新し、Webex Calling でのみ使用可能になりました。

1.5 リリースの変更46.2、2 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.50.1 発信者 ID -* ソリューションガイドへの参照を追加しました。
- セクション *6.1.26 通話録音* - ソリューション ガイドのセクションへの参照を追加しました。通話の録音。

1.6 リリースの変更46.1、1 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*5.3 クライアントの設定 -* アプリによる設定ファイルの使用方法の詳細を追加しました。
- セクション*5.4 config-wxt.xml* の展開 – 設定ファイルのバージョンを最新の状態に保つと DTAF ダウンロード手順に関する詳細が追加されました。

1.7 リリースの変更45.12、12 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.8 リリースの変更45.11、11 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.36 通話履歴* – セカンダリ回線のサポートに関する詳細を追加しました。ベータ機能から「*セカンダリ回線の統合通話履歴（Webex Calling のみ）*」セクションを削除しました。
- セクション *6.1.54 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)* をベータ版から移動しました。
- セクション *6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル* ペルソナ
    - 共通セクション *6.1.50.1 発信者 ID* の一部になったため、[発信者 ID を非表示] オプションを削除しました。
    - デュアル ペルソナの設定オプション (設定タグとカスタム タグ) を更新しました。
- セクション *6.1.33 Xtended Services Interface（XSI）* – XSI 関連情報を組み合わせました。
- セクション *6.1.33.2 XSI 動的プロキシ検出を追加しました。*
- セクション *6.1.32.3 XSI イベント チャネル* – 新しい非アクティブ タイマーに関する詳細と、XSI 主催者のブラックリストに関連する更新が追加されました。

1.9 リリースの変更45.10、10 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*6.1.21 N 方向電話会議* – ベータ セクションの *N-Way Conference Calls Enhancement (Webex Calling のみ)* が統合されました。
- セクション*6.1.22 コール* プル – ベータ セクションの*通話プル強化*を統合しました。
- [重要] 「 」セクションが追加されました。
  - ドキュメントバージョン3 - Webex Calling 導入タイプ専用のシスコ緊急ロケーション情報サービスの可用性に関する追加情報が含まれています。
- ベータ版の「*セカンダリ回線の統合通話履歴（Webex Calling のみ）* 」セクションを追加しました。
- セクション *6.1.36 通話履歴* – 通話履歴がユーザーのプライマリ回線に対してのみすべてのデバイスで同期されるという説明を追加しました。
- ベータ版の「*エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)* 」セクションを追加しました。

1.10 リリースの変更45.9、9 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 「 *コールプル機能強化*」セクションを更新しました - 詳細が追加されました。
- セクション *6.1.22 コール プル* – サーバー側のサービス設定の機能依存性に関する詳細を追加しました。
- セクション *6.1.25 コール自動リカバリ/シームレスなコールハンドバー* – コール プル機能とコール リカバリ中に再生されるトーンに対する機能の依存性に関する詳細を追加しました。

1.11 リリースの変更45.8、8 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*6.1.34 コーデックの設定* – プラットフォームごとの最大 H.264 ビデオ解像度と Webex アプリのデスクトップ バージョンの更新に関する詳細を追加しました。

1.12 リリースの変更45.7、7 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版の「*N-way Conference Calls Enhancement (Webex Calling のみ)*」セクションを追加しました。
- ベータ版の「*コール プル機能強化*」セクションを追加しました。

1.13 リリースの変更45.6、6 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.14 リリースの変更45.5、5 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクションのコール キュー エージェント CLID の選択 – *6.1.50.1 発信者 ID* により非推奨になりました。
- 非推奨のタグと属性を削除しました。

1.15 リリースの変更45.4、4 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.34.1 AIコーデック* – ベータ版です。
- セクション *6.1.51 複数回線* – デスクトップのみとモバイルベータ セクションを組み合わせました。
- セクションを移動しました *6.1.52 SIP 認証の強化* – ベータ版です。
- セクションを移動しました*6.1.53 パーソナル* アシスタント (退席中) パーソナルアシスタント (在席中)6

1.16 リリースの変更45.3、3 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.17 リリースの変更45.2、2 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版で「*SIP 認証の強化*」セクションを追加しました。

1.18 リリースの変更45.1、1 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- *パーソナル アシスタント (退席中)* セクションをベータ版から移動しました。
- セクション *6.3.2.3 配信モード (Webex Calling のみ)* をベータ版に移行しました。

2 設定ファイルの変更

2.1 リリースの設定ファイルの変更 46.6

- [Webex Calling のみ] [プロトコル> 回線>のにタグを追加。タグは、Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-n% によって駆動されます。ここで、n は回線インデックス (1–10) です。 (CiscoText)

```
<config>
<protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <voicemail-cloud-storage-enabled>%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-
1%</voicemail-cloud-storage-enabled>
    ...
    </line>
  </lines>
</sip></protocols>
</config>
```

2.2 リリースの設定ファイルの変更 46.5

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.3 リリースの設定ファイルの変更 46.4

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.4 リリースの設定ファイルの変更 46.3

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.5 リリースの設定ファイルの変更 46.2

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.6 リリースの設定ファイルの変更 46.1

- 2 番目の*電話イベント*を追加しました セクションの 48kbps のクロックレートを示すタグです。<audio>

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      …
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
      <codec name="telephone-event" payload="102" clockrate="48000" in-
band="false" />
```

2.7 リリースの設定ファイルの変更 45.12

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.8 リリースの設定ファイルの変更 45.11

- 設定タグ >mobility-persona-management>と対応するカスタムタグ %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% は廃止され、新しいカスタムタグ %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% を使用して、統合された発信者 ID 設定セクションの一部になりました。
- 設定タグ と対応するカスタムタグ %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% は廃止され、新しいカスタムタグ %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% を使用して、統合された発信者 ID 設定セクションの一部になりました。
- セクションにproxy-discovery>タグを追加しました。

```
<config>
<protocols><xsi>
   <event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
      <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

- に非活動タイムアウト>タグを追加しました

```
<config>
<protocols><xsi>
   <event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
      <heartbeat-interval>%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeat-interval>
      <inactivity-timeout>%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%</inactivity-
timeout>
```

次の %TAG% が追加されました:

- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%
- %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%

次の %TAG%s は廃止されました:

- %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%
- %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%

2.9 リリースの設定ファイルの変更 45.10

- [Webex Calling のみ] セクションのタグが、公式機能を制御するようになりました。

```
<config>
<services><calls>
   <conference>
      <drop-two-party-conference
enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
```

- タグ のmode および default-active-move-option (デスクトップのみ) 属性で、公式機能を制御できるようになりました。

```
<config>
<services><calls>
```

```
   <call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%" mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

- [重要] [ベータ機能] [デスクトップとタブレットのみ] の下にセクションを追加し、セクションを廃止しました。

```
<config><services>
<emergency-dialing enabled="%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%">
   <redsky enabled="%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%"> <!-- DEPRECATED
by <emergency-location> -->
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-
timeout>%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-timeout>
      <user-mandatory-
location>%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-mandatory-
location>
      <user-location-
prompting>%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </redsky>
   <emergency-location enabled="%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%"
               provider="%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%">
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-
timeout>%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-
location>%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-mandatory-
location>
      <user-location-
prompting>%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </emergency-location>
</emergency-dialing>
```

- [Webex Calling のみ] セクションにタグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <e2ee enabled="%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%"/>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
- %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%

次の %TAG%s は廃止されました:

- %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%

詳細については、「」を参照してください。

2.10 リリースの設定ファイルの変更 45.9

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.11 リリースの設定ファイルの変更 45.8

- [デスクトップのみ] H.264 ビデオの解像度を WIDE_FULL_HD に更新しました。H.264 コーデックの解像度、セクションのH.264 コーデックの解像度、フレームレート、ビットレート属性を追加しました。<video>

```
<config>
<services><calls>
<video><codecs>
       <codec name="H264" resolution="WIDE_FULL_HD" framerate="30"
bitrate="4000000" priority="1.0" payload="109">
```

2.12 リリースの設定ファイルの変更 45.7

- [ベータ機能] [Webex Calling のみ] セクションにタグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <conference>
      <drop-two-party-conference
enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
```

- [ベータ機能]タグの にモードと default-active-move-option (デスクトップのみ) 属性を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%" mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%
- %CALL_PULL_MODE_WXT%
- %CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%

2.13 リリースの設定ファイルの変更 45.6

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.14 リリースの設定ファイルの変更 45.5

以下のセクション/タグが削除されました:

- [D/M] プロトコル>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線の資格情報に置き換えられます。
- [D] プロトコル>
  - クレデンシャル> の各回線に対してに置換されます
- [D/M] <q-value;
  - 廃止されたリリース 43.11
  - で<q-value;に置換
- [D/M] <service-uri>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線の conference-service-uri>に置換されます。
- [D/M] <ノイズ除去>
  - 廃止されたリリース 43.12
  - サービス><音声強化機能に置き換えました
- [D/M] <center-number>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線について、ボイスメール番号で置き換えられます。
- [D] サービス>
  - 廃止されたリリース 44.3
  - Replaced by the <services><calls><caller-id>

次の属性が削除されました。

- [D/M] url 属性 ()
- [D/M] の [ブランディング有効化] 属性 ()

次の %TAG%s が削除されました:

- [D] %ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT%

2.15 リリースの設定ファイルの変更 45.4

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.16 リリースの設定ファイルの変更 45.3

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

2.17 リリースの設定ファイルの変更 45.2

- [ベータ機能] セクションにタグが追加されました。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <enhanced-authorization enabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

次の %TAG% が追加されました:

- %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%

2.18 リリースの設定ファイルの変更 45.1

このバージョンの構成ファイルには更新がありませんでした。

3 紹介

このドキュメントでは、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定について説明します。

構成ファイル *config-wxt.xml* には、モバイル (Android および iOS) とデスクトップ (Windows および MacOS) の 2 つのバージョンがあります。

このクライアントは、エンド ユーザーには表示されない構成を使用して設定されます。 *config-wxt.xml* は、サーバーのアドレス、ポート、クライアントのランタイム オプション (たとえば、*[設定]* 画面に表示されるオプション) など、サーバー固有の情報を提供します。

設定ファイルは、デバイス管理から取得された後、起動時にクライアントによって読み取られます。設定ファイルの情報は暗号化されて保存されるため、エンド ユーザーが情報を表示したりアクセスしたりすることはできません。

> **注**: XML プロパティにはスペースを含めないでください (例: 代わりに)。

4 インストール

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、以下からインストールできます。

https://www.webex.com/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード

次のローカライズ版の Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、次のようにダウンロードできます。

https://www.webex.com/ko/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/fr/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/pt/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-tw/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-cn/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/ja/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/es/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/de/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/it/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.2 Android クライアント

Android クライアントはアプリケーション (Android アプリケーションパッケージ [APK]) としてインストールされ、プライベート エリア内に設定と関連するデータが保持されます。

Google Play の手順に基づくバージョン管理があります。標準の Google Play 通知が提供されます (つまり、Android は新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを自動的に示します)。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保存されます。

ユーザーはインストールまたはインストールの解除のオプションを選択する必要はありません。

4.3 iOS クライアント

iOS クライアントはアプリケーションとしてインストールされ、設定関連のデータが「サンドボックス」内に保存され、設定ファイル データは暗号化されます。

Apple App Store の手順に基づくバージョン管理があります。App Store アイコンが強調表示され、新しいバージョンのソフトウェアが使用可能であることを示します。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保存されます。

ユーザーはインストールまたはインストールの解除のオプションを選択する必要はありません。

4.4 デスクトップ クライアント

デスクトップ クライアント (Windows および MacOS) のインストールとバージョン管理に関する情報は、以下にあります。https://help.webex.com/en-us/nw5p67g/Webex-Installation-and-Automatic-Upgrade.

5 デバイス管理

5.1 デバイス管理タグ

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次の図に示されている*デバイス管理タグ セット*を使用します。特定のデバイス/クライアント設定をプロビジョニングするには、*[システムのデフォルト]* とカスタム タグ セットが必要です。このタグ セットは、クライアントのネットワーク/サービスの接続設定と機能のアクティベーション コントロールを柔軟に管理できます。

このカスタムタグセットは、*[システム]* → *[リソース]* → *[デバイス管理タグセット]* オプションを介してシステム管理者によってプロビジョニングされます。管理者は新しいタグセットを追加する必要があります。

- Mobile: Connect_Tags
- Tablet: ConnectTablet_Tags
- Desktop: BroadTouch_Tags

各タグを作成し、その値を設定します。セクションリファレンスは、各タグの詳細な説明を提供します。カスタムタグは、機能に基づいてグループで区切られ、このドキュメントで後ほど説明します。

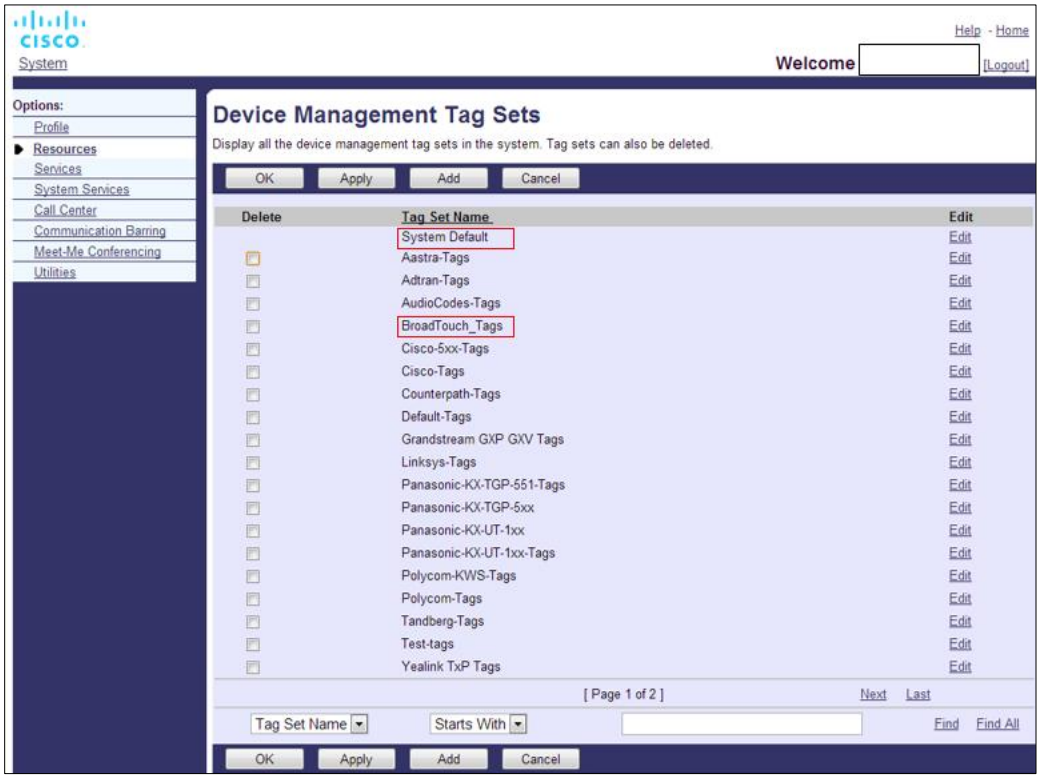


図 1 デスクトップ デバイス管理タグセット

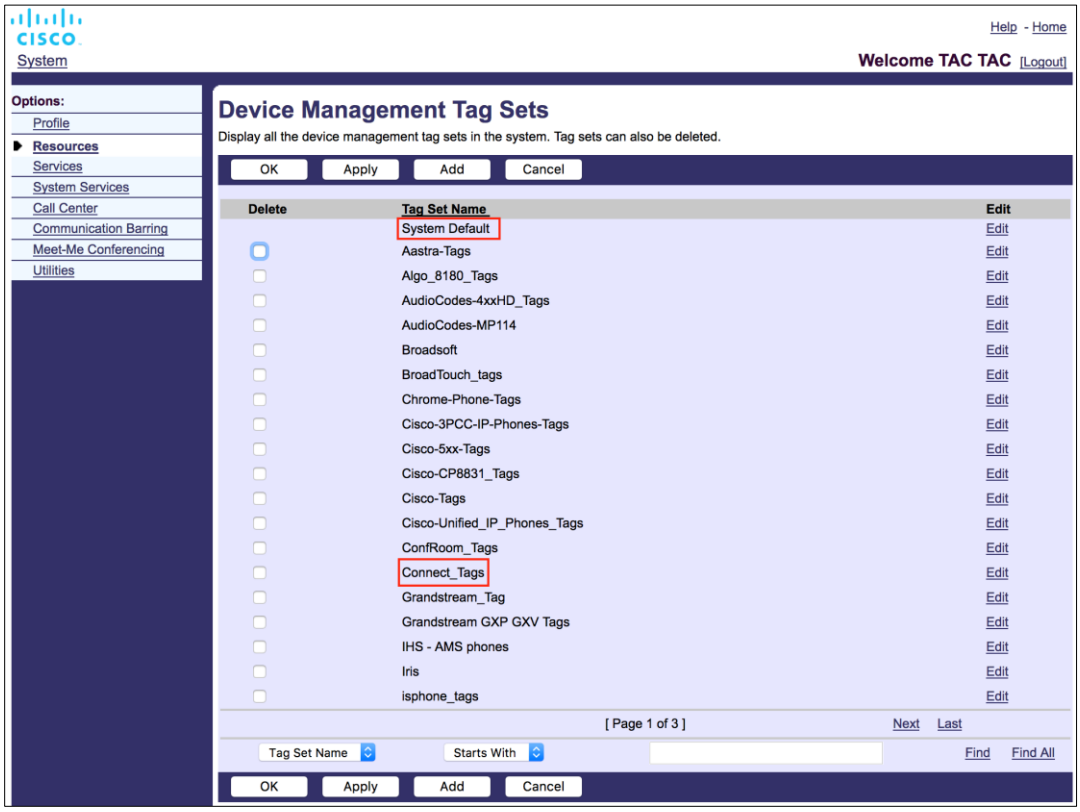


図 2 モバイル デバイス管理タグセット

5.2 デバイス タイプ選択の一致の強化

ユーザ グループまたは個々のユーザの機能パッケージを選択する際の柔軟性を高めるため、デバイス プロファイル タイプが（最初の）部分一致に基づいて選択されます。これにより、顧客は異なるデバイス タイプを使用できます。

一般的なデバイス管理手順では、Cisco BroadWorks アプリケーション サーバがデバイス プロファイル タイプを提供するように指定します。デスクトップには「Business Communicator – PC」、モバイルには「Connect – Mobile」、タブレットには「Connect – Tablet」という名前が付けられています。デバイス プロファイルを作成してユーザに割り当てることができます。次に、アプリケーション サーバが設定ファイルを構築し、プロファイル サーバに保存します。

ログイン時に、クライアントは XSI 経由で割り当てられたデバイス リストをクエリし、対応するデバイス タイプ プロファイルを検索します。クライアントは、対応するデバイス タイプ名で始まる最初のプロファイルを選択します。その後、このデバイス プロファイルに関連付けられているデバイス プロファイルの設定データ（設定ファイル）を使用して、さまざまな機能を有効または無効にします。

これにより、さまざまなデバイス プロファイル タイプで同じクライアントが実行可能になるため、サービス プロバイダーは、ユーザまたはユーザ グループの DM のデバイス プロファイル タイプを変更するだけで、個々のユーザまたはユーザ グループの機能パッケージを変更できます。

たとえば、サービス プロバイダーは、「Business Communicator – PC Basic」、「Business Communicator – PC Executive」、「Business Communicator – PC Assistant」など、ユーザ ロールに基づいて任意の数のデバイス プロファイル タイプを持ち、各ユーザのデバイス プロファイル タイプを変更することで、各ユーザが利用できる機能を変更できます。

受信したデバイス リストの XML に複数の一致するデバイス プロファイル タイプを持つことは想定されていませんが、1 つのみであることに注意してください。

5.3 クライアントの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex のクライアントバージョンでは、通話機能を設定するために *config-wxt.xml* ファイルを使用します。これは、ユーザーに割り当てられた通話サービスと組み合わせて機能します。

Webex アプリケーションは DMS 経由で設定ファイルを取得します。ユーザのサインイン時にダウンロードされ、アプリケーションが稼働している間、12 時間ごとに更新されます。設定ファイルの更新間隔は設定できません。設定ファイルの更新を強制するには、ユーザはサインアウトしてから再度サインインする必要があります。

5.4 config-wxt.xml の展開

対応する *config-wxt.xml* ファイルを「Connect – Mobile」、「Connect – Tablet」、「Business Communicator – PC」デバイス プロファイルに追加します。設定ファイルは、デバイス プロファイルごとに存在する必要があります。

最新の構成ファイル バージョンにアクセスするには、
https://software.cisco.com/download/home/286326302/type から [デバイス管理] を選択し、クライアント バージョンに対応する RI 日付を選択し、DTAF アーカイブをダウンロードしてください。

> **注1：** テンプレートを最新版の Webex アプリケーションに合わせて維持することを強くお勧めします。 設定テンプレートに大幅な変更が加えられることがあります。Webex アプリケーションは一定期間下位互換性を持つように設計されていますが、構成テンプレートを最新に保つことが重要です。そのため、タイムリーに更新する**必要**があります。**6 か月以上** 前の設定テンプレートで Webex アプリケーションを利用すると、機能が失われる可能性があります。 サポートされているセットアップとみなされる必要はありません。
>
> **注意2**: Cisco BroadWorks 版 Webex は UC-One と同じデバイス プロファイルを使用しているため、簡単に展開できます。

5.5 設定ファイル (config-wxt.xml)

_WXT サフィックスを持つ新しいカスタム タグは、レガシークライアントから新しい Webex for Cisco BroadWorks 構成の展開を区別するために使用されます。ただし、UC-One と Webex の間で共有される一部の (システム) タグはまだあります。

一部の Cisco BroadWorks システム カスタム タグは、*config-wxt.xml* 構成ファイルでも使用されます。次の各タグの詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。

- %BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
- %BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
- %BWLINEPORT-n%
- %BWAUTHUSER-n%
- %BWAUTHPASSWORD-n%
- %BWE164-n%
- %BWHOST-n%
- %BWNAME-n%
- %BWEXTENSION-n%
- %BWAPPEARANCE-LABEL-n%
- %BWDISPLAYNAMELINEPORT%
- %BWLINEPORT-PRIMARY%
- %BWE911-PRIMARY-HELDURL%
- %BWE911-CUSTOMERID%
- %BWE911-SECRETKEY%
- %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%" (Webex Calling のみ)

5.6 システム デフォルト タグ

システム管理者は、*[システム]* → *[リソース]* → *[デバイス管理タグセット]* オプションからシステムデフォルトのタグにアクセスできます。VoIP Calling パッケージがインストールされている場合は、次のシステム デフォルト タグをプロビジョニングする必要があります。

タグ	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	これは、ネットワークに展開されているセッション ボーダー コントローラ (SBC) の完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスとして設定する必要があります。 例: sbc.yourdomain.com
%SBC_PORT_WXT%	SBC_ADDRESS_WXT が IP アドレスである場合、このパラメータを SBC ポートに設定する必要があります。

タグ	説明
	SBC_ADDRESS_WXT が FQDN の場合、設定を解除することができます。 例: 5075

5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ

デフォルトのシステム タグと定義する必要があるカスタム タグに加えて、通常使用され、推奨されるデバイス タイプ アーカイブ ファイル（DTAF）の一部である既存の Cisco BroadWorks システム タグがあります。これらのタグはこのセクションに一覧表示されます。インストールされているソリューションパッケージによっては、すべてのシステム タグが使用されるわけではありません。

タグ	説明
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%	これは N-Way 会議を有効にするために使用されるサーバー URI です。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%	この番号はボイスメールに使用されます。クライアントは、ボイスメールを取得するときにこの番号をダイヤルします。
%BWLINEPORT-n%	登録などで、SIP シグナリングに使用される SIP ユーザー名。
%BWHOST-n%	これは、ユーザーに割り当てられたデバイスのプロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分です。 ユーザーのプロファイルから取得されます。 通常は SIP ドメインとして使用されます。
%BWAUTHUSER-n%	これは認証ユーザ名です。 サブスクライバに認証が割り当てられている場合、これは、デバイス タイプの選択した認証モードに関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたユーザー ID です。 通常、401 および 407 シグナリングで使用される SIP ユーザ名。デフォルトの SIP ユーザー名とは異なる場合があります。
%BWAUTHPASSWORD-n%	これはユーザーの認証パスワードです。サブスクライバに認証が割り当てられている場合、これは、デバイス タイプの選択した認証モード値に関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたパスワードです。 SIP シグナリングで使用される SIP パスワード。
%BWE164-n%	このタグは、国際形式でユーザーの電話番号を提供します。

タグ	説明
%BWNAME-n%	これは、ユーザのプロファイルのサブスクライバの名と姓です。名と姓が連結されます。 複数回線設定の場合、回線ラベルが設定されておらず、空でない場合は、回線セレクタの回線の表示名として使用されます。
%BWEXTENSION-n%	サブスクライバの内線は、ユーザーのプロファイルでプロビジョニングされた内線から取得されます。 内線がプロビジョニングされていない場合、タグはサブスクライバの電話番号（DN）に置き換えられます。
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%	これは回線ラベルが設定されています。回線名として使用されます (空でない場合)。
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%	これは、共有回線（共有コールアピアランス）とは対照的に、最初のプライベート回線の回線/ポートです。 これは、ユーザーに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされた回線ポートです。これはユーザーのプロファイルから取得されます。 ユーザーのプライマリ回線を識別するために使用されます。
%BWLINEPORT-PRIMARY%	プライマリ回線ポートは、ユーザに割り当てられているデバイスでプロビジョニングされます。このタグには、プロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分が含まれていません。ユーザーのプロファイルから取得されます。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	HELD プロトコルをサポートする RedSky 緊急ロケーションプラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	RedSky HTTPS リクエストに使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	RedSky HTTPS 要求を認証するためのシークレット。

タグ	説明
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	RedSky でサポートされている緊急番号のリスト。 このタグを使用するには、デバイス タイプで使用されるタグセットに %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% 予約済みカスタム タグを追加する必要があります。「予約済み」タグには、BroadWorks で AS_CLI/System/CallP/CallTypes > で定義された緊急番号を、911、0911、933 などのカンマ区切り形式で含める必要があります。 **注意:** Webex クライアントは、緊急番号のワイルドカードをサポートしません。したがって、正確な緊急番号のみを「予約済み」カスタムタグに追加する必要があります。 次の例は、予約されたタグ機能の使い方の例を示しています。 1) ネイティブタグ %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% がデバイスのテンプレート ファイルに追加されます 2) 予約済みカスタムタグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% は、値を持つデバイスで使用されるタグセットに追加されます 911, 0911, 933 3) ファイルを再構築すると、%RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% のネイティブ タグが 911、0911、933 に解決されます。
%BW-MEMBERTYPE-n%	これは、各回線のタイプです。「仮想プロファイル」、「ユーザー」、「場所」のいずれかを指定できます。
%BWUSEREXTID-n%	これは指定された回線の外部 ID です (Webex Calling のみ)
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%"	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します。(Webex Calling のみ)
%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-n%	Webex アプリが XSI の代わりにクラウド ネイティブ ボイスメール ストレージから回線のボイスメール コンテンツ (概要、ビジュアル ボイスメール メッセージ、音声テキスト) を取得するかどうかを示します。(Webex Calling のみ)

6 カスタムタグ

このセクションでは、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグについて説明します。デスクトップ プラットフォームとモバイル/タブレット プラットフォームの両方に使用されるすべてのカスタム タグを一覧表示します。

ただし、このセクションで説明されている一部の設定は、クライアントの特定のリリースでのみサポートされていることに注意してください。設定が古いクライアント バージョンに適用されないかどうかを判断するには、適切なリリース固有の設定ガイドを参照してください。

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	はい	はい	true	*6.1.16 着信通話拒否の動作*
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	いいえ	はい	拒否_false	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	いいえ	はい	通話中	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.20 転送*
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	はい	はい	10	*6.1.21 N 方向電話会議*
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.24 通話統計*
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.22 コール* プル
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29 Webex Calling のボイスメールの文字起こし*
%ENABLE_MWI_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%MWI_MODE_WXT%	はい	はい	空	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x%	はい	Y	false	*6.1.28 ボイスメール クラウド ネイティブ ストレージ (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.1 強制的にログアウト*
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	はい	いいえ	空	*6.2.1 強制的にログアウト*
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.1 無条件転送*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.1 緊急コール*
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	いいえ	はい	911, 112	*6.3.1 緊急コール*
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理*
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理*
%USE_TLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および* Secure Real-time Transport Protocol
%SBC_ADDRESS_WXT%	はい	はい	空	*5.6 システム デフォルト* タグ
%SBC_PORT_WXT%	はい	はい	5060	*5.6 システム デフォルト* タグ
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	はい	はい	空	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	Y (Windows のみ)	いいえ	false	*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	5000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト*
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	10000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト*
%SOURCE_PORT_WXT%	はい	はい	5060	*6.1.7 SIP の優先ポート使用量*
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	はい	いいえ	true	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	はい	いいえ	900	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.2 SIP フェールバック*
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	はい	はい	DNS	*6.1.8.3.IP バージョンの強制*
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	はい	Y	false	*6.1.10 登録で P-Associated-URI を使用する*
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	はい	はい	18000	*6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.4 DNS TTL 管理*
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.12 SIP 更新のサポート*
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー*
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	はい	Y	false	*6.1.15 SIP セッション ID*
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	はい	Y	false	*6.1.13 レガシー SIP INFO FIR*
%SRTP_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および* Secure Real-time Transport Protocol
%SRTP_MODE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および* Secure Real-time Transport Protocol
%ENABLE_REKEYING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.2 SIP Over TLS および* Secure Real-time Transport Protocol
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8000	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8099	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8100	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8199	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	はい	はい	true	*6.1.19 RTCP MUX*
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	はい	はい	true	*6.1.33.3 XSI イベント チャネル*
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	はい	はい	10000	*6.1.33.3 XSI イベント チャネル*
%XSI_ROOT_WXT%	はい	はい	空 (オリジナル URL を使用)	*6.1.33.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-actions/	*6.1.33.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-events/	*6.1.33.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.25 コール自動リカバリ/*シームレスなコールハンドバー
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	いいえ	はい	CS のみ	*6.3.1 緊急コール*
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.2 通話ピックアップ*
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.2 通話ピックアップ*
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	はい	Y	false	*6.1.32 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト*
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	はい	はい	外部	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定*
%USE_MEDIASEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー*
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	いいえ	はい	10	*6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)*
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート*
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	いいえ	はい	35	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	はい	Y	false	*6.1.26 通話録音*
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.3 単一アラート*
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	はい	Y	false	*6.1.23 コールパーク/保留解除*
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	はい	はい	10	*6.1.23 コールパーク/保留解除*
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_MODE_WXT%	はい	はい	アイステン	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	はい	はい	空	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_PORT_WXT%	はい	はい	3478	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	はい	Y	false	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.4 DNS TTL 管理*
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする*
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.5 卓上電話のコントロール*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5 MNO サポート* *ネイティブ ダイヤラーとの通話*
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.5 MNO サポート* *ネイティブ ダイヤラーとの通話*
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.35 SIP-URI ダイヤル*
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.37 ビデオ通話を無効にする*
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	Y	はい	true	*6.1.37 ビデオ通話を無効にする*
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	Y	はい	デスクトップ - true モバイル、タブレット - false	*6.1.37 ビデオ通話を無効にする*
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	false	*6.1.36<1 38="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.38*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	0	*6.1.36<1 38="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.38*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	-1	*6.1.36<1 38="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.38*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	例 1 once_per_login	*6.1.36<1 38="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.38*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	Y	いいえ	false	*6.2.5.1 卓上電話制御通話 - 自動応答*
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.41 スパムコール通知*
%ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.42 PSTN/モバイル* コールのノイズ除去と帯域幅拡張
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	はい	Y	false	*6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	はい	Y	false	*6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	はい	Y	false	*6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット*
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット*
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット*
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	はい	Y	false	*6.1.47 同じユーザーとの同時通話*
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling* のみ)
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30.2 ボイスメールへの通話転送*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	はい	はい	true	*6.1.8.1 SIP フェールオーバー*
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.12 通話を移動*
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.42 PSTN/モバイル* コールのノイズ除去と帯域幅拡張
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	いいえ	はい	空	*6.3.5.1 ネイティブ ダイヤラーとの通話*
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	はい	Y	false	*6.1.20 転送*
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	はい	はい	true	*6.1.48 RTCP-XR*
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.50.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.50.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.50.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.50.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.50.1 発信者 ID*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.49 着信転送情報*
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	はい	いいえ	true	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	はい	いいえ	0	*6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド*
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	はい	いいえ	120	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	はい	true	*6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する*
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する*
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する*
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.51 複数回線*
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling)*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.5.36.3.5.3 発信通話回線アイデンティティ（CLID）*
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	はい	はい	解決済み	*6.1.50.2 リモート発信者 ID 名*
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.53 パーソナル アシスタント* (退席中)

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	いいえ	はい	NPS	*配信モード (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.52*
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%CALL_PULL_MODE_WXT%	はい	はい	ブラインド	*6.1.22 コール* プル
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	はい	いいえ	例 1 call_move () の例	*6.1.22 コール* プル
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.36 通話履歴*
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	false	
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	0	
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	-1	
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	例 1 once_per_login	
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT %	Y	Y	false	*6.1.54 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)*

タグ	デスクトップで使用されます	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	60000	*6.1.33.3 XSI イベント チャネル*

Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグを UC-One で使用されるものにマッピングする方法の詳細については、「*8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング*」を参照してください。

6.1 共通機能

6.1.1 SIP サーバー設定

クライアントは一般的に SIP ネットワークを使用するように設定されており、これは *config-wxt.xml* ファイルを変更することによって行われます。通常、次のパラメータを変更する必要があります。

- SIP ドメイン。これは、通常、SIP ヘッダーおよびリモート（XSI）コールでは、独自の SIP URI のドメイン部分（独自の SIP URI は回線ポートとも呼ばれます）として使用されます。独自の SIP URI のユーザ部分は、SIP クレデンシャル設定（ のパラメータ） から取得されます。
- DNS 解決に失敗する場合、SIP プロキシ サーバの SIP サーバ URI または IP アドレス。TLS を使用するには、TLS 証明書の検証が失敗するため、プロキシパラメータで IP アドレスを使用することはできません。プロキシ ポートの詳細については、DM タグ %SOURCE_PORT_WXT% を参照してください。プロキシ アドレス パラメータで IP アドレスが使用されている場合は、DNS TTL 管理機能を使用できません。通常、これらの理由から、このフィールドの IP アドレスを使用することは推奨されません。

他のパラメータを変更して、通話のさまざまな機能を有効にすることもできます。ただし、以前の設定では、次の基本機能を使用できます。

- SIP ネットワークに登録しています。
- 音声またはビデオ通話を行う。
- 複数のプロキシを使用できる DNS ベースのプロキシ検出の実行。

SIP 登録を有効にすると、MWI の SIP SUBSCRIBE を有効にするには、別の設定パラメータを使用して行う必要があります。ボイスメールの詳細については、「*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*」を参照してください。

基本的な SIP 設定は、SIP コールが無効になっている場合でも、MWI に常に必要です。MWI は SIP NOTIFY に依存します。

SIP サーバのセットアップは、次の基本スキームに従います。

- プロキシ アドレスには、SIP サーバ URI が含まれています。
- 定義できるプロキシは 1 つだけです。
- DNS プロキシ検出は、DNS の適切なセットアップを必要とする多くのプロキシをサポートします。

さらに、SIP タイマーは設定ファイルに公開されます（変更は推奨されません）。

```
<config>
<protocols>
<sip>
    <timers>
        <T1>500</T1>
```

```
        <T2>4000</T2>
        <T4>5000</T4>
    </timers>
```

- T1:ネットワーク往復遅延の時間（ミリ秒単位）。
- T2:招待されていない要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒単位）。
- T4 - メッセージがネットワークに残る最大時間（ミリ秒単位）。

各回線には、ボイスメール番号、会議 URI、ドメイン、および SIP 認証資格情報などのパラメータがあります。必要に応じて、401および407シグナリングに個別のクレデンシャルを設定できます。

次の例と表は、SIP 設定に使用される最も一般的な DM タグに関する情報を示しています。

```
<config>
<protocols><sip>
<lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
        <line>
                <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
                <name>%BWNAME-1%</name>
                <phone-number>%BWE164-1%</phone-number>
                <extension>%BWEXTENSION-1%</extension>
                <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
                <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
                <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
1%</conference-service-uri>
                <domain>%BWHOST-1%</domain>
                <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
                <credentials>
                        <username>%BWLINEPORT-1%</username>
                        <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                        <auth>
                                <auth401>
                                        <default>
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </default>
                                        <realm id="%BWHOST-1%">
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </realm>
                                </auth401>
                                <auth407>
                                        <default>
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </default>
                                        <realm id="%BWHOST-1%">
                                                <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                                <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                        </realm>
                                </auth407>
                        </auth>
                </credentials>
        </line>
        …
</lines>
```

```
<proxy address="%SBC_ADDRESS_WXT%" port="%SBC_PORT_WXT%" />
<preferred-port>%SOURCE_PORT_WXT%</preferred-port>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%BWLINEPORT-n%	空	文字列	通常、SIP ユーザ名。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: ジョンドー
%BWAUTHPASSWORD-n%	空	文字列	通常は SIP パスワード。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: 秘密パスワード
%BWE164-n%	空	電話番号	国際形式でユーザーのデフォルトの電話番号。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: 12345678
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: sbcexample.domain.com
%SBC_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: 5060
%BWHOST-n%	空	文字列	通常は SIP ドメインとして使用されます。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: exampledomain.com
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	通常、*preferred-port* パラメータに使用されます。 詳細については、「*6.1.7 SIP の優先ポート使用量*」を参照してください。 例: 5061

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%BWUSEREXTID-n%	空	文字列	（Webex Calling のみ）回線の外部 ID を保留します 詳細については、*6.1.51 複数回線* を参照してください。 例: 30f69bf7-710b-4cd0-ab4b-35ab393a1709

注: モバイル端末で標準 SIP ポート (5060) を使用する際に発生する既知の問題のため、SIP ポートを 5060 以外 (5075 など) にすることが強く推奨されています。

6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol

クライアントは、メディア暗号化に TLS を介した SIP シグナリングと Secure Real-time Transport Protocol（SRTP）を使用するように設定できます。ただし、次の例に示すように、これらの機能を設定で有効にする必要があります。動的 SIP プロキシ検出が使用される場合、DNS SRV 優先順位はこのようなスタティック パラメータ (%USE_TLS_WXT%) を上書きし、DNS SRV で優先順位が高い場合は、非 TLS 転送が使用されます。動的 SIP プロキシ検出の詳細については、「*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*」を参照してください。

動的プロキシ検出が使用されない場合、SIP に対して TLS を有効にすると、その検出が使用されます。

SIP ALG がネットワークで使用される SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』を参照してください。

使用する証明書は有効である必要があります。さらに、中間証明書もリンクされるように、証明書チェーンもそのままである必要があります。既定でデバイスにすでに存在できるように、広く使用されている証明書を使用することをお勧めします。手動または一括プロビジョニングを使用してローカルに証明書を追加することもできますが、通常は実行されません。

メディア暗号化に関連する SRTP を有効にするには、別の設定があります。

RTP に加えて、RTCP トラフィックは、前述の設定を使用して RTP と同じメカニズムで保護できます。

SIP/TLS 暗号については、*別紙A: TLS 暗号化*。

SRTP は、次の 3 つの異なる側面でメディア ストリームのセキュリティを提供するために使用されます。

- 機密性 (データは暗号化されています)
- 認証（相手側または相手の ID の保証）

- 整合性（再生攻撃などの対策）

メディアフレームワークの現在のバージョンでは、保護用の AES 128 カウンター モードと認証用の Hash Message Authentication Code（HMAC）SHA-1 がサポートされています。マスター キー サイズは 16 バイトで、マスター salt は 14 バイトです。

メディア フレームワークは、フル（80-bit）とショート（32-bit）認証タグの両方をサポートします。クライアントは SIP シグナリングの一部として SDP 内のキーを交換し、コールの両側は、使用しているキーをもう一方の側に送信します。

SRTP は、次の例に示す設定を使用して有効にできます。現在の実装では、SDP セキュア RTP プロファイルのみを使用し、Audio Visual Profile (AVP) および Secure Audio Visual Profile (SAVP) エントリ用のマルチライン SDP をサポートしています。SRTP 実装は、さまざまな SBC を使用して通常の展開構成で正常にテストされています。AVP プロファイルを使用した暗号化のみをサポートするエンドポイントとの相互運用性テスト (IOT) はサポートされていません。

複数の m 回線が常に使用されるように、SRTP に関連する複数回線 SDP 手順が実装されています。AVP と SAVP の個別の m 回線が使用されます。

ただし、SBC 構成に注意する必要があります。特に、SDP 内の RTP/SAVP に関連付けられている着信「M=」回線が削除されないようにする必要があります。特定のケースでは SRTP コールがブロックされる可能性があるため、SBC 構成に注意する必要があります。

ただし、いくつかの異なるネットワーク設定は可能ですが、一部の展開では SBC がメディア トラフィックに関与していない一方で、他の展開では SBC への各クライアント RTP メディア レッグは SBC 経由で個別に暗号化され、ネゴシエートされます。展開によっては、SBC では複数の SDP 回線を使用できません。

SBC は、通話セットアップ時に SDP m 回線の順序を変更して、AVP（非暗号化）または SAVP（暗号化）m 回線を最初に設定することもできます。したがって、最初の動作中の m 回線を選択するクライアントは、暗号化または非暗号化のトラフィックを選択します。さまざまな SRTP 設定オプションは次のとおりです。

- [必須(Mandatory)]:コールのセットアップ時に、最初の SDP は、オファーリング時に SAVP m 回線のみを含み、クライアントは応答時に SDP の SAVP m 回線のみを受け入れます。そのため、SRTP コールのみ可能です。
- [優先(Preferred)]:コールセットアップ時、最初の SDP には AVP と SAVP の M 回線の両方が含まれますが、SAVP は提供時に優先順位を示します。応答時に、最初の m 回線でない場合でも、クライアントは SAVP を選択します（SIP 仕様に従って、応答時に m 回線の順序は変更されません）。
- オプション - 通話セットアップ時、最初の SDP は提供時に SAVP と AVP の両方を含みますが、AVP は最初に優先順位を示します。応答時に、クライアントは最初の m-line、AVP、または SAVP を選択します。

- SRTP が有効になっていない – 提供時に最初の SDP に SAVP m-line がありません。応答時、SAVP は受け入れられないため、RTP コールのみ可能です。
- トランスポート - トランスポート プロトコルに基づいて SRTP モードを自動的に選択します。TLS が使用される場合、必須 SRTP モードが有効になります。TCP または UDP が使用される場合、SRTP は使用されません。

SRTP と RTP はコールの両方向で対称です。つまり、送信と受信のプロファイルが同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<secure>%USE_TLS_WXT%</secure>
```

```
<config>
<protocols><rtp>
<secure enabled="%SRTP_ENABLED_WXT%" mode="%SRTP_MODE_WXT%" rekey-
always="%ENABLE_REKEYING_WXT%"/>
```

SRTP が有効になっている場合、Secure Real-Time Control Protocol（SRTCP）も使用されます。

一部の展開では、SRTP の再キーはサポートされていません。したがって、SRTP 再キーを有効化/無効にするための設定パラメータがあります。ただし、更新された SDP で受信したときに、新しいキーは常に使用されます。rfc3264. 設定できは新しいキーの送信にのみ適用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_TLS_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SIP TLS は非アクティブになります。 「true」に設定すると、SIP TLS が有効になります。 *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出* が使用されている場合、このパラメータは無視されます。
%SRTP_ENABLED_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SRTP は非アクティブになります。 「true」に設定すると、SRTP がアクティブになります。
%SRTP_MODE_WXT%	オプション	必須、優先、オプション、輸送	コールセットアップでの SRTP の優先方法を定義します。 デフォルト値は “optional” です。
%ENABLE_REKEYING_WXT%	true	true、false	SRTP の SIP（SDP）再キーを有効にします。

注意: ICE サポートが有効になっている場合 (*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*)、再キーは常に実行されます (設定から %ENABLE_REKEYING_WXT% の値は無視されます)。

6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー

新しい3GPP 仕様では、Secure Real-time Transport Protocol（SRTP）を使用するために、追加の SIP ヘッダーが必要です。詳細については、*3GPP TS 24.229* と以下を参照してください。

https://tools.ietf.org/html/draft-dawes-dispatch-mediasec-parameter-07

この仕様で要求されるヘッダーは、この仕様が使用されていない展開での SIP 通話を中断する場合があります。したがって、これらのヘッダーは、サーバ側がサポートしている環境でのみ使用することを推奨します。

ヘッダーの使用のみ設定可能です。個々のヘッダーに対してこれ以上の設定を行うことはありません。すべてのヘッダーは有効または無効のいずれかです。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-mediasec enabled="%USE_MEDIASEC_WXT%"/>
```

次のタグは、この機能を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_MEDIASEC_WXT%	false	true、false	SRTP ネゴシエーションの 3GPP SIP ヘッダーを有効にします。

6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、SIP シグナリングと RTP メディアの両方に TCP、TLS、または UDP のいずれかを使用するように設定できます。クライアントのデフォルトは TCP です。TCP キープアライブがない場合、SIP TCP 接続は非アクティブ状態が続いた後に閉じられることに注意してください。

次の例は、この設定ノードを示しています。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
    <tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%</tcp-size-threshold>
```

次のタグは、クライアントが TCP または UDP を使用するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値 (バイト)	説明
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	0	0	TCP の使用を強制します。クライアントに TCP または UDP を使用するかどうかは、サービス プロバイダー次第です。ただし、デフォルト値「0」で TCP を使用することをお勧めします。
	0	1 - 99,000	メッセージ サイズがここで指定した値を下回る場合、UDP が使用されます。 メッセージ サイズが設定値より大きい場合、デフォルトは TCP になります。UDP を使用するには、1500 がデフォルトの推奨です。
	0	100000	UDP の使用を強制します。

同じ設定ノードには、次の例で示されている UDP、TCP、TLS キープアライブ用のパラメータもあります。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
        …
        <udp>
                <keepalive enabled="%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>20</timeout>
                        <payload>crlf</payload>
                </keepalive>
        </udp>
        <tcp>
                <keepalive enabled="%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tcp>
        <tls>
                <keepalive enabled="%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tls>
</transports>
```

使用可能なパラメータは次のとおりです。

- TCP または TLS キープアライブを有効にし、可能な値 true/false を有効にします。ノードが見つからない場合は、デフォルトは “false” です。この機能が有効になっている場合、SIP に UDP トランスポートが使用されている場合でも、TCP キープアライブが送信されることに注意してください。

- UDP キープアライブを有効にし、可能な値 true/false を有効にします。ノードが見つからない場合は、デフォルトは “true” です。この機能が有効になっている場合、TCP トランスポートが SIP に使用されていても UDP キープアライブが送信されることに注意してください。さらに、TCP が SIP に使用されている場合でも、クライアントは *RFC3261* に従って UDP 経由のトラフィックも受け入れます。
- タイムアウトは、キープアライブ メッセージを送信するまでの最大非アクティブ時間を秒単位で指定します。値なしとは、プロトコルでキープアライブが無効であることを意味します。
- キープアライブ メッセージのペイロード、可能な値（プロトコルでキープアライブが無効であることを示す値はありません）。
  - CRLF
  - Null（使用しない）
  - カスタム文字列 (使用不可)

キープアライブは、NAT トラバーサル目的で使用して、NAT バインディングを少し余分なトラフィックでオープンに保つことができます。

キープアライブ用のサーバ IP アドレスとポートは、SIP プロキシ検出の通常の手順を使用して決定されます。SIP 動的プロキシ検出で取得された SIP ポートと、トランスポート プロトコルの選択は、静的ポートまたはトランスポート設定よりも優先されることに注意してください。動的プロキシ検出の詳細については、「*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*」を参照してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	true	true、false	UDP トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	false	true、false	TCP トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	false	true、false	TLS トランスポート用のキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。

6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト

以前は、SIP ソケットを開くタイムアウトは、TCP の場合は 5 秒、TLS の場合は 10 秒にハードコード化されていました。これらのタイムアウトは設定可能になりました。

```
<config>
```

```
    <protocols>
        <sip>
            <transports>
                <udp>
                    …
                </udp>
                <tcp>
                    …
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
                </tcp>
                <tls>
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
                </tcp>
            </transports>
```

以下のタグは、ソケット接続のタイムアウトを制御します（ミリ秒単位）。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	5000	- タイムアウト (ミリ秒単位)	表 1TCP設定オプション
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	10000	- タイムアウト (ミリ秒単位)	TLS トランスポートが使用されている場合のソケット接続のタイムアウトです。

6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出

SIP 動的プロキシ検出機能を有効にするには、次の例を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy-discovery enabled="%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%” tcp=”%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%"
udp="%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%" tls="%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%">
    <record-name>%SBC_ADDRESS_WXT%</record-name>
    <domain-override>%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%</domain-override>
</proxy-discovery>
```

DNS SRV からのトランスポート プロトコル エントリは、このセクションに記載されている手順に従って、多くが使用可能な場合に制御できます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ コールに対してダイナミック SIP プロキシ検出を有効にします。 推奨値は “true” です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	この Cisco BroadWorks タグは、通常、record-name パラメータに使用されます。有効な URL である必要があります。IP アドレスである必要はありません。 詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: sbc.domain.com
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	空	文字列	このカスタム タグは、ドメイン オーバーライドに使用されます。詳細については、次のセクションを参照してください。 例: other.domain.com
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（TCP）の DNS SRV 結果が破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（TCP）の DNS SRV の結果が使用されます。SRV の優先順位によっては、別のトランスポートを選択することもできます。
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV 結果が破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV の結果が使用されます。SRV の優先順位によっては、別のトランスポートを選択することもできます。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS SRV 結果が破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS の結果が使用されます。SRV の優先順位によっては、別のトランスポートを選択することもできます。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	true、false	true	DNS バックアップ サービスを有効/無効にします。有効にすると、SIP プロキシ アドレスに対して A/AAAA 解決が実行されます。SRV/NAPTR サービス ディスカバリが有効になっている場合にのみ考慮されます。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	true、false	true	「true」に設定し、NAPTR サービス ディスカバリが失敗した場合、または結果を返さない場合、設定されたホストに対して SRV サービス ディスカバリが実行されます。「false」に設定すると、SRV 検出は実行されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	true、false	false	OS DNS キャッシュのバイパスを許可します。

DNS を使用すると、クライアントは RFC 3263 に従って、SIP プロキシの IP アドレス、ポート、およびトランスポートプロトコルを取得できます。

DNS SRV、Naming Authority Pointer (NAPTR) および A レコードクエリがサポートされています。ログイン時、3-stepフローは次のとおりです。

1. 上記　フィールドを使用して NAPTR クエリを実行し、トランスポート プロトコルでサーバー URI を取得します。 パラメータの値は、DNS が解決する全ドメインである必要があり、IP アドレスにはできません。

2. 最終サーバ URI とポートを取得するために、SRV クエリを使用して NAPTR クエリで見つかった項目を解決します。SRV クエリーで使用されるドメイン部分は、最後のサーバ URI（およびポート）を検索するために、NAPTR クエリーの結果から取得されます。DNS SRV クエリから受信したポートは、DNS SRV エントリが利用可能な場合に使用されます。設定ファイルからのみポートは、設定ファイル内のスタティック プロキシに適用され、SRV を使用して解決された URI には適用されません。さまざまなレコード名の使用については、次の例を参照してください。

   NAPTR が見つからない場合、クライアントは　パラメータから取られたレコード名で　パラメータが存在しない限り、 が使用され、TCP、UDP、および TLS (_sip_protocol [UDP、TCP、または TLS]) の個別のエントリを検索しようとします。Stream Control Transmission Protocol（SCTP）はサポートされていないことに注意してください。SRV クエリで結果が得られない場合、プロキシ ディスカバリは失敗し、コールが利用できないことを示すエラーが表示されます。この場合、SIP 登録はありません。However, even if all SRV queries fail or if the servers received there do not work, as a fallback, the client still checks if the configured static proxy works, only with A-queries to the URI specified in <proxy address> in order to see if it yields an IP address that provides a working SIP registration. この最後のリゾート ケースでのポートとトランスポートは、tcp-threshold および　パラメータから取得されます。

3. A レコードクエリを使用して見つかった URI を解決します。受信した最終的な IP アドレスは、SIP プロキシへの有効な接続を取得するために受信した順番で試行されます。この注文は、DNS でサービス プロバイダーによって定義できます。A レコードルックアップが成功する最初の SIP プロキシ URI が選択され、それが機能しなくなるか、クライアントがログアウトされるまで使用されます。A クエリの手順では、複数の受信者がいても、一度に 1 つの IP アドレスだけが使用されます。ただし、すべての SRV エントリは、ログアウトまたはネットワークが失われるまで解決されます。

重要 メモ

> **注意1**: DNS プロキシ検出で、トランスポート プロトコル用の動作する SIP プロキシ URI を受信することにより、SRV ステップでトランスポート プロトコルの選択結果が

生じた場合、構成ファイルで UDP または TCP を選択するために一般的に使用される *tcp-threshold* パラメータを上書きします。SIP/TLS の設定にも同じことが適用されます。TCP または UDP は、DNS の優先度に応じて使用されます。

注意2: SRV 経由で受信された項目は、設定ファイルのスタティックプロキシよりも優先されます。NAPTR 順序は表示されません。SRV 優先度カウントのみです。SRV が同等のトランスポートプロトコル、優先順位、および重みを持つ複数の項目が表示される場合、受信した項目はランダムに選択されます。NAPTR の重み付けはこのリリースではサポートされていませんが、SRV の重み付けがサポートされています。SRV 優先順位が最初に確認され、同じ優先順位を持つ項目については、特定のサーバが次に試行される確率を決定するために重み付けが行われます。

注意3: オプション *domain-override* パラメータでは、NAPTR の結果が省略されたときに、SIP ドメイン設定パラメータ内の A レコード名以外の A レコード名を SRV で解決できます。*domain-override* パラメータの使用については、次の例を参照してください。

注意4: クライアントは DNS 操作にオペレーティング システムのプリミティブを使用し、通常、DNS 応答は DNS 応答の TTL に準拠するためにキャッシュされます。

注意5: NAPTR レコードの DNS タイプ (サービス) は *RFC 3263*手順に従う必要があります。そうしないと、DNS の解決に失敗する可能性があります。たとえば、SIP OVER TLS には SIPS+D2T を使用する必要があります。

注意6: クライアントは、NAPTR サービスの特定のプレフィックスのみをサポートします。サポートされているプレフィックスを次に示します。

SIP+D2U ->_sip._udp

SIP+D2T ->_sip._tcp

SIPS+D2T ->_sips._tcp

SIPS+D2T ->_sips._tls

NAPTR 応答にサービス タイプに一致しないプレフィックスを持つレコードが含まれている場合、このレコードは無視されます。

例 1: ドメインオーバーライド設定パラメータなしで DNS プロキシ検出を使用する

以下は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返した場合の SIP プロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" >
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順になります。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.
3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して、IP アドレス 1.2.3.4 に対して TCP を介して行われます。

例 2: 設定ファイルのドメインオーバーライド パラメータの使用

以下は、SIP ドメインがプロキシドメインと異なり、UDP 経由の SIP のみが使用され、NAPTR クエリでは結果を返さない、SIP プロキシ検出を使用した設定の 2 番目の例です。

```
<config>
<protocols><sip
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順が実行されます。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, no answer.
2. SRV query for _sip._tcp.override-domain.com (from configuration file), answer
_sip._tcp.override-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.override-domain.com.
3. A-record query for test.override-domain.com, answer:
test.sipgeooverride-domain.com. 16 IN A 4.3.2.1
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して、IP アドレス 4.3.2.1 に対して UDP 上で行われます。

例3: **SRV** の優先順位を使用する

以下は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返す場合の SIP プロキシ検出を使用した設定の別の例です。ただし、優先順位が異なる複数の NAPTR と SRV レコードを受信します。この場合、異なる優先順位を持つ複数の NAPTR レコードも受信されますが、このリリース イベントでは SRV 優先事項のみが受信されます。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順が実行されます。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 120 10 "S" "SIPS+D2U" "" _sip._udp.test.sip.record-domain.com.

2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

SRV query for _sip._udp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR query),
answer
_sip._udp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
20 10 5062 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して TCP を使用し、UDP と TCP の両方をサポートする IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

例4: サービスがサービス タイプに一致しない場合に NAPTR で DNS プロキシ検出を使用する

以下は、TCP および TLS を介した SIP が使用され、ステップ 1 で NAPTR クエリが結果を返した場合の SIP プロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" tcp="true" udp="false" tls="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順になります。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tls.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.

2. For the first record we have service type "SIPS+D2T" and the prefix is
"sip._tls.". Since this prefix doesn't match the service type (see Note 6 above)
it will be ignored.

3. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して、IP アドレス 1.2.3.4 に対して TCP を介して行われます。

6.1.7 SIP の優先ポート使用量

デフォルトの SIP ポートを占有しているクライアントと同じマシン上で別のソフトウェア パッケージが実行されている場合がありました。SIP に別のポートを使用するようにクライアントを設定するには、*preferred-port* パラメータを使用できます。クライアントは、*preferred-port* パラメータで指定された設定されたポート値を使用しようとしますが、実行された場合、クライアントは設定された値を超えるポート値を段階的に試行します。たとえば、*preferred-port* の値が “6000” で、そのポートが取られた場合、クライアントは未使用のポートを見つけるまで、6001、6002、6003 などを試みます。未使用のポートが見つかると、それを独自の SIP 通信に使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	通信用の優先ローカル SIP ポートを指定します。 例: 5060

6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック

SIP フェールオーバーとフェールバックは、Cisco BroadWorks の手順に従います。このためには、複数のプロキシ (通常は SBC) を設定する必要があります。

クライアント側では、プロキシは複数の IP アドレスに解決する必要があります。次のいずれかの方法でこれを実現できます。

- SIP プロキシ検出が有効で、DNS サーバーには SBC FQDN の NAPTR および/または SRV レコードがあります (セクション *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*を参照)。
- SIP プロキシ アドレスは FQDN として提供され、複数の IP アドレスに解決されます (セクション *6.1.1 SIP サーバー設定*を参照)。

オペレーティング システムの DNS キャッシュは、不要な DNS トラフィックを回避するために使用されます。リスト内の IP アドレスの最大数には、
ハードコードされた制限はありません。

サインイン時に、複数の IP アドレスが解決されると、優先順位の順に並べられます。クライアントは、最初に利用可能な IP アドレスを使用し始めます。

6.1.8.1 SIP フェールオーバー

SIP フェールオーバーは、次のようにサーバからのソケット エラー、リクエスト タイムアウト エラー、または最終エラー応答のいずれかによってトリガーされる場合があります。

- ソケットエラー:ネットワーク接続の損失の場合と同様に、クライアントとサーバ間のソケットが壊れているか、閉じている場合、クライアントはすぐに反応し、フェールオーバーをトリガーします。
- タイムアウト（SBC がハングする場合など） - SIP T1に基づく。
  - SIP INVITE:INVITE 要求がタイムアウトした場合、クライアントは次に利用可能な SBC (IP) に登録し、INVITE を再試行します。
  - 別の SIP リクエスト - クライアントは次に利用可能な SBC (IP) に登録しようとします。
- サーバーから最終エラー応答を受信しました:
  - サーバから SIP REGISTER への次の SIP エラー応答は、フェールオーバーをトリガーします。
    - 5xx
    - 6xx
  - SIP REGISTER に対する次の SIP *4xx* 応答は、フェールオーバーを引き起こしません 。
    - 401 権限がありません
    - 403 Forbidden
    - 404 見つかりませんでした
    - 407 プロキシ認証が必要です
    - 423 間隔が短すぎます
  - さらに、SIP INVITE への *4xx* エラー応答はフェールオーバーをトリガーするのではなく、*5xx* および *6xx* do をトリガーします。

フェールオーバーがトリガーされると、クライアントはリストから次に利用可能な IP アドレスを取得します。SIP T1 タイマーは、リスト上のプロキシが次のプロキシに移動するまでの時間を定義します。通常、32 秒値が使用されます (64*T1)。すべての IP アドレスが失敗した場合、クライアントは SIP 接続のユーザ インターフェイス エラーを表示します。フェールオーバーが発生したときに VoIP コールが進行中の場合、コールは終了します。

SIP フェールオーバー ロジックは、いくつかの設定パラメータに依存します。

- SIP フェールオーバー タイマー:SIP タイマーT1、T2、およびT4は設定ファイルに表示されますが、変更は推奨されません。

```
<config><protocols><sip>
<timers>
    <T1>500</T1>
    <T2>4000</T2>
    <T4>5000</T4>
```

```
</timers>
```

- T1:ネットワーク往復遅延の時間（ミリ秒単位）。
- T2:招待されていない要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒単位）。
- T4 - メッセージがネットワークに残る最大時間（ミリ秒単位）。

- SIP プロキシ アドレスと SIP プロキシ 検出
  - 「*6.1.1 SIP サーバー設定*」を参照してください。
  - 「*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*」を参照してください。
- フェールオーバー設定を登録 (次を参照)

フェールオーバーの場合、Webex アプリケーションは 2 つの Contact ヘッダーで SIP REGISTER を送信します。1 つは古いセッション用で、2 つは新しいデバイス情報で、2 つは新しいデバイス情報で SIP REGISTER を送信します。古いセッションの Contact ヘッダーが含まれており、データをクリーンアップするように SBC に通知します。このヘッダーには expires=0 と q=0.5 が含まれます。

新しいデバイス情報の Contact ヘッダーにも q 値があります。これは タグから読み取られます。 タグの値は、特定の連絡先アドレスの優先順位または優先順位を示すために使用されます。0から1までの範囲で、1が最も優先され、0が最も低くなります。このタグには、値を制御するためのカスタムタグがありません。これは1にハードコードされています。展開で使用される SBC に逆ロジックがあり、最大優先度で q = 0.0 を扱う場合、この値は手動で調整できます。

リリース42.11から、新しい セクションが構成テンプレートに導入されます。アプリケーションが古いデバイス情報をクリーンアップするために連絡先ヘッダーを送信するかどうかを制御するために、新しい構成可能なパラメータ が追加されました。一部の SBC は、ソケット切断時にすぐに古いセッションをクリーンアップするため、古いセッションの Contact ヘッダーが存在する必要はありません。デフォルトでは、登録のクリーンアップ ロジックが有効になっています。

一貫性のために、 タグも同じ セクションの下に移動されます。

例:

```
<config>
<protocols><sip>
   <q-value>1.0</q-value> <!-- DEPRECATED -->
   <register-failover>
      <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-cleanup>
      <q-value>1.0</q-value>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	true	true、false	SIP フェールオーバーの場合に古いデバイス情報のクリーンアップを制御します。

6.1.8.2 SIP フェールバック

クライアントが優先順位の高いプロキシに接続されている場合、優先順位の最も高い IP への再接続を試みます。フェールバックの時間は、DNS TTL 管理の設定に基づいています (セクション *6.1.8.4 DNS TTL 管理*を参照)。フェールバック タイマーに達したときにコールが進行中の場合、クライアントは、すべてのコールが完了するまで待機し、フェールバック 手順をトリガーします。SIP 接続がモバイルのコール中にのみアクティブになっているため、これはデスクトップ クライアントでのみ有効です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	true	true、false	SIP フェールバックを有効または無効にします。
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	900	について 60	SIP フェールバック タイムアウト（秒単位）。
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	false	true、false	SIP フェールバックのランダム期間 [0-10]% を追加します。

6.1.8.3 IP バージョンの強制

Webex クライアントは、DNS を通じて解決済みホストのリストを注文し、SIP フェールオーバーの場合に繰り返し実行する方法を設定できます。すべてのモードでは、優先順位と重み付けが尊重されます。

サポートされている構成:

- dns - DNSクエリにより返されたすべてのアドレスを使用
- ipv4 - IPv6アドレスをフィルタリングする
- ipv6 - IPv4アドレスをフィルタリングする
- prefer-ipv4:IPv4アドレスをIPv6（リリース42.9）前に注文します。
- prefer-ipv6:IPv6アドレスをIPv4（リリース42.9）前に注文します。
- nat64 - IPv6 アドレスを無視し、IPv4 アドレスを順序付けする（リリース 44.2）

環境/ネットワークの設定に異なるモードが必要でない限り、デフォルト値 (dns) を使用することを推奨します。

「dns」設定では、指定されたホストのIPv4アドレスがIPv6よりも優先されます。IPv4 と IPv6 アドレスの両方を持つホストが 2 人いる場合、順序は IPv4(host1)、IPv6(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host2) です。

「prefer-ipv4」モードでは、IPv4アドレスはIPv6アドレスの前に順序付けされます（IPv4およびIPv6グループ内の順序は残ります）

例: IPv4(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host1)、IPv6(host2)。

「prefer-ipv6」モードでは、順序は反対です。IPv6アドレスは IPv4 アドレスの前に配置されます。

例: IPv6(host1)、IPv6(host2)、IPv4(host1)、IPv4(host2)。

「nat64」モードでは、IPv6アドレスは無視され、IPv4順序は尊重されます。IPv6 プレフィックスが検出されます。各 IPv4 アドレスに対して、各 Pref64 プレフィックスおよび/またはサフィックスとの組み合わせが作成されます。

例: Pref64(1)::IPv4(host1), Pref64(2)::IPv4(host1)::Suff64(2), IPv4(host1)::Suff64(3), Pref64(1)::IPv4(host2), Pref64(2)::IPv4(host2)::Suff64(2), IPv4(host2)::Suff64(3).

```
<config>
<protocols><sip><transports>
<enforce-ip-version>%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%</enforce-ip-version>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	DNS	ipv4 ipv6 DNS 優先 ipv4 優先 ipv6 nat64	Webex クライアントが SIP セッションに接続するために使用する IPv4/IPv6 アドレスの順序を制御します。

6.1.8.4 DNS TTL 管理

現在使用されているサーバの DNS レコードの TTL が期限切れになったときに、DNS 解決を再実行する方法を管理するために、別の設定パラメータが追加されました。次の表のパラメータを有効にすると、現在使用されているサーバの DNS SRV または A レコードの TTL が期限切れになると、クライアントは DNS 操作を強制的にやり直します。

DNS 解決を再実行した後、このパラメータは、現在の接続が完全に動作している場合でも、現在使用されているサーバと異なる場合に、クライアントが受信した最上位優先順位サーバに再接続するように強制します。ただし、再接続は、進行中のコールが終了した後にのみ行われます。

サーバ A レコードと SRV レコードの TTL が異なる場合、小さい値が選択されます。

このパラメータが無効になっている場合、TTL が期限切れになると DNS 操作は再実行されず、15 分ごとに実行されます。

このパラメータは、SIP でのみ機能します。

プロキシ アドレス パラメータで IP アドレスが使用されている場合は、DNS TTL 管理機能を使用できません。

> **注**: モバイル クライアントは通話中に SIP 接続のみを使用しているため、これはデスクトップのみの機能です。

```
<config>
<protocols><sip>
<refresh-on-ttl enabled="%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%"
  use-random-factor="%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	false	false、true	「false」に設定すると、SIP に対して DNS TTL 管理が無効になります。 「true」に設定すると、SIP に対して DNS TTL 管理が有効になります。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"	false	false、true	有効な場合、DNS TTL に 0 ～ 10% のランダム期間を追加します。

> **注**: DNS への要求のスパイクや、アプリケーション サーバへの再接続のスパイクを防ぐために、DNS TTL ランダムファクターを有効にすることを強くお勧めします。

6.1.9 SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新および SUBSCRIBE 再試行

Communicator は、SIP SUBSCRIBE と REGISTER の更新間隔の設定をサポートしています。SIP SUBSCRIBE の場合、更新間隔（秒単位）と、エラーがある場合に SIP SUBSCRIBE を再試行するまでの待機時間（秒単位）には別のパラメータがあります。*subscription-retry-interval* の推奨最大値は 2000000 秒で、負値、0、または空の値は 1800 秒が使用されます。サブスクライブ更新に負の値を指定すると、*Expires* ヘッダーが消去され、ワンオフの SUBSCRIBE が作成されます。

クライアントが提案する SIP REGISTER 更新タイマーは秒単位で設定できますが、SIP 仕様に従って、サーバは値をオーバーライドできます。現在、クライアントは、常に設定された値を使用する代わりに、後で更新するためにサーバによって提案された値を記憶しています。

最後に、SIP セッションの有効期限値（SIP INVITE および SUBSCRIBE 用）も設定できます（秒単位）。

```
<config>
<protocols><sip>
<subscription-refresh-interval>10800</subscription-refresh-interval>
<subscription-retry-interval>60</subscription-retry-interval>
<registration-refresh-interval>300</registration-refresh-interval>
<session>
       <expires-value>3600</expires-value>
</session>
```

6.1.10 登録で P-Associated-URI を使用する

次のパラメータは、関連する *200 OK* 応答を登録および処理するときに使用されます。

パラメータが「false」に設定されている場合、クライアントは *P-Associated-URI* を使用せず、代わりに独自の SIP URI の ID を使用します。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-alternative-identities>%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%</use-alternative-
identities>
```

パラメータが「true」に設定されている場合、クライアントは、すべての発信 SIP リクエスト (INVITE、SUBSCRIBE、CANCEL、INFO、および REFER) の最後の *P-Associated-URI* ヘッダーから独自の ID を REGISTER の *200 OK* 応答から取得します。さらに、これらの URI は連絡先リストに連絡先として表示されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	false	true、false	SIP REGISTER で代替 ID の使用を有効にします。 「true」に設定すると、クライアントは発信 SIP 要求の最後の *P-Associated-URI* ヘッダーから独自の ID を取得します。 “false” に設定すると、発信 SIP 要求の独自の ID が自身の SIP URI から取得されます。

6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー

SIP *P-Early Media* (PEM) ヘッダーは、たとえば、信頼ドメイン内の IMS 環境で使用して、ネットワークが複数の SIP アーリー メディア ダイアログを承認できるようにすることができます。たとえば、別のネットワークがすべてのアーリー メディアを許可する場合などです。

設定パラメータにより、SIP シグナリングでのアドバタイジング PEM サポートが有効になります。実際の初期のメディア処理ロジックは、サポートされている PEM ヘッダー値で対応する PEM と非 PEM ケースの両方で同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-p-early-media>%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%</support-p-early-media>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	false	true、false	SIP シグナリングでクライアントのアドバタイジング PEM サポートを有効にするには、「true」に設定します。 SIP シグナリングでのクライアント広告 PEM サポートを無効にするには、「false」に設定します。

6.1.12 SIP 更新のサポート

SIP の更新は、たとえば、代替の RE-INVITE の代わりに、一部の IMS 展開で必要です。クライアントはメディア ストリームのセットやコーデックなどのセッションのパラメータを更新することができますが、SIP ダイアログの状態には影響しません。

一般的な使用事例は、たとえば、リングバックトーンとプレアラートを同時に使用する場合に、初期のメディアに関連しています。

SIP 更新は現在、ダイアログ前の使用事例 (早期メディア) で受信し、アクティブなダイアログ中にない場合にのみサポートされています。たとえば、再招待がまだ使用されているコールの保留/再開の場合。

このリリースでは、SIP UPDATE (メディア変更) を使用して音声にビデオを追加することはできません。また、クライアントはリソース予約による完全な IMS ロングコールフローをサポートしていません。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-update enabled="%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SIP UPDATE サポートが無効になります。 「true」に設定すると、SIP UPDATE サポートが有効になります。

6.1.13 レガシー SIP INFO FIR

このクライアントは、SIP INFO メディア制御リクエストを介してビデオ キーフレームをリクエストするレガシー方式をサポートします。一部のデバイスで RTCP-FB FIR への応答に問題があり、場合によっては RTCP がリモート エンドポイントに転送されないため、ビデオなしまたは一方向ビデオにつながる場合があります。詳細については、「*RFC5168*」を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<force-sip-info-fir enabled="%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが無効になります。 「true」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが有効になります。

6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理

クライアントは、NAT トラバーサルに SIP rport メカニズムを使用するように設定できます。通常、NAT トラバーサル用の唯一のソリューションではなく、SBC は主にこの目的で使用されていることに注意してください。rport 仕様の説明については、*RFC3581* を参照してください。

ネットワークで SIP アプリケーション レイヤー ゲートウェイ (ALG) が使用される場合の SIP ポートおよびトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』を参照してください。

「rport」文字列は、設定に関係なく、常に発信 SIP 要求に存在することに注意してください。このパラメータは、SIP の「受信済み」および「rport」ヘッダーでサーバから受信した IP アドレスとポートの使用にのみ影響します。この機能が有効な場合、「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーの値が SIP 要求の SIP Contact ヘッダーで使用されます（「received」ヘッダーが REGISTER 応答に欠落している場合でも）。

Preferred-port パラメータは、SIP Contact ヘッダーで使用されるポートを定義するものに関連しています。SIP ポートの割り当ての詳細については、「*6.1.7 SIP の優先ポート使用量*」を参照してください。

クライアント ソケットのローカル ポートを *Contact* ヘッダーで設定するように強制する、別の設定パラメータ *use-local-port* があります。これは、（*Contact* ヘッダーから）クライアントに実際の IP があることを検出する一部の SBC で使用され、SBC はリクエストに対してクライアントに別のソケットを確立しようとします。ほとんどの場合、ファイアウォールは SBC とクライアントの間に配置され、クライアントへの着信接続を拒否します。

> **注意**: IPv6 環境では、すべてのアドレスが本物であり、SBC はリスニング クライアント アドレス (*連絡先* ヘッダーから) への接続を確立しようとします。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-rport enabled="%ENABLE_USE_RPORT_WXT%" use-local-
port="%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ コールに対して rport を有効にします。
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	false	true、false	クライアントのソケットのローカル ポートを SIP *Contact* ヘッダーに追加するかどうかを制御します。

6.1.15 SIP セッション ID

有効にすると、初期登録時にローカルセッション ID が生成されます。セッション ID は、そのデバイスの接続/セッションの有効期間、すべてのアウトオブ通話ダイアログ、登録、サブスクライブ、通知などに使用されます。バインディングが失われるまで同じセッション ID が使用されます。登録バインディングが失われると（DNS ルックアップ、接続リセット、電話機のリセットなど）、新しいローカル セッション ID が生成されます。

セッション ID の値は、そのデバイスに関連付けられた一連のダイアログを検索するために使用できます。

```
<config>
<protocols><sip>
<sip-sessionid enabled="%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	false	true、false	SIP セッション ID の使用を制御します。

6.1.16 着信通話拒否の動作

クライアントは、*486* または *603* とのコールを拒否する柔軟性を提供します。

クライアントが*603 拒否*を使用してコールを拒否するように設定されている場合、話中転送および無応答時転送サービスは期待通りに機能しないことがあります。

```
<config>
<services><calls>
<reject-with-486 enabled="%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	true	true、false	着信 SIP コールを拒否するために使用される SIP エラー コードと理由を制御します。有効にすると、*486 一時的に使用できません* が使用されます。それ以外の場合は、*603 拒否* が使用されます。

6.1.17 リアルタイム トランスポート プロトコル ポート範囲

クライアントは、Real-Time Transport Protocol（RTP）ストリームに定義されたポート範囲を使用するように設定できます。これは、SRTP にも適用されます。この設定は、次の例に示すタグを使用して、音声とビデオ ストリームの両方のポート範囲制限値を設定することによって行われます。

```
<config>
<protocols><rtp>
<preferred-audio-port-start>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%</preferred-audio-port-start>
<preferred-audio-port-end>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-audio-port-end>
<preferred-video-port-start>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%</preferred-video-port-start>
<preferred-video-port-end>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-video-port-end>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	8000	1 つの電話番号	音声ポート範囲の開始。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	8099	1 つの電話番号	音声ポート範囲の終了。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	8100	1 つの電話番号	ビデオポート範囲の開始。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	8199	1 つの電話番号	ビデオポート範囲の終了。

注: ポート範囲が重複しないように設定する必要があります。

6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)

クライアントは、エンドポイント間のメディア パスの最適化（ピアツーピア）を可能にする Interactive Connectivity Establishment（ICE）ネゴシエーションをサポートします。これは、データ遅延を削減し、パケット損失を削減し、アプリケーションを展開する運用コストを削減するために行われます。

現在の実装は STUN サーバをサポートしていますが、TURN はサポートされていません。

ICE サポートが有効になっている場合、SRTP のキーは常に実行されます (セクション *6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol* を参照してください)。

リリース44.5以降、WebexアプリはIPv6を使用してNAT64.を介したICEのサポートを追加します。

```
<config>
<protocols><rtp>
   <ice enabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
        enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
        mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
        service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
        port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	false	true、false	ICE サポートを有効/無効にします。
%RTP_ICE_MODE_WXT%	アイステン	アイステン	ICE サポートモード。現在、サポートされている唯一の値は “icestun” です。
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	（音声なし）	有効な STUN サーバー URI または (空)	STUN サーバー URI。
%RTP_ICE_PORT_WXT%	3478	番号 (0-65535)	STUN サーバー ポート。
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	false	true、false	ICE over IPv6. を有効にします。

6.1.19 RTCP MUX

RTCP MUX は設定可能です。この機能により、クライアントは RTP と RTCP に対して同じポートを使用します。SIP/SDP シグナリング レベルでは、回線 a=rtcp-mux が SDP に追加されます。さらに、さまざまなモードが可能です。

- 後方互換モード（つまり、回線 a=rtcp-mux は SDP に表示されません）
- 多重モード（a=rtcp-mux 回線は SDP で 2 回表示されます。 m=音声セクションで 1 回、m=ビデオセクションで 2 回目)

ビデオと音声は同じポートを使用しません。

```
<config>
<protocols><rtp>
<mux enabled=”%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%”/>
```

RTCP MUX は SRTP コールで使用できないことに注意してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	true	true、false	RTPC MUX を有効にするには、「true」に設定します。 RTCP MUX を無効にするには、「false」に設定します。

6.1.20 転送

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、在席中（コンサルタティブ）、セミコンサルタティブ、ダイレクト（ブラインド）コール転送をサポートします。

セミコンサルタティブコール転送を使用すると、発信者はコールがリモート呼び出し先にピックアップされる前に転送を完了できます。着信側で呼び出し音が開始され、対応する SIP 通知 (*180 呼出音*) が発信者側で受信された後にのみ、semi-consultative completion ボタンが有効になります。ブラインド転送は UI で「今すぐ転送」と呼ばれます。

> **注意**: SIP *180 呼出音* は、一部の環境、一部の番号、一部のクロスサーバー通信シナリオでトリガーされない場合があります。

Webex アプリのリリース43.9 では、同じタイプの別のスタンドアロン進行中のコールへの転送が導入されます。Webex アプリで終了した通話は、ローカル エンドポイントで終了した他の通話に転送できます。また、リモート デバイスで終了したコールは、リモート エンドポイントで終了したコールに転送できます。この機能には設定可能なオプションがありません。

リリース43.12以降、Webex アプリは、[転送（Transfer）] メニュー項目が選択されているときに、現在の通話を自動的に保留にするかどうかを制御するための設定オプションを追加します。この動作は新しい *自動保留* 属性によって制御されます。デフォルトでは、自動保留は無効になっています。

```
<config>
<services><calls>
   <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
                  auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、コール転送が有効になります。 「false」に設定すると、コール転送が無効になります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	別のロケーションで終了したリモート（XSI）コールの転送オプションを有効にします。
%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%	満員	トークファースト、ブラインド、フル	BroadWorks 構成でユーザーが利用できる転送タイプを指定します。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	false	true、false	ユーザーが通話中の画面メニューから [転送] オプションを選択したときに、アクティブコールが自動的に保留されるかどうかを制御します。

6.1.21 N 方向電話会議

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの SIP 経由のアドホック（N-Way）会議コールの可用性を制御できます。さらに、N ウェイの所有者は、SIP SUBSCRIBE/NOTIFY および会議イベント パッケージを介して参加者の完全なリストを確認できます。所有者のクライアントは、電話会議 URI への INVITE に応答して送信された [OK] メッセージの SIP *Contact* ヘッダーを介して、SIP SUBSCRIBE を SIP の *200Contact* ヘッダー経由で送信する URI を学習します。参加者の場合、前のコール情報通知に同じ情報が記載されています。

Cisco BroadWorks システム設定 (*maxConferenceParties)* は、会議の参加者の最大数を設定するために使用されます。特定の通話について、ユーザーが「参加者の追加」通話中コントロールオプションまたは Cisco BroadWorks N way Calling 機能を通じて利用または追加できるアクティブな同時通話相手の数を示します。

この情報は、次のコマンドライン インターフェイス（CLI）コマンドを使用して、アプリケーション サーバ（AS）から取得されます。

```
AS_CLI/SubscriberMgmt/Policy/CallProcessing/Conferencing> get

Example output:
maxConferenceParties = 6
conferenceURI =
```

maxConferenceParties の値を取得したら (4 ～ 15 の範囲があります)、*%MAX_CONF_PARTIES_WXT%* タグを適宜設定する必要があります。

リリース45.7では、Webex Calling を排他的に展開するために、Webex アプリケーションは、ホストと 1 人の追加参加者がコールに残っている場合に、Nwayアドホック会議コールから1:1 コールセッションへの自動移行をサポートします。この拡張機能の有効化を制御するために、新しい構成可能なオプション (*ドロップツーパーティ会議*) が追加されました。

```
<config>
<services><calls>
```

```
<conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%">
    <subscribe-conference-info enabled="%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%"/>
    <max-nway-participants>%MAX_CONF_PARTIES_WXT%</max-nway-participants>
    <drop-two-party-conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
</conference>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	ユーザに対して [会議（Conference）] オプションを有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	false	true、false	[true] に設定すると、N 方向所有者参加者リストが有効になります。 [false] に設定すると、N 方向所有者参加者リストが無効になります。
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	10	4と15の間の番号 （音声なし）	10 など、クライアントによって強制される最大の N 方向参加者番号を指定します。サーバー側には独自の制限があります。 値が空の場合、クライアント側の N 方向参加者の制限を強制的に無効にします。
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	false	true、false	（Webex Calling のみ）アドホック会議コールを 1:1 コールセッションに変換するかどうかを制御します。これは、2 人の参加者が会議コールに残っている場合に限ります。

6.1.22 コール プル

Webex アプリはコール プルをサポートしています。これにより、ユーザーは自分のデバイスで終了したリモート コールを現在のデバイスに移動できます。継続中のコールがない場合でも、ユーザが使用できるスタティック（ブラインド）コール プル オプションがあります。

Webex アプリのリリース45.1 では、アクティブな通話のモニタリングを追加し、通話自体から現在のデバイスにリモート通話をプルするオプションを提供することで、この機能が改善されます。これは、ユーザが所有する別のデバイスで終了するユーザに対して 1 つの進行中のコールがある場合にのみ利用できます。

デスクトップ アプリでは、Webex アプリの通話設定で新しい構成可能なオプションが公開され、リモート通話のさまざまな処理が可能になります。

- リモート コール制御 - これは Webex アプリの現在の動作です。リモート コールは通話リストにタイマーとともに表示されます。タイマーを選択すると、ユーザは通話制御画面を表示できます。新しい機能強化により、ユーザーは [詳細] メニューから新しい [通話をコンピューターに移動] オプションを使用して、コール プルを開始できます。

- 通話の移動 - このオプションを選択すると、ユーザーはリモート通話の通話コントロール画面を開くことができなくなります。ユーザーが所有するデバイスで終了した 1 つのリモート通話がある場合にのみ、通話の [移動] オプションが表示されます。[移動] オプションを選択すると、Webex アプリがコール プルを開始する前に、ユーザーに確認ダイアログが表示されます。
- 常時確認 - このタイプの構成では、ユーザーにはコール リストにリモートコールのタイマーが表示され、選択すると、リモートコール制御を表示するか、コールプルを開始するか（利用可能な場合）または操作をキャンセルするかを尋ねられます。

リリース45.1により、モバイルアプリも改善されます。アクティブ コール プル モードが有効になっている場合、ユーザのすべてのリモートコールが表示され、アクティブ コール モニタリングが有効になり、特定の状況でコールを移動するオプションが提供されます。リモート デバイス（ユーザが所有する）でコールが 1 つだけ終了した場合、そのコールに対して [移動（Move）] オプションが使用できるようになります。ただし、ユーザーに対して複数のコールがある場合、または共有デバイスでコールが終了した場合、コールは引き続き表示されますが、情報目的でのみコールをリモートで移動またはコントロールするオプションはありません。

機能を制御するには、いくつかの設定可能なオプションがあります。1 つは可用性を制御し、もう 2 つは *モード* と *default-active-move-option* (デスクトップのみ) で機能の動作を制御します。*モード* は、次のいずれかのオプションに設定できます。

- ブラインド
  - デフォルトモード
  - デスクトップ – ダイヤル パッドのコール プル ボタン
  - モバイル – [通話] タブのコール プル オプション
- アクティブ
  - デスクトップ
    - ダイヤル パッドにコール プル ボタンがない
    - アクティブに監視されているコールの取得を可能にする
    - コールが選択されたときのアクションの設定を許可します
  - モバイル
    - [通話] タブオプションにコール プル オプションがありません
    - すべてのユーザーのリモート通話をアクティブに監視できます
    - アクティブに監視されているコールの取得を可能にする
- フル - ブラインドモードとアクティブ モードを組み合わせました

```
<config>
<services><calls>
```

```
<call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%"
           mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
           default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	false	true、false	コール プルを有効にします。
%CALL_PULL_MODE_WXT%	ブラインド	ブラインド、アクティブ、フル	ユーザが利用できるコール プル オプションを制御します。現在のブラインド コール プル、アクティブ モニタリングに基づくコール プル、またはその両方を使用できます。
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	例 1 call_move () の例	call_control, call_move, always_ask	デスクトップのみ アクティブな移動が利用可能な場合（アクティブ モードまたはフル モードが設定されている）、この設定は、通話リスト内のユーザに対して有効になっているデフォルトのアクションを指定します。

注: この機能を使用するには、CommPilot ポータルの [共有コールアピアランスの設定（Shared Call Appearance）] ページから [別の場所からのコール取得を許可（Allow Call Retrieve Service）] チェックボックスを有効にすることで、ユーザに対して共有コール アピアランス コール取得サービスを有効にする必要があります。

6.1.23 コールパーク/保留解除

グループ コール パーク機能を使用すると、進行中の VoIP コールをコール パーク サーバに転送できます。これにより、発信者は別のことを行い、同じユーザまたは別のユーザが取得できます。進行中のコールは、コール パーク グループ内の最初に利用可能な内線に対してパークされます。

コール取得は、コールをパークした直後に、設定可能な秒数だけダイアログでコールをパークしたユーザによって実行できます。パークされたコールは、コール取得オプションを選択し、番号または内線番号を入力することで、ユーザまたは別のユーザが取得できます。

```
<config>
<services><calls>
<call-park enabled="%ENABLE_CALL_PARK_WXT%"
timer="%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	false	true、false	コール パーク/取得を有効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	10	5 ～ 30 の番号	[コールパーク中（Call Park）] ダイアログが正常に表示され、自動的に閉じられるまでの秒数を指定します。

6.1.24 通話統計

Session Initiation Protocol（SIP）BYE メッセージで通話終了統計をレポートすると、コールが終了したときに通話統計をリモートエンドに送信できます。通話統計は、SIP BYE メッセージまたは BYE メッセージに対する対応する *200 OK* 応答の新しいヘッダーとして送信されます。統計には、送信または受信された Real-time Transport Protocol（RTP）パケット、送信または受信した合計バイト数、紛失したパケットの総数、遅延ジッター、ラウンドトリップ遅延、通話時間が含まれます。

```
<config>
<services><calls>
<call-statistics enabled="%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	false	true、false	通話メトリックのキャプチャを有効にするには、「true」に設定します。 「false」に設定すると、通話メトリックのキャプチャが無効になります。

6.1.25 コール自動リカバリ /シームレスなコールハンドバー

クライアントは、ユーザが進行中の VoIP コールを持っている間、ネットワークの切り替えでコール自動リカバリをサポートしています。コール自動リカバリは、セルラーデータから WiFi および WiFi からセルラーデータ、および WiFi からセルラーデータ、および WiFi ネットワークを切り替えて両方向に動作します。コールは 1 分以内に回復しようとし、その後停止します。進行中の VoIP コールが複数ある場合、アクティブなコールのみが復元されます。

セルラーデータから WiFi への移行では、クライアントは終了またはセルラー データ ネットワークが失われるまで、セルラー データで進行中の VoIP コールを保持します。

ネットワーク変更のためにコール自動リカバリが発生した場合、コール再接続試行中にユーザにトーン通知が再生されます。

```
<config>
<services><calls>
<auto-recovery enabled="%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	false	true、false	ユーザに対して自動リカバリメカニズムを有効にするかどうかを制御します。

注意: この機能は、ユーザに対して有効になっているコール プル機能によって異なります。詳細については、「*6.1.22 コール プル*」を参照してください。

6.1.26 通話録音

通話録音機能はクライアントによってサポートされており、サーバー側の機能の可用性、および Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide の「通話録音」セクションで説明されている設定オプションによって異なります。

. この機能は、有効な XSI イベント チャネルによって異なります (セクション *6.1.33.2XSI 動的プロキシ検出*

Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。

クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。

Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。

Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します

SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合:

Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。

- クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します（またはすべてが等しい場合はランダムに）。

- SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合:
- Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスである場合、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。
- A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つの IP アドレスに解決する必要があります。
    - カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。
    - 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。
    - 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。
        -
        - Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出の *モード* が適用されます。プロキシ検出の *モード* は、次のいずれかを実行できます。
        - ホストのみ - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください
    - srv-only - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します
        - prefer-srv - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それらのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください

- srv-host - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します
- DMS 構成ファイルのダウンロード後:
- 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合:

- ホストのみ - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します
  - srv-only - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します
  - prefer-srv - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます
  - XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する

XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
  <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ホスト	ホストのみ、srv-only、prefer-srv、srv-host	構成ファイルのダウンロード後にアプリケーションで使用される XSI ターゲットのリストを Webex アプリで構築する方法を制御します。初期検出は、DMS 設定のダウンロード前に、常に srv-host モードを使用します。

XSI イベント チャネル) とアプリケーション サーバー (AS) が *X-BroadWorks-Correlation-Info* SIP ヘッダー (*Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド*を参照してください) を送信するように構成されています。

この機能が無効になっている場合、ユーザーには録画ボタンとオプションはありません。通話録音は、通話ベースではなく、ユーザーごとに動作します。つまり、通話の参加者の 1 人が通話録音をサポートしている場合、通話を録音できます。

通話録音機能が有効になっている場合、通話が録音されているときに常に視覚的な通知が表示されます。Cisco BroadWorks では、次の通話録音モードがサポートされています。

常時

- 通話録音は、通話の確立時に自動的に開始されます。
- ユーザーは通話録音を停止/一時停止できません。

常に一時停止/再開のサポート

- 通話録音は通話の確立時に自動的に開始されますが、ユーザーは通話を一時停止して再開できます。
- ユーザーの対話:
  - 録画が進行中です - **[一時停止]** 録画アクション。
  - 録画は一時停止中です - **再開** 録画アクション。

オンデマンド

- コールが確立されると、サーバ上でコール録音が開始されます。
- コール中にユーザが [録音の開始（Start Recording）] オプションを押すと、コール録音が保存され、起動時からコールが保持されます。それ以外の場合、ユーザから録音を開始しない場合、コール録音はサーバ上で削除されます。
- ユーザーの対話:
  - 録画はまだ開始されていません。録画の開始 アクションです。
  - 録画が進行中です - **[一時停止]** 録画アクション。
  - 録画は一時停止中です - **再開** 録画アクション。

ユーザーが開始したオンデマンド

- ユーザは、通話中に複数回、いつでも通話録音を開始、停止、一時停止、再開できます。
- 通話録音の起動ごとに個別の通話録音があります。
- ユーザーの対話:
  - 録画はまだ開始されていません。録画の開始 アクションです。
  - 録画が進行中です - 録画のアクションを**停止** と**一時停止** します。

- 録画は一時停止中です。**[停止]** と **[再開]** 録画アクションです。

ユーザーに割り当てられた通話録音モードは、Control Hub から選択できます。

```
<config>
<services><calls>
<record enabled="%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	false	true、false	コール録音のコントロールを有効にします。

6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントで Cisco BroadWorks ボイスメールとビジュアル ボイスメールの可用性を制御できます。

ビジュアルボイスメール (VVM) は音声のみに対応しています。サポートされている形式は wav と ulaw です。これにより、ユーザーは着信ボイスメールをリストビューで表示し、個々のアイテムを再生できます。この機能は XSI に基づいていますが、新しいボイスメールの通知は SIP を介して提供されます。したがって、通知が機能するには SIP を有効にする必要があります。さらに、通知が届くには、メッセージ待機インジケータ（MWI）設定の SIP SUBSCRIBE が必要であり、ビジュアル ボイスメールが機能するには MWI を有効にする必要があります。SIP 構成の詳細については、「*6.1.1 SIP サーバー設定*」を参照してください。

ビジュアル ボイスメールは、設定で個別に有効にする必要があります。

ビジュアル ボイスメールを使用するには、CommPilot ポータルで次の設定が必要です。

- ボイス メッセージングが有効になっています
- 「メッセージが届いたらユニファイド メッセージングを使用」オプションが有効になっています
- [電話メッセージ待機インジケータを使用] オプションが有効になっています

Cisco BroadWorks 側にビジュアル ボイスメール サービスが割り当てられていない場合、サービスの設定が自動的に無効になります。

SIP 登録を無効にすると、新しいボイスメールの MWI も無効にされることに注意してください。MWI の有効化に関する詳細は、次の表を参照してください。

UI にボイスメール メッセージ情報を表示するには、クライアントはサーバから SIP MWI 通知（ボイスメール イベント パッケージ）を受信する必要があります。サブスクリプション オプションについては、次の表を参照してください。また、ビジュアル ボイスメールの通知が機能するには、MWI が必要であることに注意してください。

ボイスメール イベント パッケージへの SIP サブスクリプションが失敗した場合、クライアントは設定時に再試行し続けることに注意してください。SIP SUBSCRIBE 再試行の設定の詳細については、セクション *6.1.9 を参照してください。SIP SUBCSRIBE および REGISTER の更新および SUBSCRIBE 再試行*

```
<config>
<services><calls>
<mwi enabled="%ENABLE_MWI_WXT%" type="%MWI_MODE_WXT%"/>
<voice-mail enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%" visual-
voicemail="%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%">
    <transcription enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%"/>
    <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
</voice-mail>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_MWI_WXT%	false	true、false	MWI を有効にするには、「true」に設定します。 MWI を無効にするには、「false」に設定します。
%MWI_MODE_WXT%	空	暗黙的、明示的	MWI が有効になっている場合、MWI イベント パッケージの SIP SUBSCRIBE を送信するには、「明示的」に設定します。 「暗黙的」を使用すると、MWI が有効になっている場合、MWI イベント パッケージの SIP SUBSCRIBE を送信しません。 空のままにすると、MWI は無効になります。
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	ボイスメールのサポートを有効にするには、「true」に設定します。 ボイスメールのサポートを無効にするには、「false」に設定します。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、VVM は無効になります。 「true」に設定すると、VVM が有効になります。 実際の VVM 属性が下位互換性のためにまだ使用される前に、ボイスメール enabled=false に注意してください。

注意: 詳細については、『Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide』の「ボイスメールの再生」セクションを参照してください。

6.1.28 ボイスメール クラウド ネイティブ ストレージ (Webex Calling のみ)

リリース46.6以降、Webex Calling 展開のみでは、Webex アプリはクラウドネイティブのボイスメール ストレージからボイスメールの要約情報、ビジュアル ボイスメール メッセージ、ボイスメールの文字起こしの取得をサポートします。このオプションが回線に対して有効になっている場合、Webex アプリはパブリック Webex Calling API を使用してその回線のボイスメール コンテンツを取得し、以前の XSI ベースの取得を置き換えます。

移行はエンドユーザーには透過的です。メッセージ待機インジケータ (MWI) 通知、ビジュアル ボイスメール メッセージ リスト、メッセージの再生、既読マーク/未読マーク、メッセージの削除、ボイスメールの文字起こし表示は、セクション *6.1.27 変更の概要* とセクション *6.1.29 Webex Calling のボイスメールの文字起こし*で説明されているとおりに動作します。ボイスメールのコンテンツ（音声メッセージと文字起こし）はサーバー側で重複しているため、2 つの取得メカニズム間で回線が切り替わる場合、移行手順は不要であり、メッセージが欠落するリスクはありません。

この機能は、ユーザーのプライマリ回線にのみ適用されます。セカンダリ回線（共有および仮想）はこのフェーズの対象外であり、XSI ベースのボイスメールの取得を引き続き使用します。

クラウド ネイティブ ボイスメール ストレージは、専用システム タグ %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x%（x は回線インデックス、1–10）を通じて、回線ごとに有効になります。タグは回線ごとに Cisco BroadWorks によって自動的に設定され、DMS 設定ファイルを通じて Webex アプリに配信される残りの回線設定とともに入力されます。

```
<config><protocols><sip><lines>
<line>
<voicemail-cloud-storage-enabled>%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-1%</voicemail-
cloud-storage-enabled>
...</line>
<line>
<voicemail-cloud-storage-enabled>%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-2%</voicemail-
cloud-storage-enabled>
...</line>
<line>
<voicemail-cloud-storage-enabled>%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-10%</voicemail-
cloud-storage-enabled>
...</line>
</lines></sip></protocols></config>
```

%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x% が「true」に解決すると、Webex アプリはその回線のクラウド ネイティブ ボイスメールの取得を使用します。タグが「false」（デフォルト）に解決されるか、存在しない場合、Webex アプリは既存の XSI ベースのボイスメールの取得を引き続き使用し、動作は変更されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-n%	false	true、false	[Webex Calling のみ] 「true」に設定すると、Webex アプリはクラウド ネイティブ ボイスメール ストレージを使用して、n 回線のボイスメール コンテンツ (概要、ビジュアル ボイスメール メッセージ、音声テキスト) を取得します。“false” または空に設定すると、XSI ベースの取得が使用されます。プライマリ回線にのみ適用されます。

注意1: この機能を使用するには、ビジュアル ボイスメール機能をユーザーに対して有効にする必要があります。ビジュアルボイスメール、MWI、および SIP/XSI の前提条件については、セクション *6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*を参照してください。ボイスメールの文字起こしについては、「*6.1.29 Webex Calling のボイスメールの文字起こし*」を参照してください。

注意2: %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x% システム タグは、回線ごとに Cisco BroadWorks によってプロビジョニングおよび管理され、Cisco BroadWorks 側での手動プロビジョニングは必要ありません。デフォルト値は “false” です。

注意3: この機能は Webex Calling の展開にのみ適用されます。Cisco BroadWorks 版 Webex の展開には影響しません。

6.1.29 Webex Calling のボイスメールの文字起こし

この機能により、ボイスメール メッセージはテキストに変換され、Webex Calling デスクトップおよびモバイル アプリのビジュアル ボイスメール メッセージ ビューに表示されます。

この機能は、次の場合にのみユーザーに対して有効にする必要があります。

1. アプリは Webex Calling 展開で実行されています。
2. ビジュアル ボイスメール機能はユーザーに対して有効になっています。
3. この機能は設定で有効になっています (タグの enabled 属性は「true」に設定されている必要があります)。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	false	true、false	[Webex Calling のみ] ビジュアルボイスメールが有効になっている場合のみ、ボイスメールの音声テキストの可用性を制御します。

6.1.30 通話設定

6.1.30.1 無条件転送

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks Call Forwarding Always サービスの可用性を制御できます。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<call-forwarding-always enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	false	true、false	常時通話転送サービスの可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は無効になっています。

注意: 常時通話転送とボイスメールへの通話転送 (*6.1.30.2 ボイスメールへの通話転送*) を組み合わせて、Webex アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.30.2 ボイスメールへの通話転送

リリース43.9以降、Webex アプリは、ボイスメールへの転送の可用性を制御するオプションを提供します。デフォルトでは、この機能は有効になっており、次の設定オプションを使用して無効にすることができます。

```
<config>
<services>
   <voice-mail>
      <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	true	true、false	ボイスメールへの転送の可否を制御します。 デフォルトでは、この機能は有効になっています。

注1： この機能は、ユーザーに割り当てる「ボイス メッセージ ユーザー」または「サードパーティ ボイス メール サポート」サービスのいずれかに依存します。

注2： ボイスメールへの通話転送と常時通話転送 (*6.1.30.1 無条件転送*) を併用して、Webex アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.30.3 BroadWorks Anywhere (単一番号リーチ)

次のカスタム タグは、BroadWorks Anywhere の可用性、および Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定可用性を制御します。クライアント内のこの機能の名前は、*[自分の番号を管理]* です。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<broadworks-anywhere enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%">
        <description enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%"/>
        <alert-all-locations
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%"/>
        <call-control enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%"/>
        <diversion-inhibitor
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%"/>
        <answer-confirmation
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%"/>
</broadworks-anywhere>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	false	true、false	設定レベルで BroadWorks Anywhere (BWA) を有効にします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	true	true、false	ユーザーが BWA ロケーションの説明を使用可能にするかどうかを制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	false	true、false	ユーザーが BWA サービスのすべてのロケーションにアラートを表示するには、「true」に設定します。 ユーザーが BWA サービスのすべてのロケーションにアラートを送信できないようにするには、「false」に設定します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	false	true、false	新しい BWA ロケーションを追加するたびに、アプリケーションが [すべてのロケーションにアラート（Alert All Locations）] 状態を有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションのコール制御をユーザーが使用できるようにするかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションのコール制御のデフォルトの状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転送インヒビータをユーザが使用可能にするかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転送インヒビターのデフォルト状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	false	true、false	ユーザーが BWA ロケーションの応答確認を利用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの応答確認のデフォルトの状態を制御します。

6.1.31 設定ポータル および Web ベースの通話設定

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、ユーザがアプリケーションおよびサービス設定の一部を設定できる設定（セルフケア）ポータルへのアクセスを提供します。

さらに、クライアントはコール設定 Web ビュー（CSWV）を使用するオプションを提供します。これにより、ユーザはサーバベースのコール設定をさらに制御できます。別のタグを使用して、Web ベースの通話設定で特定のサービスが表示されるかどうかを制御できます。

> **注意**: Call Center (セクション *6.1.32 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト*) や BroadWorks Anywhere (セクション *6.1.30.3 BroadWorks Anywhere*) のようなアプリケーションですでに表示されている設定を非表示にすることをお勧めします。リモート オフィス サービスは、BroadWorks Anywhere サービスに継承されているため、非表示にすることをおすすめします。

次のカスタム タグを使用して、設定（セルフケアまたは CSWV）ポータルの URL を設定できます。タグが空の場合、アプリケーション内のユーザに設定ポータルへのリンクは表示されません。

```
<config>
<services>
<web-call-settings target="%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%"
 <url>%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%</url>
<branding-enabled="%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%">
  <service-settings>
   <service name="Call Forwarding Always"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Forwarding Busy"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%"/>
```

```
   <service name="Call Forwarding Not Reachable"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Forwarding No Answer"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Do Not Disturb" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Anonymous Call Rejection"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Simultaneous Ring Personal"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Sequential Ring"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Automatic Callback"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Waiting" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Calling Line ID Delivery Blocking"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Personal Assistant"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Center - Standard"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="BroadWorks Anywhere"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="BroadWorks Mobility"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Remote Office" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Voice Messaging User"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%"/>
 </service-settings>
<userportal-settings> <url>%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%</url></userportal-
settings>
</web-call-settings>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、csw	管理者ポータル モードを制御します。 外部ブラウザで設定済み設定ポータル URL を開くには、「外部」に設定します。 「csw」に設定すると、追加のパラメータセクションを使用して、埋め込みブラウザで CSW ポータルが開き、POST 要求を形成します。
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	設定ポータルの URL。 例: https://settings.webex.com
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、[常に着信転送] オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにサイレント（DND）オプションを表示するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザーに匿名着信拒否 (ACR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、話中転送（CFB）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Call Forwarding Not Reachable（CFNR）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、無応答時転送（CFNA）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザーに同時呼び出しパーソナル（SIMRING）オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、シーケンシャル リング（SEQRING）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Remote Office (RO) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーに自動コールバック (ACB) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、コール待機（CW）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Calling Line ID Delivery Blocking（CLIDB）オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにパーソナルアシスタント (PA) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、BroadWorks Anywhere (BWA) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにコール センター オプションを表示するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、BroadWorks モビリティ (BWM) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。 現在、推奨値は Cisco BroadWorks 版 Webex と BroadWorks モビリティ間の相互運用性の問題により、「false」です。
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーに音声管理（VM）オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	false	true、false	新しいコール設定 WebView ブランディングを使用するかどうかを制御します。サーバ側の CSWV バージョンが1.8.6以上である場合に有効にします。それ以外の場合は、false のままにしておきます。
%WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でメール/ボイスメールメッセージオプションを表示するかどうかを制御します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	ユーザ設定ポータルの URL を指定します。この機能を有効にして、UI の [ユーザー ポータルにアクセス] ボタンを表示するには、このカスタム タグを空にしないでください。例: https://settings.webex.com.
%USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、内部	埋め込みブラウザまたは外部ブラウザで URL を開くかどうかを指定します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT%	false	true、false	埋め込みブラウザが設定されている場合にのみ適用されます (USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT=internal)。有効にすると、HTTP POST 要求が使用され、BroadWorks 短期間トークンが本文の一部として追加されます。無効にすると、URL は HTTP GET で開かれます。

注1： コール設定 WebView URL には、常に末尾の「/」が設定されている必要があります。例: http(s):////

注意2: サポートされているコール設定 WebView アプリケーションの最小バージョンは 1.7.5 です。

Cisco BroadWorks リリース21へのインストールについては、『*Webex For Cisco BroadWorks ソリューション ガイド*』で説明されている追加の手順を参照してください。

6.1.32 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト

Webex アプリは、コール センター (コール キュー) エージェント設定へのアクセスを提供します。ユーザがコール センターにプロビジョニングされている場合、この機能により、ユーザはコール センターにログインし、利用可能なコール キューを表示したり、参加/不参加キューを表示したり、自動通話分配（ACD）ステータスを設定したりできます。

デスクトップ リリース42.8 とモバイル リリース42.12以降、コール センター（コール キュー）エージェントは通話設定 Web ビューに基づいていなくなりました (セクション*6.1.31 設定ポータル および Web* ベースの通話設定を参照)。コール センター (コール キュー) エージェント構成には、デスクトップとモバイル Webex アプリの設定のフッターからアクセスできます。

```
<config>
<services>
<call-center-agent enabled="%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	Call Center サポートを有効にします。

6.1.33 Xtended Services Interface（XSI）

6.1.33.1 ルートとパス

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、サインインに使用されるものと異なるよう XSI ルート、アクション、イベント パスを制御するために、次のタグを使用します。

XSI ルートを変更する主な理由は、設定レベルでロードバランシングを実装することですが、代わりに HTTP レイヤーでロードバランシングを使用することが推奨されています。

イベントとアクションのパスは、クライアントによって実行された XSI HTTP リクエストの URL パスから *com.broadsoft* ドメイン参照を削除するためのブランディング要件によって通常変更されます。

```
<config>
<protocols><xsi>
        <paths>
                <root>%XSI_ROOT_WXT%</root>
                <actions>%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%</actions>
                <events>%XSI_EVENTS_PATH_WXT%</events>
        </paths>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_ROOT_WXT%	設定フェッチに使用される元のフェッチを引き続き使用します。	URL 文字列	すべての XSI 操作の XSI ルート。 例: https://domain.com/
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-actions/	文字列	XSI アクションのパスを指定します。これは "/" で開始および終了し、アクションコンテキストのみを含める必要があります。 例: /com.domain.xsi-actions/
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-events/	文字列	XSI Events のパスを指定します。開始と終了は "/" でなければならず、イベントのコンテキストだけを含める必要があります。 例: /com.domain.xsi-events/

6.1.33.2 XSI 動的プロキシ検出

Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。

クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。

- Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。
    - Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します
    - SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合:
        - Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。
        - クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します（またはすべてが等しい場合はランダムに）。
    - SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合:

    - Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスである場合、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。
    - A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つの IP アドレスに解決する必要があります。

- カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。
    - 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。
    - 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。

Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出の *モード* が適用されます。プロキシ検出の *モード* は、次のいずれかを実行できます。

- *ホストのみ* - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください
- *srv-only* - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します
- *prefer-srv* - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それらのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください
- *srv-host* - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します

DMS 構成ファイルのダウンロード後:

- 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合:
    - *ホストのみ* - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します
    - *srv-only* - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します

- *prefer-srv* - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます

- XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する
  - XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
   <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ホスト	ホストのみ、srv-only、prefer-srv、srv-host	構成ファイルのダウンロード後にアプリケーションで使用される XSI ターゲットのリストを Webex アプリで構築する方法を制御します。初期検出は、DMS 設定のダウンロード前に、常に srv-host モードを使用します。

6.1.33.3 XSI イベント チャネル

XSI イベント チャネルは、次のようなさまざまなサービスに使用されます。

- XSI 通話中制御
- 通話設定ステータス通知
- 通話録音

XSI Events のハートビートは、XSI Event チャネルを開いたままにするために使用され、次のパラメータを使用してハートビート間隔を指定できます。

リリース45.11 では、XSI イベント チャネルの使用にいくつかの最適化が導入されています。

- XSI イベント チャネルの非アクティブ タイムアウトを制御するための新しい設定可能なパラメータ。設定されている非アクティブタイムアウト内にデータ (XSI イベント) またはハートビート応答を受信しない場合、XSI イベント チャネルは閉じられます。
- イベントチャネルが閉じている場合
  - 指定された主催者は 10 分間、ブラックリストに追加されます
  - 再接続ロジックが開始され、次の XSI ホストに再接続しようとし、5 秒から開始される増分タイマーの後、ランダムファクターを含む最大 150 秒の Fibonacci 番号に従います。

- すべての XSI ホストがブラックリストに登録されている場合、ブラックリストはクリアされ、アプリはすぐに最も優先順位の高いホストへの再接続を開始します。

```
<config>
<protocols><xsi>
<event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
    <heartbeat-interval>%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeat-interval>
    <inactivity-timeout>%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%</inactivity-timeout>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	true	true、false	XSI イベント チャネルが有効かどうかを制御します。たとえば、通話中制御サービス関連イベントを受信するには、「true」に設定する必要があります。 推奨値は “true” です。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	10000	1 つの電話番号	これは XSI イベント チャネルのハートビートです（ミリ秒）。
%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	60000	(0-120000]	XSI イベント チャネルの最大非アクティブなタイムアウト（ミリ秒単位）を指定します。イベントを受信するまで待機する時間（ハートビート応答またはその他の XSI イベント）。 0以上で120000以下である必要があります (2 分)

6.1.34 コーデックの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex は、さまざまな音声およびビデオ コーデックを提供します。各コーデックのリストは、 *設定/services/calls/* の *音声/コーデック* および *ビデオ/コーデック* セクション。各コーデックの優先順位は、*XML-attribute priority*を使用して変更できます。これは、0（最小）から 1（最高）の値です。

Webex アプリは次のコーデックを正式にサポートしています。

- 音声
  - Opus
  - [G.722]
  - [G.729]
  - PCMU（G.711U）
  - PCMA（G.711A）
  - iLBC
  - AIコーデック

- ビデオ
  - H.264

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      <codec name="opus" priority="1" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="HP" priority=".99" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="ULP" priority=".98" payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4" payload="" framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
      <codec name="telephone-event" payload="102" clockrate="48000" in-
band="false" />
    …
  <video>
    <codecs>
      <codec name="H264" payload="109" resolution="HD" framerate="30"
bitrate="2000000" priority="1.0">
        <packet-mode>0</packet-mode>
```

クライアントは、ビデオ コーデックとして H.264 をサポートします。ビデオ解像度の属性（アプリがアドバタイズする最大ビデオ解像度を示す）は、次のいずれかの値に設定できます。SUBQCIF、QCIF、CIF、4CIF、VGA、HD、および WIDE_FULL_HD。

リリース45.8以降、デスクトップアプリで使用される最大ビデオ解像度はデフォルトの HD から WIDE_FULL_HD に更新され、モバイルアプリとタブレットアプリの 1 つが残ります。4CIF.

ビットレートが設定に入力されていない場合は、デフォルトのビットレート値が使用されます。次の表に、解像度とフレームレートごとのデフォルトのビットレート値を示します。

解像度	ビデオ サイズ *	FPS (フレーム/秒)	解像度および FPS ごとのデフォルトのビット レート値
SUBQCIF (航空機)	128 x 96	15	128000
QCIF の	176 x 144	30	192000
CIF	352 x 288	15	384000
CIF	352 x 288	30	768000
VGA	640 x 460	15	2000000
4CIF	704 x 576	25	2000000
HD	960 x 720	30	2000000
WIDE_FULL_HD設定	1920 x 1080	30	4000000

* アドバタイズされたビデオの最大解像度。2 つの Cisco BroadWorks 版 Webex クライアント間の通話中の実際のビデオ解像度は、両方のクライアントの機能によって異なります。2 つのクライアントの下位になり、両方のクライアントでも同じになります。

ビデオ コールのビデオ解像度は、セッションのセットアップ中にネゴシエートされ、2 つのエンドポイントの機能に基づいています。ビデオコールの解像度は、両方のエンドポイントで同じです。つまり、Cisco BroadWorks 版 Webex エンドポイントに異なる機能がある場合 (したがって異なる解像度をサポート)、コールに対して低い解像度がネゴシエートされます。ネットワークの状態が悪化すると、通話中にビデオの解像度が変更される場合があります。この場合、2 つのモバイル エンドポイントが異なるビデオ解像度を使用している可能性があります。

パケット化モードは、SingleNAL（0）またはインターリーブ（1）に設定できます。テンプレートはデフォルトで SingleNAL を使用します ()。

単一または複数の電話イベントの設定もサポートされています。コーデックのネゴシエーション中、クライアントは電話イベントを含む、設定されたすべてのコーデックを送信します。音声コーデックを選択すると、オファー内の電話イベントを検索します。オファーにネゴシエートされた音声コーデックのサンプル レートを持つ電話イベントがある場合、この電話イベントが選択されます。それ以外の場合は、リスト内の最初の電話イベントが使用されます。

少なくとも 1 つの電話イベントがネゴシエートされている場合、デュアルトーン マルチ周波数（DTMF）は、対応するペイロード タイプを使用して RTP パケットとして送信されます。また、電話イベントがネゴシエートされていない場合、DTMF は、ネゴシエートされた音声コーデックのペイロード タイプを持つ RTP パケットとして送信されます。DTMF を配信するためのアウトオブバンドメカニズムは、Webex アプリではサポートされていません。

設定されたコーデックの例:

```
<codec name="telephone-event" payload="100" in-band="false" />
<codec name="telephone-event" payload="101" clockrate="48000" in-band="false" />
```

サンプル レートの 48kbps の音声コーデックがネゴシエートされている場合、ペイロード101 のある電話イベントが使用されます。

6.1.34.1 AIコーデック

リリース44.8から、Webex アプリでは、新しい音声コーデック AI コーデック（xCodec）のサポートが導入されます。この音声コーデックは、悪質なネットワーク条件で使用され、通話品質が向上します。Webex アプリの Webex Media Engine は、デバイスの機能を確認し、メディア品質を追跡し、構成ファイルでサポートされ、有効になっている場合は AI コーデックを使用できます。

AI コーデックは Opus コーデックと組み合わせてのみ動作します。これは、Opus と AI コーデックの両方が SDP ネゴシエーション中に両側によってアドバタイズおよびネゴシエートされる必要があることを意味します。

6.1.35 SIP-URI ダイヤル

現在、BroadWorks 経由の SIP-URI ダイヤルは利用できません。デフォルトでは、すべての SIP-URI コールは Locus を通じてルーティングされます。これは「無料通話」とも呼ばれます。一部の環境では、これは望ましくないため、そのようなコールはブロックする必要があります。

注: これは、Locus 通話が無効になっている場合にのみ適用されます。この場合、SIP URI ダイヤル ブロッキングのみが機能します。

次の設定では、このオプションが提供されます。

```
<config>
    <services>
        <calls>
            <sip-uri-dialing enable-locus-
calling="%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	true	true、false	SIP-URI を Locus を介してルーティングするか (true)、ブロックする (false) を制御します。

6.1.36 通話履歴

Webex アプリは、ユーザーの通話を追跡するための通話履歴をサポートしています。ユーザーのプライマリ回線の場合、通話履歴はユーザーのすべてのデバイスで同期されます。セカンダリ回線 (共有および仮想) の場合、アプリはローカル通話履歴レコードのみを保持します。

リリース45.11 では、セカンダリ回線（共有および仮想）の統合通話履歴も追加され、すべてのユーザーのデバイスで同期されます。現在の設定オプションでは、プライマリ回線とセカンダリ回線の統合通話履歴の両方を制御できるようになりました。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	false	true、false	プライマリ回線のみ、アプリケーションが Unified Call History またはクライアント側（ローカル）を使用するかどうかを制御します。

6.1.37 ビデオ通話を無効にする

リリース41.9 では、ビデオ コールを無効にする機能が追加されました。BroadWorks バックアップおよび Locus (無料) VoIP コールでこの機能を制御するための個別の設定オプションがあります。

機能が有効で、機能タグが「false」に設定されている場合:

- ユーザーに [ビデオをオンにして着信を受け入れる] 設定が表示されない
- 受け入れられた場合、すべての着信ビデオ通話は音声通話になります

- ユーザーはコールをビデオにエスカレーションできず、ビデオ エスカレーションは自動的に拒否されます

ビデオ コールが有効になっている場合、新しい設定プロパティが追加され、「ビデオをオンにして着信コールを受け入れる」設定のデフォルト値を制御します。デフォルトでは、この機能はデスクトップでオンになり、モバイルおよびタブレットでオフになっています。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	BroadWorks 経由の SIP ビデオ コールの可用性を制御します。
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	Locus (無料) ビデオ コールの可用性を制御します。
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	デスクトップ - true モバイル/タブレット - false	true、false	[ビデオをオンにして着信を受け入れる] 設定のデフォルト値をコントロールします。

6.1.38 緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート

デスクトップおよびタブレットの Webex クライアントは、BroadWorks 版 Webex 導入の RedSky、Intrado、または別の E911 緊急ロケーション プロバイダーを使用して、E911ロケーションレポートをサポートします。E911プロバイダーは、デバイスごとのロケーション サポート (Webex デスクトップ、タブレット アプリ、および HELD 対応の MPP デバイス) と、米国、その準州 (グアム、プエルトリコ、およびバージン諸島)、およびカナダのみの公共の安全応答ポイント (PSAP) への緊急コールをルーティングするネットワークを提供します。サービスはロケーションに基づいて有効にできます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	false	true、false	E911 プロバイダーの緊急ロケーション プラットフォームを有効にします。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダー緊急ロケーション プラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダー HTTPS 要求に使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証するためのシークレット。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV 文字列	E911 プロバイダーがサポートする緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (ユーザは再度プロンプトされません)	番号 [0 - 43200]	現在の緊急ロケーションが入力されていないか、無効の場合に、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用されるタイムアウト（分単位）。 有効にすることを決定した場合の推奨値: 1440（1 日）。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます)	番号 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーション ダイアログを閉じることを許可する時間（つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることはできません）。 使用可能な値: ▪ N = -1（ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます） ▪ N = 0（ユーザはダイアログをキャンセルできません - 常に必須のロケーション） ▪ > 0（ユーザはダイアログが必須になる前に N 回キャンセルできます）
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	攻撃的、once_per_login	例 1 once_per_login	E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。「攻撃的」の値は、ネットワークが不明なロケーションに変更されるたびにユーザーに対してダイアログを表示しますが、「once_per_login」の値は 1 回だけ表示され、ユーザーのポップアップや気が散らないようにします。

注意1: BWE911-*** タグは「動的組み込みシステム タグ」です。詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。

注意2: VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤル シーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の唯一の意味のある値は cs のみです。

6.1.39 アイデンティティとして PAI

着信通話では、この新しいパラメータは SIP From と P-Asserted-Identity (PAI) ヘッダーの優先順位、および通話回線 ID として使用するものを制御します。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがある場合、SIP From ヘッダーと PAI ヘッダーよりも優先順位で使用されます。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがない場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーが PAI ヘッダーよりも優先されるか、またはその逆かを決定します。

タグの enabled 属性が “true” に設定されている場合、PAI ヘッダーが From ヘッダーよりも優先順位付けされます。この発信側 ID は、連絡先を解決してユーザに提示するために使用されます。

発信コールの場合、このロジックは適用されません。18X、200OK 応答では、接続された回線 ID を受信するため、Webex アプリケーションは常に SIP PAI ヘッダーを優先度で使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT%	false	true、false	ユーザに表示される発信者 ID を SIP From ヘッダーまたは SIP P-Asserted-Identity ヘッダーから取得するかどうかを制御します。優先順位で PAI ヘッダーを使用するには、「true」に設定します。

6.1.40 画面共有を無効にする

リリース42.5 では、画面共有の可用性を制御する機能が追加されています。画面共有が無効になっている場合:

- 1-1 通話で画面共有を開始するオプションが表示されない
- 着信画面共有要求が拒否され、ユーザーに情報メッセージが表示されます

デフォルトでは、この機能は有効になっています。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT%	true	true、false	ユーザーに対して画面共有を有効にするかどうかを指定します。

6.1.41 スパムコール通知

フィーチャー トグル (展開タイプごと) が有効になっており、構成ファイルで機能が有効になっている場合、Webex アプリは NewCall プッシュ通知または通話履歴レコードの一部として受信された場合、スパム コールの検証ステータスを示す新しいパラメータを処理します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	false	true、false	Webex Calling のみの着信通話画面および通話履歴でのスパム通話表示の可用性を制御します。

6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張

ノイズ除去は、PSTN またはモバイル デバイスで Webex 以外のユーザーと通話するときに、通話ユーザーにより優れた通話エクスペリエンスを提供します。リリース43.12では、ノイズ除去はデフォルトでオンになっています。

Webex アプリのリリース44.2では、狭帯域の PSTN 通話用の新しい着信音声メディアのスピーチ AI が導入されました。

- 新しい帯域幅拡張アルゴリズムが追加され、狭帯域の PSTN スペクトルの帯域幅を拡張してノイズを除去することで、オーディオ品質を向上させます。帯域幅が拡大すると、聞き取りやすさが向上し、リスニング疲れが減少します。
- 既存のノイズ除去アルゴリズムが強化され、保留音やその他の音声トーン（ビープ音信号など）の制限が削除されます。
- この機能を有効にすると、ユーザーは「スマート音声 – 外部」インジケータが表示され、着信音声メディアのスピーチ AI の強化を制御できます。

デフォルトでは、これらの音声強化が有効になっており、オンになっています。ユーザは、[音声設定] の [スマート音声設定] から初期状態を制御できます。

```
<config>
   <services>
      <calls>
         <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	false	true、false	外部（着信）メディアの音声強化を有効にします。

注意: ノイズ除去は追加の音声強化の一部となり、新しい タグは廃止されました。ノイズ除去カスタムタグ %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% も廃止されています。

6.1.43 QoS DSCP マーキング

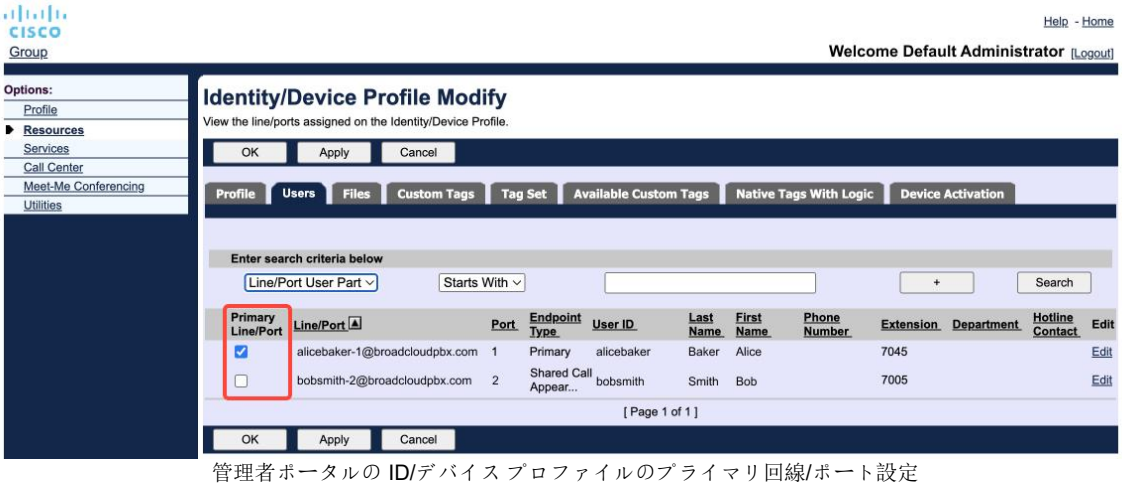
QoS DSCP マーキングは、Webex アプリの通話メディア RTP パケット (音声とビデオ) でサポートされています。DSCP は、ネットワーク データのトラフィック分類を決定します。これは、どのネットワーク トラフィックが高帯域幅を必要とするか、優先度が高いか、パケットをドロップする可能性が高いかを判断するために使用できます。

注意: Microsoft Windows オペレーティング システムの最新バージョンでは、アプリケーションが送信パケットに DSCP または UP を直接設定することを許可しません。代わりに、UDP ポート範囲に基づいて DSCP マーキング ポリシーを定義するためにグループ ポリシー オブジェクト (GPO) の展開が必要になります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_QOS_WXT%	true	true、false	音声コールの QoS を有効にします。
%AUDIO_QOS_VALUE_WXT%	46	0-63	音声コールに対して選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 注意: 値が提供されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。
%ENABLE_VIDEO_QOS_WXT%	true	true、false	ビデオ コールの QoS を有効化
%VIDEO_QOS_VALUE_WXT%	34	0-63	ビデオ コールに対して選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 注意: 値が提供されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。

6.1.44 プライマリ プロファイル

共有回線の統合 (*6.1.51.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス*) では、ユーザーの回線が別のユーザーと共有されている場合、ユーザーに対して同じタイプの複数のプロファイルが設定されている場合があります。電話サービスにサインインするための正しいプロファイルを選択するには、Cisco BroadWorks が拡張され、ユーザーがデバイスを所有しているかどうか、つまり、デバイスのプライマリ回線/ポートが割り当てられているかどうかを示します。Cisco BroadWorks の更新に関する詳細については、「Webex クライアント共有回線をサポートするためのデバイス リストの所有者フラグ」にチェックを入れます。



管理者ポータルの ID/デバイス プロファイルのプライマリ回線/ポート設定

リリース43.2から、新しい設定オプション (*device-owner-restriction*) が追加され、プライマリ プロファイルの制限を適用するかどうかを制御します。Webex アプリケーションがプライマリ以外の回線/ポートプロファイルを使用して電話サービスにサインインすることを許可するために使用できます。この構成オプションは、ユーザーに対して設定されたプロファイルの数に関係なく、すべての設定に適用されます (**デバイスの所有権制限が有効で、対応するプラットフォームにプライマリ回線/ポートを持つデバイスがない場合、電話サービスは接続されません**)。

ユーザーがデスクトップ Webex アプリでペアリングできるデバイスにも同じ制限が適用されます。ユーザーは、所有しているデバイスのみを表示してペアリングできます。これにより、共有または仮想回線が割り当てられている別のユーザーのデバイスとのペアリングができなくなります。同じ設定パラメータの値がこの制限にも適用されます。

```
<config>
<services><calls>
<device-owner-restriction enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	true	true、false	デバイス所有者の制限を制御します。電話サービスが特定のデバイスのプライマリ プロファイルを使用する場合

注意: 所有者の制限を有効にすることを推奨します。無効にすると、電話サービスは最初に見つかったプロファイルを使用してサインインします。同じタイプのユーザに対して複数のプロファイルが設定されている場合に問題が発生する場合があります。

6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ)

Webex アプリから43.5 、ユーザ定義の電話番号のブロック リストが導入されます。この機能が有効な場合、ユーザは、特定の番号からの着信コールをサーバ側でブロックし、ユーザのデバイスで配信しないように指定できます。ユーザーはこれらのブロックされた通話を通話履歴で確認できます。

ユーザーは、2 つの場所からブロック リストを設定できます (通話基本設定と通話履歴)。[基本設定] で、ユーザーはブロックされた番号のリストを表示して編集できます。通話履歴では、ユーザ定義のブロック リストによってブロックされた通話の通話履歴レコードを確認できます。これらのレコードには、番号がユーザ定義のブロック リストにある場合、ブロックされた通知があり、ユーザは特定のレコードに対して番号を直接ブロック解除するオプションがあります。ブロックオプションも利用できます。

ユーザ定義のブロック リストに追加された番号のルール:

番号の形式

- 通話基本設定からブロックすると、Webex アプリで E.164 形式の制限がローカルで適用されます
- すべての Webex Calling レコードで通話履歴からのブロックが許可されます
- Cisco BroadWorks は、番号形式に基づいてブロックリストに追加された新しい番号の要求を許可または拒否できます。

内線番号 - 内線番号からの着信は、ユーザーが定義したブロック リストの一部である場合でも、ユーザーに配信されます。

ユーザー定義のブロック リストは Cisco BroadWorks で構成され、ユーザーのためにすべての WxC デバイスに適用されます。この機能は、管理者が定義したブロック リストと連携して機能します。この機能はユーザーが構成できず、管理者は Control Hub を通してのみ制御できます。管理者が定義したブロック リストによってブロックされた着信通話の通話履歴レコードはありません。

ユーザ定義のブロック リストは、STIR/SHAKEN、管理定義のブロック リスト、および匿名通話拒否ポリシーの後で適用されます。

```
<config>
<services><calls>
<call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	true	true、false	ユーザー定義のブロック リストを有効にします 「true」に設定すると、通話設定と通話履歴のブロック リストが表示されます。

注意: この機能は、ユーザーに割り当てられている Cisco BroadWorks Call Block サービスによって異なります。

6.1.46 Media Adaptation and Resilience Implementation（MARI）

6.1.46.1 レート適応

Webex アプリケーションには、音声がビデオ パケット損失の影響を受けないことを確認するための適応型メディア品質技術をすでに統合しています。また、ビデオがビデオ レート アダプテーションを利用して、輻輳時に使用される帯域幅の量を管理できるようにします。

レート適応または動的ビット レートの調整は、使用可能な可変帯域幅に合わせてコールレートを調整し、パケット損失条件に基づいてビデオ ビット レートを下速または上速化します。エンドポイントは、受信者からパケット損失があることを示すメッセージを受信したときにビット レートを減少させ、パケット損失が減少すると、ビット レートの高速化が発生します。

レート適応メカニズムの使用を制御するための設定可能な設定はありません。

6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)

リリース43.4以降、Webex アプリは、音声とビデオ メディアの両方に対する転送エラー修正（FEC）とパケット再送信（RTX）をサポートするメディア適応メカニズムに追加します。

FEC は、事前決定されたアルゴリズムを使用して送信された情報に冗長性を提供します。冗長性により、受信者は限られた数のエラーを検出して修正できます。送信者に追加データを要求する必要はありません。FEC は、レシーバにデータの再送信を要求するために、リバースチャネル（RTCP など）を必要とせずにエラーを修正する機能を提供しますが、この利点は、固定の高速転送チャネルの帯域幅（送信されるより多くのパケット数）のコストです。

エンドポイントは、768 kbps より低い帯域幅で FEC を使用しません。また、FEC を導入する前に、少なくとも 1.5% のパケット損失がある必要があります。エンドポイントは通常、FEC の有効性を監視し、FEC が効率的でない場合は使用されません。

FEC は再送信よりも多くの帯域幅を消費しますが、遅延は少ないです。RTX は、小さな遅延が許可され、帯域幅の制約がある場合に使用されます。大きな遅延と十分な帯域幅の場合、FEC が望ましいです。

Webex アプリは、特定のメディア ストリームのネゴシエートされた帯域幅と遅延許容量に応じて、RTX または FEC を動的に選択します。FEC では、冗長なビデオ データにより帯域幅の使用率が高くなるが、失われたパケットを回復するための追加の遅延は発生しません。RTX は帯域幅の使用率向上に貢献しません。RTP パケットは、受信者が RTCP フィードバック チャネルのパケット損失を示す場合にのみ再送信されるためです。RTX は、RTCP パケットが送信者から受信者に到達し、再送信パケットが送信者から受信者に到達するのにかかる時間のために、パケット回復遅延を導入します。

RTX を有効にするには、FEC を有効にする必要があります。

```
<config><services><calls>
<audio>
       <audio-quality-enhancements>
              <mari>
                     <fec enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
                            <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                            <payload>111</payload>
                            <max_esel>1400</max_esel>
                            <max_n>255</max_n>
                            <m>8</m>
                            <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                            <non_seq>1</non_seq>
                            <feedback>0</feedback>
                            <order>FEC_SRTP</order>
                     </fec>
                     <rtx enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
                            <mari-rtx>90000</mari-rtx>
                            <payload>112</payload>
                            <time>180</time>
                            <data-flow>1</data-flow>
                            <order>RTX_SRTP</order>
                     </rtx>
              </mari>
...
<video>
       <video-quality-enhancements>
              <mari>
                     <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
                            <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                            <payload>111</payload>
                            <max_esel>1400</max_esel>
                            <max_n>255</max_n>
                            <m>8</m>
                            <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                            <non_seq>1</non_seq>
                            <feedback>0</feedback>
                            <order>FEC_SRTP</order>
                     </fec>
                     <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
                            <mari-rtx>90000</mari-rtx>
                            <payload>112</payload>
                            <time>180</time>
                            <data-flow>1</data-flow>
                            <order>RTX_SRTP</order>
```

```
                    </rtx>
                </mari>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	音声通話の FEC を有効にする
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	音声通話の RTX を有効化 (音声 FEC を有効にする必要があります)
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	ビデオ コールの FEC を有効にする
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	ビデオ コールの RTX を有効化 (ビデオ FEC を有効にする必要があります)

6.1.47 同じユーザーとの同時通話

1 台のデバイスで同じユーザーとの同時通話のサポートを追加します。

この機能は、コールの提示された ID が接続された ID と同じではない展開で便利です。これにより、在席転送を元のパーティに戻すことができなくなります。この機能を有効にすると、ユーザーは同じリモートパーティで複数の同時通話を処理できるようになります。

```
<config>
   <services>
      <calls>
         <simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	false	true、false	Webex アプリに同じユーザーとの 1 つまたは複数の WxC 通話のみを使用できるかどうかを指定します。

6.1.48 RTCP-XR

リリース43.8から、Webex アプリはコール中に RTCP-XR パケット交換のネゴシエーションを追加します。ネゴシエーションは、SIP INVITE セッションの確立中に実行されます。両方のエンドポイントが RTCP-XR パケットをサポートしている場合、Webex Media Engine はこれらのパケットの交換を開始し、適応型通話品質メカニズムをサポートします。この機能は既定で選択済みです。

さらに、Webex Calling のみの場合、これらの追加メトリックは SIP BYE を通じて送信され、Control Hub で公開されます。

```
<config>
<protocols><sip>
   <rtcp-xr>
      <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	true	true、false	より良い通話品質のために、RTCP-XR ネゴシエーションとパケット交換を有効にします。 デフォルトで有効になっています。

6.1.49 着信転送情報

Webex アプリのリリース44.2 では、通話関連画面と通話履歴での通話転送およびリダイレクト情報の可視性を制御するための設定可能なオプションが導入されました。

```
<config>
<services><calls>
<call-forwarding-info enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	true	true、false	通話転送およびリダイレクト情報の表示を制御します。 [true] に設定すると、通話関連画面と通話履歴の情報を表示します。

6.1.50 発信元 ID

6.1.50.1 発信者 ID

Webex モバイル（リリース44.2）およびデスクトップ（リリース44.3）アプリでは、ユーザが発信通話の優先外部発信者 ID を選択するための新しい機能が導入されています。利用可能なオプションのリストには次のものが含まれます。

- 直通回線（デフォルト）
- ロケーション番号
- 同じ組織のカスタム番号
- ユーザーが参加しているコール キュー。これにより、エージェントが発信者 ID 番号を使用できるようになります。

- DNIS オプションが設定されている場合、それらのオプションを選択できるようになります。

- ユーザーが所属するハント グループ。エージェントが発信者 ID 番号を使用できます。
- 発信者 ID を非表示

メモ:

- オプションのリストは回線によって異なります。
  - プライマリ回線 – オプションのフル セット
  - 共有回線 – 利用できません
  - 仮想回線 – コール キュー オプションのみ
- すでに選択した ID が利用できなくなった場合、ユーザーのデフォルトの発信者 ID が使用されます
- 緊急コールは常にユーザーの緊急コールバック番号を使用します
- サービス>の下の発信コールタグを非推奨

利用可能なオプションのリストは、管理ポータルから設定できます。Webex アプリでのこれらの強化の可用性を制御するために、別の DMS カスタム タグもあります。

```
<config>
<services><calls>
   <caller-id>
      <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
         <additional-numbers enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%"/>
         <call-center enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
         <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
         <clid-delivery-blocking enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
      </outgoing-calls>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	発信コールの発信回線 ID 番号の選択を有効にします。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	false	true、false	ユーザに設定された追加番号の可用性を制御します。 (Webex Calling でのみ利用可能)
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたコール センター（DNIS）番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたハント グループ番号の可用性を制御します。(Webex Calling でのみ利用可能)

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	false	true、false	発信コールの選択として発信者 ID 配信のブロックを有効にします。

注1： デスクトップ アプリ バージョン 44.3 は、コール センター CLID のみをサポートし、44.4 は残りのオプションをサポートします。

注2： 詳細については、『Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide』の「発信者 ID の選択」セクションを参照してください。

6.1.50.2 リモート発信者 ID 名

コールを受信または開始すると、Cisco BroadWorks は SIP INVITE でリモートパーティの表示名を送信します。これは Webex アプリでデフォルトで使用されます。同時に、Webex アプリは複数のソースに対して次の優先順位で連絡先の解決を開始します。

- Common Identity (CI)
- 連絡先サービス（カスタム連絡先）
- Outlook 連絡先 (デスクトップ)
- ローカルアドレス帳 (モバイル)

いずれかの検索ソースに対する連絡先の解決が成功した場合、リモート側の表示名が更新されます。また、連絡先が CI で見つかった場合、コール セッションは同じユーザーの Webex クラウド サービスにリンクされ、リモートパーティのアバターとプレゼンスを表示したり、チャット、画面共有、Webex クラウド ミーティングにエスカレーションするオプションなどを提供します。

Webex アプリのリリース44.5では、連絡先解決を無視し、1:1 Cisco BroadWorks コールに使用されるワークスペースまたは RoomOS デバイスでの通話の Cisco BroadWorks 表示名を常に保持するための設定可能なオプションが追加されます。

```
<config>
<services><calls>
   <caller-id>
      <remote-name>
         <machine mode="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	解決済み	解決済み、sip	ワークスペースと RoomOS デバイスのリモートパーティの表示名を制御します。「sip」を使用して、連絡先の解決を無視し、SIP INVITE セッションで受信した表示名を使用します。

6.1.51 複数回線

Webex ユーザは、プライマリ回線と最大9 のセカンダリ回線を持つことができます。セカンダリ回線は共有または仮想回線を使用できます（Webex Calling のみ）。BroadWorks 版 Webex の展開では、デスクトップ アプリは共有回線でのみ機能し、この機能はモバイル アプリではサポートされていません。

Webex アプリは、サインイン時にダウンロードされる DMS 設定ファイルを使用して、回線設定を取得します。12 回線設定の更新が検出された場合、ユーザーはアプリケーションを再起動して変更を適用するように要求されます。ユーザの再ログインは、回線設定の更新を即座に検出し、適用します。

デスクトップとモバイルの両方のマルチラインサポートに関する DMS 設定テンプレートのセクションを次に示します。

```
<config>
<protocols>
   <sip>
       <lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
          <personal>
              <line-port>%BWDISPLAYNAMELINEPORT%</line-port>
          </personal>
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
1%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-1%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
             ...
          </line>
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-2%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-2%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
2%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-2%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>

             ...
          </line>
          ...
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-10%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-10%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
10%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-10%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-10%</group-call-pickup>
             ...
          </line>
```

複数回線機能を制御するには、専用カスタム タグを使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	false	true、false	複数回線のサポートを有効にします（設定されている場合）。無効にした場合 (「false」に設定)、設定された最初の回線のみがアプリケーションで使用されます。

注意1: 機能の Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート は、複数回線設定との組み合わせでは利用できません。

注2：追加の BroadWorks 要件については、『Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide』の「共有回線アピアランス」を参照してください。

6.1.51.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス

リリース42.12以降、Webex アプリケーションは共有回線のサポートを追加します。管理者は、共有回線ごとに共有通話アピアランスを設定する必要があります。

リリース43.12すると、Webex アプリが拡張され、共有回線または仮想回線で保留中の通話を移動 (ローカルで再開) できます。これは、別のユーザまたは別のデバイス上の同じユーザによって処理されます。詳細については、*6.2.12 通話を移動* を参照してください。

6.1.51.2 デスクトップ - 仮想回線 (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、Webex アプリは仮想回線を使用した複数回線設定をサポートします。機能的には、仮想回線を使用する設定は、共有回線を使用する複数回線と一致します。ユーザーに設定された仮想回線を表示し、着信コールと発信コールに使用できます。

リリース43.4では、仮想回線のサポートが拡張され、グループ コール パークとコール パークの取得が追加されます。

リリース43.12すると、Webex アプリが拡張され、共有回線または仮想回線で保留中の通話を移動 (ローカルで再開) できます。これは、別のユーザまたは別のデバイス上の同じユーザによって処理されます。詳細については、*6.2.12 通話を移動* を参照してください。

6.1.51.3 モバイル (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、リリース45.4では、Webex アプリのモバイルバージョンで複数の回線（共有および仮想）のサポートが追加されます。回線の割り当ては、デスクトップとモバイル Webex アプリの両方に適用されます。

モバイル・プラットフォームの仕様により、ユーザーはどの回線でも同時に最大2つの通話ができる。

注意1: ネイティブ ダイヤラーを使用した通話が有効になっている場合 (*6.3.5.1 ネイティブ ダイヤラーとの通話*を参照)、複数回線が無効になります。

注意2: タブレットバージョンのマルチラインはサポートされていません。

6.1.52 SIP 認証の強化

Webex アプリのリリース45.4 では、すべての SIP セッション間で認証を共有することで、SIP 通信を最適化するための設定可能なオプションが提供されます。アプリは認証を保存し、有効になるまで再使用します。

この機能により、サーバーと Webex アプリ間の SIP 通信がスピードアップし、トラフィックが軽減され、通話接続時間が短縮され、Webex アプリの全体的なパフォーマンスが向上します。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <enhanced-authorization enabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、SIP 認証の拡張機能が有効になります。

注1： 一部の SBC では、すべてのセッションで新しい SIP 認証が必要になる場合があります。そのため、この機能は展開の仕様に従って使用する必要があります。

注意2: この機能が有効になっている場合でも、Webex アプリが 401 Unauthorized を受信すると、次の SIP 要求で新しい認証が使用されます。

6.1.53 パーソナル アシスタント (退席中)

リリース44.11、モバイル Webex アプリおよびリリース45.3、デスクトップ Webex アプリでは、Cisco BroadWorks パーソナルアシスタント（PA）サービスとの統合が追加されます。ユーザーの退席中のプレゼンスと組み合わせて動作し、Webex Cloud プレゼンスと PA ステータスの同期が必要です。

PA サービスは、着信側が利用できない理由を発信者に通知するオプションを提供し、オプションで、着信側がいつ戻るか、およびコールを処理するアテンダントがあるかどうかを通知します。

PA が有効になっている場合、ユーザは [退席中（Away）] プレゼンス オプションを利用できます。Cisco BroadWorks 側で PA を設定するために使用できます。この機能がアクティブになると、ユーザは PA ステータスと設定された期間と組み合わせてユーザの退席プレゼンスを表示します。

ユーザは、手動の PA 設定のみを設定できます。PA サービスに影響を与えるスケジュールがある場合、Personal Assistant ステータス同期を通じてプレゼンスが更新されます。ただし、Webex アプリでは、スケジュール設定と PA に影響を与えるスケジュールは公開されません。

```
<config>
<services>
  <personal-assistant enabled="%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	false	true、false	ユーザが [退席中（Away）] プレゼンス機能を利用できるかどうかを制御します。

注1： この機能を使用するには、Partner Hub からパーソナル アシスタント ステータス同期を有効にする必要があります。

注意2: DND、常時着信転送、または選択着信転送サービスがアクティブな間は、標準のパーソナル アシスタントコール ルーティングは有効になりません。

注3： 手動の [応答不可（Do Not Disturb）] および [話中（Busy）] 状態は、[退席中（Away）] よりも優先されます。ユーザがこれらのプレゼンス ステータスのいずれかを手動でアクティベートしても、パーソナル アシスタントを有効にすると、プレゼンス ステータスが [退席中] に変わることはありません。

6.1.54 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)

リリース45.11以降、Webex Calling 導入のみで、Webex アプリは、同じ組織内のE2EEコールに対して音声およびビデオ メディアのエンドツーエンド暗号化（1-on-1）サポートを追加します。E2EE は、通信の参加者のみがコンテンツを復号できることを保証します。

そのコールは、SDP ネゴシエーション中に交換されたキーとともに、標準 SRTP 暗号化から始まります。2 人の参加者が E2EE をサポートしている場合、2 人の参加者にのみ利用可能な新しいキーセットが交換され、メディアの暗号化に使用されます。

```
<config><services>
<calls>
     <e2ee enabled="%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%	false	true、false	E2EEを1:1 コールに対して有効にするかどうかを制御します。

6.2 デスクトップのみの機能

6.2.1 強制的にログアウト

この機能により、Cisco BroadWorks は同じデバイス タイプを持つオンライン クライアント インスタンスを追跡し、そのうちの 1 つのみ一度にオンラインになることができます。Cisco BroadWorks がクライアントにログアウトするように通知すると、SIP 接続は終了し、クライアントはコールが接続されていないことを示します。

この機能は、類似のクライアントが同時にオンラインになることができる一部の展開で必要であり、副作用を引き起こします。1 つの例として、職場と自宅のデスクトップ マシンを持つユーザーで、どのクライアントがアクティブであるかによって、着信コールが 1 つだけ受信されます。

強制ログアウトは SIP に基づいており、クライアントは *bsoft-call-info* パラメータ値に関係なく、*From* ヘッダーに特別な *appid-value* を持つ *call-info* イベント パッケージに SIP SUBSCRIBE を送信します。Cisco BroadWorks が同じ *appid* で複数のクライアント インスタンスをオンラインで検出すると、古いクライアント インスタンスに特別な SIP NOTIFY を送信し、ログアウトさせます。たとえば、デスクトップクライアントは同じ *appid-value* を持っていますが、クライアント側のこの識別子の使用に制限はありません。*appid-value* はサービス プロバイダーによって設定されます。

強制ログアウトを使用するには、SIP *Call-Info* サブスクリプションが有効になっている必要があります。

この機能に必要な Cisco BroadWorks パッチとリリースの詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』の「Cisco BroadWorks ソフトウェア要件」のセクションを参照してください。

設定の詳細については、次の例を参照してください（SIP はこのリリースでサポートされている唯一の制御プロトコルです）。

```
<config>
<services>
<forced-logout enabled="%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%" control-protocol="SIP"
appid="%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	false	true、false	強制ログアウトを有効にします。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	空	文字列	サーバ側で相関のために使用される appid。これは任意の文字列にすることができます。 例: “123abc”

6.2.2 通話ピックアップ

コール ピックアップは、選択したユーザーがコール ピックアップ グループ内の任意の着信回線に応答できるマルチユーザー サービスです。コール ピックアップ グループは管理者によって定義され、グループ内のユーザが互いにコールをピックアップできるサブセットです。

次のピックアップ ケースがサポートされています。

- ブラインド コール ピックアップ
- ダイレクト コール ピックアップ（ユーザは、それぞれの機能アクセス コードにダイヤルしてから、呼び出し中の電話の内線番号をダイヤルすることにより、グループ内の別の電話に転送されたコールに応答できます）。

```
<config>
<services><calls>
<call-pickup blind="%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%"
directed="%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	false	true、false	ブラインド コール ピックアップを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	false	true、false	ダイレクト コール ピックアップを有効にするには、「true」に設定します。

6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート

Cisco BroadWorks のエグゼクティブ アシスタント機能として知られる Boss-Admin は、アシスタントがエグゼクティブの代わりに操作して、「エグゼクティブ」としてコールをスクリーニング、応答、発信できます。1 人のアシスタントは多くのエグゼクティブを持つことができ、次のことが可能です。

- コールを行う際に必要なロールを選択します。
- エグゼクティブの代わりに着信コールに応答し、そのコールをエグゼクティブにプッシュします。それに加えて、すべての通常のコール管理オプションが利用できます。
- 着信コールが実際にエグゼクティブ向けであることを確認します。

エグゼクティブとエグゼクティブ アシスタントは、2 つの相互関連の Cisco BroadWorks サービスであり、一緒に次の機能を提供します。

- エグゼクティブ サービスを使用しているユーザーは、コールを管理するアシスタントのプールを定義できます。アシスタントは、エグゼクティブ アシスタント サービスが割り当てられている同じグループまたはエンタープライズのユーザの中から選択する必要があります。
- エグゼクティブ アシスタント サービスを使用しているユーザーは、エグゼクティブの代わりにコールに応答して開始できます。

- エグゼクティブとアシスタントの両者は、どのコールをアシスタントに転送するか、着信コールについてアシスタントにアラートする必要があるか、スクリーニングのためにアシスタントに転送するコールをエグゼクティブに提示するかを指定できます。

```
<config>
<services>
<executive-assistant enabled="%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	false	true、false	Boss-Admin 機能を有効にするには、「true」に設定します。

注： 機能の Boss-Admin (Executive-Assistant) のサポートは、共有回線との組み合わせでは利用できません。

6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ)

クライアントは、進行中の SIP コールを Webex Calling 経由でミーティングにエスカレーションする機能を提供します。標準的なアドホック会議の代わりに、この機能を使用することで、ユーザーはミーティング中にビデオや画面共有を使用できるようになります。

```
<config>
<services><calls>
       <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	[Webex ミーティングにエスカレーション] メニュー オプションを有効にするには、「true」に設定します。

6.2.5 卓上電話のコントロール

Webex アプリケーションは、Webex Calling が有効になっている個人用デバイスとのペアリングをサポートしています。このモードでは、Webex アプリケーションは次のことを実行できます。

- ペアリングされたデバイスから発信コールを開始
- ペアリングされたデバイスで着信に応答する (プライマリ デバイスのみ – 詳細については、セクション *6.1.44 プライマリ プロファイル*を参照してください)

- リモート通話中のコントロールを提供する

Webex アプリケーションは、この機能に *Xtended Services Interface（XSI）* を使用します。

6.2.5.1 卓上電話制御通話 - 自動応答

自動応答を使用すると、ユーザはクライアントの発信コールに Desk Phone Control（DPC）を使用して、ゼロタッチ応答で MPP 電話を管理できます。

選択した MPP 電話は、発信 DPC コールの音声/ビデオを送信します。

自動応答は、プライマリおよび非プライマリプロビジョニングされたデバイスで機能できます。ユーザにペアリング可能な登録済みの卓上電話が複数ある場合、選択済み/ペアリングされたデバイスのみが自動応答します。

```
<config>
<services><calls>
<deskphone-control auto-answer="%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	true	true、false	「true」に設定すると、卓上電話制御の自動応答が有効になります。

> **注：** 自動応答は、DPC モード時の着信コールには影響しないため、卓上電話が着信コールに応答します。

6.2.6 トーン通知による自動応答

この機能により、ローカル デバイスの自動着信コール応答サポートが有効になります（これが着信コール要求に示されている場合）。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、バックエンドから要求された自動着信コールへの応答を有効にします。

6.2.7 卓上電話コントロール – 通話中制御 – 会議

この機能により、別のロケーションで終了したリモート（XSI）コールの会議およびマージ オプションが有効になります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	[true] に設定すると、別のロケーションで終了したリモート（XSI）コールの会議およびマージ オプションを有効にします。

6.2.8 コール ピックアップ通知

コール ピックアップ通知は、モニタするように設定されているユーザーへの着信コールがある場合にユーザが通知する機能を提供します。コール ピックアップ通知は、コール ピックアップ グループおよびビジー ランプ フィールド サービスを使用して設定されたウォッチリストに対して受信できます。

コール ピックアップ通知は、監視対象のユーザーが物理的に互いに近づいていない場合や、同僚の電話の呼出音が聞こえない場合に便利です。

6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド

デスクトップ Webex アプリケーションは、ビジー ランプ フィールド (BLF) ウォッチリストのメンバーが着信コールがアラート状態の場合に通知を表示します。通知には、着信コールを受信した発信者とユーザーに関する情報があり、コールに応答したり、通知を無視、または無視するオプションがあります。ユーザが着信コールに応答すると、ダイレクト コール ピックアップが開始されます。

リリース43.4以降、BLF モニタ対象ユーザのリストは、コール用のマルチ コール ウィンドウ（MCW）で使用できます（Windows でのみ使用可能）。MCW の BLF リストの統合には次のものが含まれます。

着信コールを監視し、コールをピックアップするか、アラートを無視するかを選択します。

BLF ユーザーの完全なリストを参照してください。

ユーザーのプレゼンスを監視します。豊富なプレゼンスは、Webex Cloud の利用資格を持つユーザーのみ利用できます。ベーシック (テレフォニー) プレゼンスは、BroadWorks のみのユーザーにのみ使用できます。

BLF ユーザーとの通話を開始します。

BLF ユーザーとのチャットを開始します。Webex Cloud の利用資格を持つユーザーのみが使用できます。

BLF ユーザを連絡先として追加します。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <busy-lamp-field enabled="%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%">
        <display-caller enabled="%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <notification-delay time="%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	false	true、false	コールをピックアップできる他のユーザに対して、ビジー ランプ フィールドのモニタリングと呼び出し通知を有効にします。
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し中の通知で発信者の表示名/番号を表示できるようにします。
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	0	0-60	呼び出し中の通知がユーザに表示されるまでの遅延時間を制御します。

注意:この機能は、ダイレクト コール ピックアップ サービスによって異なります。

6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)

リリース44.2以降、Webex アプリケーションは Webex Calling 展開のグループ コール ピックアップ（GCP）通知のサポートを追加します。コール ピックアップ グループを通じて監視されているすべてのユーザーの着信コールについて、ユーザに通知することができます。

コール ピックアップ グループのユーザーの一部に対する着信通話の場合、呼び出し先がコールに応答する機会が与えられます。Control Hub で設定できる GCP 通知の遅延があります。呼び出し先が設定時間内にコールを処理しない場合、GCP 通知がグループに送信されます。

同じコール ピックアップ グループ内で複数のコールが発生した場合、受信時間に基づいて順番に処理されます。最も古いコールの通知は最初にグループに配信され、処理されると、次の回線内の通知がグループに配信されます。

通知は、Control Hub 管理ポータルの設定に応じて、音声のみ、ビジュアルのみ、または音声とビジュアルの場合があります。ビジュアル GCP 通知がある場合、ユーザはコール ピックアップ機能を使用してコールをピックアップできます。音声のみの通知が設定されている場合、ユーザーには着信に対するビジュアル通知が表示されず、特定の着信音が聞こえ、Webex アプリで利用可能なコール ピックアップ メニューから、または FAC コード (*98) と内線番号を手動でダイヤルすることでコールをピックアップできます。

ユーザは、アプリケーション設定を使用して GCP 通知をミュートできます。この設定はすべてのコール ピックアップ通知（BLF および GCP）に適用され、デフォルトで通知はミュートされます。

この機能は、プライマリ回線、およびユーザーに割り当てられた共有回線または仮想回線で機能します。

```
<config>
<services><calls>
    <group-call-pickup-notifications enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
        <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
    </group-call-pickup-notifications>
...
<protocols><sip>
    <lines>
        <line>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        <line>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        ...
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	false	true、false	グループ コール ピックアップ通知を有効にする
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し通知で発信者の表示名/番号を表示できるようにします
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	120	5-120	ユーザが GCP 通知を利用できる最大時間を定義します。
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%	false	true、false	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します

注1： これは Webex Calling のみの機能です。

注2： この機能は、ユーザに設定されているコール ピックアップ グループによって異なります。

6.2.9 リモート コントロール イベント パッケージ

BroadWorks レセプショニスト シン クライアントや Webex アプリが通話デバイスである Go インテグレーターのようなクリックツーダイヤル クライアントの場合、通話を受信したり、Webex アプリの保留/再開を処理するときに、リモート コントロール イベント パッケージに敬意を表するようになりました。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、ユーザに対してリモートコントロールを有効にするよう指定します。

6.2.10 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ)

リリース43.2以降、Webex アプリケーションはサバイバビリティ コール モードのサポートを追加します。この機能が有効で、Webex クラウド接続がない場合、Webex アプリケーションはサバイバビリティ モードで実行できます。このモードでは、ユーザーが利用できる通話機能が制限されています。

ローカル サバイバビリティ ゲートウェイは顧客によって展開されます。

```
<config>
<protocols>
<sip>
<survivability-gateway enabled="%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%" fallback-
time="%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%">%BWSURVIVABILITYGATEWAY%</survivability-
gateway>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%	false	true、false	サバイバビリティ モードのサポートを有効にします。
%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%	30	>=30	フォールバック時間を指定 (SSE へのサバイバビリティ ゲートウェイ)

> **注意:** この機能により、オンプレミスからクラウド通話ソリューションへの移行に自信が持てます。

6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ)

リリース43.9以降、Webex アプリは音声メディア ストリームのリモートミュート通話制御のサポートを追加します。これにより、Webex アプリが通話デバイスである BroadWorks レセプショニスト シン クライアントなどの別の場所から、進行中のコールのミュート/ミュート解除がトリガーされます。

この機能は、新しい SIP *x-cisco-mute-status* 情報パッケージによって異なります。通話 SIP INVITE セッションの確立中に *Recv-Info:x-cisco-mute-status* ヘッダーを受信した場合、音声通話セッションのミュート状態への更新 (ローカルまたはリモート) があるたびに、Webex アプリは *Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*) を含む SIP INFO を送信します。ここで、muted パラメータは音声メディア ストリームの更新された状態を表します。

ミュートまたはミュート解除は、ローカルまたはリモートの場所からトリガーできます。リモート更新は、*イベント: SIP NOTIFY をトリガーします。ミュート* (または *ミュート解除*) をアプリケーション サーバーから Webex アプリに送信します。Webex アプリはリモートリクエストを尊重し、音声メディア ストリームの状態の更新後、*Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*) を含む SIP 通知を送信します。

```
<config>
<services>
   <calls>
       <remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、リモート ミュート コール制御がユーザに対して有効になります。

6.2.12 通話を移動

Webex アプリは、別のロケーションで終了した VoIP コールの通話のモニタリングと通話制御を提供します。これは現在、ユーザーのプライマリ回線でのみ利用できます。

リリース43.12以降、Webex アプリが拡張され、共有回線と仮想回線に対して別の場所で終了したコールが表示されます。このようなコールは、情報目的で進行中のコール領域に表示され、制御するオプションはありません。このような通話が保留になっている場合のみ、ユーザはローカル デバイスに移動し、通話画面から再開できます。このメカニズムは、コールが別のロケーションの同じユーザによって処理された場合や、同じ回線を使用する別のユーザによって処理された場合に便利です。

保留中の通話をペアリングしたデバイスに移動することはできません。ユーザーがデバイスとペアリングされている場合、最初に接続を切断し、保留中の通話をローカルで再開する必要があります。

共有回線と仮想回線の通話モニタリングは、SIP コール情報イベント パッケージによって異なります。

ユーザーのプライマリ回線のコールのモニタリングは、XSI イベント（アドバンストコール イベント パッケージ）によって異なり、これらのコールではローカル デバイスにコールを移動することはできません。このタイプの通話では、ユーザーはコール プル (*6.1.22 コール プル*) 機能を使用できます。コール プルは、ユーザーの最後のアクティブ コールに対してのみ機能し、共有回線と仮想回線のメカニズムは、保留中のユーザーのすべてのコールに対して機能します。

- 使用事例 1:
  a. Alice には、デスクトップと卓上電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
  b. Alice は、デスクフォンからチャーリーと通話しています。Alice は、デスクトップアプリで進行中の通話を確認できます。
  c. Alice はデスクフォンのフォームでコールを保留にします。Alice はデスクトップアプリからコールを再開できます。
- 使用事例 2:
  a. Alice には、デスクトップと卓上電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
  b. ボブはチャーリーと通話しています。アリスはデスクトップアプリで進行中の通話を確認できます。
  c. ボブはチャーリーとの通話を保留にします。アリスは、デスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できます。
- 使用事例 3:
  a. Alice には、デスクトップと卓上電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
  b. Alice は、デスクトップ アプリから卓上電話とペアリングされています。
  c. ボブはチャーリーと通話しています。アリスはデスクトップアプリで進行中の通話を確認できます。
  d. Bob はチャーリーとの通話を保留にします。Alice はデスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できません。
  e. Alice はデスクフォンからデスクトップ アプリを切断します。Alice はデスクトップ アプリから Charlie との通話を再開できます。

```
<config>
<services><calls>
    <call-move>
         <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	false	true、false	ローカル デバイスで通話の移動を有効にします。複数回線の使用事例におけるロケーション/ユーザー間の保留/再開に使用されます。

6.3 モバイルのみの機能

6.3.1 緊急コール

Cisco BroadWorks 版 Webex は、ネイティブの緊急コールをサポートしています。

この機能が有効な場合、発信 VoIP コールを開始するときに、アプリケーションはダイヤル番号を分析し、設定されている緊急番号のリストと比較します。番号が緊急番号として識別されている場合、アプリケーションは設定されたダイヤル動作を実行します。*ダイヤルシーケンス* タグを使用して設定できます。

サポートされるモードは次のとおりです。

- cs-only – ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワークを介してのみ緊急通話を発信します。
- cs-first:緊急コールを開始すると、クライアントは現在のデバイスが接続されているネットワーク タイプをチェックします。セルラー ネットワークが使用可能な場合、クライアントはセルラー ネットワーク経由でコールを発信します。セルラー ネットワークが利用できないが、セルラー データ/WiFi ネットワークが使用可能な場合、クライアントはセルラー データ/WiFi ネットワーク経由でコールを VoIP コールとして発信します。また、緊急通話が携帯電話ネットワーク経由で発信された場合、クライアントはユーザーに対し、緊急通報を VoIP として再試行することを提案します。
- VoIP のみ – セルラー データ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントは VoIP としてのみ緊急通話を発信します。
- cs-voip:デバイスがネイティブの回線スイッチ（CS）コールとして起動できるかどうかを分析します（CS ネットワークが使用可能かどうかは考慮されません）。デバイスがネイティブ コールを開始できる場合、緊急番号は緊急 CS コールとしてダイヤルされます。それ以外の場合、通話は VoIP としてダイヤルされます。

> **注**: VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤル シーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の唯一の意味のある値は cs のみです。

サインイン時にユーザに緊急コールの免責事項メッセージが表示されます。設定オプションでは制御されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	false	true、false	緊急コールの検出を有効にするには、「true」に設定します。 デフォルト値は空です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	CS のみ	cs のみ、cs-first、voip-only、cs-voip	緊急コールのダイヤル シーケンス モードを制御します。
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	“911,112”	CSV リスト	緊急番号の CSV リスト。 例: 911,112

6.3.2 コールのプッシュ通知

着信コールを受信すると、モバイル クライアントは最初にプッシュ通知（PN）を受信します。SIP REGISTER セッションの確立時期を制御するために使用できる設定パラメータがあります。

1. プッシュ通知を受信したとき、または
2. コールがユーザによって承認されたとき。

2つ目のアプローチが推奨されます。ただし、最初のケースと比較して、コールが確立される前に多少の遅延が生じます。

iOS の13 要件に従って、VoIP PN は着信コールにのみ使用する必要があります。その他のコール関連イベントでは、通常の PN を使用する必要があります。

この要件を満たすために、新しい PN 登録 API が導入され、対応するパッチがアプリケーションサーバに適用される必要があります。バックエンドが iOS 13 PN をサポートするように設定されていない場合、設定パラメータを使用して、すべてのコール関連イベントが VoIP PN を介して配信されるレガシープッシュ通知の使用を強制できます。

呼び出し中のコールが別のロケーションの呼び出し先によって受け入れられ、発信者が閉じた場合、またはボイスメールにリダイレクトされたときに、アプリケーション サーバ（AS）によって送信されるプッシュ通知があります。iOS 13 では、このタイプのプッシュ通知は通常のものになり、いくつかの制限があります。Apple Push Notification Service (APNS) によって遅延されるか、まったく配信されない場合があります。Call Update PN の欠落または遅延を処理するには、設定可能な呼び出しタイムアウトが追加され、最大呼び出し時間を制御します。最大呼び出し時間に達すると、呼び出し先に対して呼び出し音が停止され、コールは不在として扱われます。発信者側では、アプリケーション サーバ（AS）で設定された応答なしポリシーが実行されるまで、コールは呼び出し状態のままになります。

アプリケーションの動作を一貫して維持するために、設定可能な呼び出し音タイマーは Android と iOS の両方に適用されます。

プッシュ通知として着信コールを受信したときの着信拒否動作を指定するために、別の設定オプションが追加されます。クライアントは、コールを無視するか、拒否が「true」または「false」に設定された XSI を通じてサーバに応答するように設定できます。この場合、割り当てられた Cisco BroadWorks コール処理サービスが適用されます。「decline_false」が設定されている場合、発信者が放棄するか、応答なしタイマーが期限切れになり、関連付けられたコール処理サービスが開始されるまで、コールは呼び出し音を続行します。「decline_true」が設定されている場合、拒否の理由は、コール処理を指定します。拒否の理由が「取り込み中」に設定されている場合、サーバはすぐに取り込み処理サービスを強制します。「temp_unavailable」が設定されている場合、一時的に利用できない処理サービスが適用されます。

```
<config>
<services>
    <push-notifications-for-calls enabled="true"
    connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
    ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"/>
    <calls>
        <reject-with-xsi mode="%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%"
        declineReason="%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	false	true、false	SIP REGSITER セッションが確立されたとき、または着信通話のプッシュ通知を受信したとき、または着信を受け入れるタイミングを制御します。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	35	[0-180]	PN 経由で受信したコールの最大着信呼び出し時間を制御します。指定された期間内に CallUpd PN を受信しなかった場合、コールは不在として扱われます。
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	拒否_false	無視, decline_true, decline_false	着信拒否動作を指定します。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	通話中	ビジー、temp_unavailable	拒否モードが「decline_true」に設定されている場合の着信拒否理由を指定します。

6.3.2.1 MWI

MWI 機能を有効にすると、モバイル Webex クライアントは MWI プッシュ通知をサブスクライブして、ユーザーのボイスメールによる更新を受信して通知します。

通知の数を減らし、不要な邪魔を避けるために、MWI プッシュ通知が抑制される場合があります。たとえば、ユーザーがボイスメール メッセージを聞いているとき、またはモバイル Webex クライアント内で既読としてマークしている場合 (未読の数は減少しています)。これを制御するための設定可能なオプションはありません。

MWI の詳細については、*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*を参照してください。

6.3.2.2 リング スプラッシュ

BroadWorks サービス (DND など) は、着信がリダイレクトされたときに着信リマインダを送信できます。Webex モバイル クライアントは、リング スプラッシュ プッシュ通知を有効にし、BroadWorks によってトリガーされたときにユーザーに提示するように設定できます。

```
config>
<services>
<ring-splash enabled="%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%	false	true、false	BroadWorks 設定でリング スプラッシュを有効にします。

6.3.2.3 配信モード (Webex Calling のみ)

Webex アプリは Notification Push Server (NPS) を使用して、APNS/FCM にコールのプッシュ通知を配信します。Webex アプリのリリース45.2 では、コール関連のプッシュ通知を APNS/FCM に配信する方法を設定するために、3 つの異なる配信モードをサポートするようになりました。

- nps - NPS を使用した現在のメカニズム
- クラウド - Cisco Webex Cloud マイクロサービスを使用した強化されたメカニズム
- 外部 - サードパーティシステムを使用するメカニズム。サードパーティシステムと Cisco WebHooks エンジンの統合が必要です

```
<config>
<services><calls>
<push-notifications-for-calls enabled="true"
      connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
      ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"
      delivery-mode="%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%">
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	NPS	nps、クラウド、外部	コールのプッシュ通知の配信モードを指定します。

6.3.3 単一アラート

モバイル シングル アラート機能は、BroadWorks モビリティ サービスを活用した固定モバイル コンバージェンス (FMC)/モバイル ネットワーク オペレーター (MNO) の展開を対象としています。これなしでは、Webex クライアントにログインして着信コールを受信すると、ユーザーは同時に 2 つのコール (ネイティブ 1 つとプッシュ通知 (VoIP) コールを受信します。この機能が有効な場合、アプリケーションはログイン時にユーザーの BroadWorks モビリティ ロケーションのモビリティ アラートを無効にし、ログアウト時にアラートを有効にします。この機能を使用するための重要な前提条件は、ユーザーが BroadWorks モビリティ サービスを割り当てて、1 つのロケーションを正確に設定することです。

```
<config>
<services><calls>
<single-alerting enabled="%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	false	true、false	単一のアラートを有効にするには、「true」に設定します。

6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)

アウトバウンドクリックダイヤルにより、エンド ユーザがパーソナル回線切り替え携帯電話でコールを発信し、発信回線 ID としてビジネス DN を配信できます。

モバイル Webex クライアントは、BroadWorks Anywhere サービスを使用したクリックツーダイヤル（コールバック）コールをサポートします。Webex アプリケーションの BroadWorks Anywhere のロケーションは単一番号リーチ (SNR) ロケーションと呼ばれます。

この機能を有効にすると、ユーザはデバイス ペアリング メニューから SNR ロケーションを選択できます。SNR ロケーションとペアリングすると、クリックツーダイヤル（コールバック）コールを使用してすべての発信コールが開始されます。二重アラートを避けるため、着信コールのプッシュ通知が無効になります。

ユーザーがクリック通話を開始すると、選択した SNR ロケーションで着信通話を期待するための情報を含む発信通話画面が表示されます。この画面は、設定可能なタイマーに基づいて自動的に閉じられます。

SNR ロケーションから切断すると、アプリケーションは着信通話のプッシュ通知に再び登録されます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <call-back enabled="%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%"
timer="%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	false	true、false	クリックしてダイヤル (コールバック) コールを有効にするには、「true」に設定します。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	10	[3-20]	コールバック画面が自動的に閉じられるまでの秒数を制御します。

6.3.5 MNO サポート

6.3.5.1 ネイティブ ダイヤラーとの通話

この機能により、BroadWorks モビリティ (BWM) サービスを活用したモバイル ネットワーク オペレーター (MNO) 展開のサポートが追加されます。ユーザに BroadWorks モビリティ サービスが割り当てられ、少なくとも 1 つのロケーションが設定されていることが想定されます。

ネイティブ ダイヤラーを通じて通話を開始するユーザーの能力は、**ネイティブ** 設定タグによって制御されます。有効にすると、アプリケーションはネイティブ ダイヤラーを起動して発信します。さらに、VoIP 通話の可用性は、**VoIP** タグによって制御されます。これは、VoIP 通話が有効または無効になる可能性がある展開要件に基づきます。

VoIP とネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザーは使用するオプションを選択できます。

タグは、ユーザーが着信および発信通話の開始/受信方法を選択できるかどうかを制御します。ネイティブ通話と VoIP 通話の両方を有効にする必要があります。

リリース43.12以降、ネイティブのダイヤル設定が拡張され、カスタムプレフィックスが発信コール番号に事前保留される機能を提供します。これは、ダイヤルされた番号が FAC コードで始まっている場合にのみ、Webex アプリから開始されたセルラー通話に適用されます。

この機能は、統合型 Cisco BroadWorks アプリケーション サーバにリダイレクトされる代わりに、FAC コードが Telecom バックエンドで処理される場合に、MNO 展開を使用する顧客にとって役立ちます。新しいタグが セクションに追加され、テレコムはこの問題を解決するために使用できます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <voip enabled="%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%"/>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
    </native>
    <dialing-mode enabled="%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%" default="%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	true	true、false	VoIP 通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	false	true、false	ネイティブ通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%	false	true、false	[基本設定（Preferences）] の [コール設定（Call Settings）] で、ユーザの通話モードの選択を有効にします。
%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%	VoIP	VoIP、ネイティブ	選択されたデフォルトの通話モードを指定します。
%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%	false	true、false	ネイティブ コールの可用性は、BroadWorks モビリティ サービスの割り当てとユーザに対して設定されているモビリティ ロケーションに依存するかどうかを制御します。
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	空	文字列	FAC コードで始まる番号への発信コールがセルラーコールとして開始される場合、付加する必要があるプレフィックスを指定します。 デフォルトでは、FAC プレフィックスは定義されておらず、タグは空です。

注1： 少なくとも 1 つの **VoIP** と **ネイティブ** 通話を有効にする必要があります。

注意2: MNO 展開で**ネイティブ** 通話だけが有効になっている場合、クライアントが BWM アラートを無効にしないように、単一アラートを無効にすることを推奨します。

注意3: MNO 展開で**ネイティブ** 通話と**VoIP** 通話の両方が有効になっている場合は、ダブルアラートを防ぐために、シングルアラートを有効にすることをお勧めします。

6.3.5.2 通話中コントロール

この機能により、モバイル Webex クライアントは、Cisco BroadWorks にアンカーされているモバイル デバイス上の XSI ネイティブ コールを介して制御できます。XSI 通話コントロールは、次の場合にのみ使用できます。

- BroadWorks Mobility (BWM) サービスがユーザーに割り当てられています。
- BMW モバイル ID は 1 つだけ設定されています。
- ネイティブ通話モードはユーザーが選択しています (詳細については、*6.3.5.1 ネイティブ*ダイヤラーとの通話*)*。
- BroadWorks でアンカーされた通話があり、BMW サービスを通じて、

- モバイル デバイスで進行中のセルラー コールがあります。

リリース43.1 では、コンサルティング転送の処理を改善し、Webex アプリに表示される 2 つのセルラー コール間の関連付けを作成し、ユーザが転送を完了するためのオプションを提供します。また、ユーザが同じデバイスに 2 つの独立したセルラー コールがある場合、転送メニューが拡張され、関連付けが作成されていない場合でも、互いに転送できるようになります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	MNO 環境の XSI コール制御を有効にします。
%XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT%	MNO アクセス	MNO_Access、MNO_ネットワーク	アプリケーションで使用される XSI MNO 展開タイプを制御します。次のいずれかの値になります。 ▪ MNO_Access:以下のノードで定義されているデバイス タイプを持つすべてのリモート（XSI）コールを表示します。 ▪ MNO_Network - すべてのリモート（XSI）コールを表示します。
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT%, %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT%, %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT%	“”	文字列	MNO_Access 導入タイプで使用するデバイス タイプ名。
%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	XSI モバイル コールのユーザがコール保留アクションを利用できるかどうかを制御します。

6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル ペルソナ

モバイル リリース42.12では、Webex アプリを使用すると、ユーザは発信コールを開始するときにリモートパーティに提示された通話回線アイデンティティ（CLID）を選択できます。

ユーザが Cisco BroadWorks Mobility、モバイルネットワークオペレーター（MNO）展開の典型的な設定で構成されており、ネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザは、通話しているユーザに表示される ID を選択できます。ユーザーはビジネスまたはパーソナル ID を選択できます。また、自分の ID を非表示にし、匿名として提示する通話を非表示にするオプションもあります。

```
<config>
<services><calls>
```

```
<caller-id>
   <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <mobility enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	false	true、false	展開タイプが MNO_Access または MNO_Network として設定されている場合、ネイティブ コールのパーソナル管理を有効にします。(BroadWorks モビリティはネイティブ コールに使用され、すべてのネイティブ コールは BroadWorks でアンカーされます)

6.3.5.4 ネイティブ コールの通知

MNO で展開されているユーザーの場合、この機能は、ネイティブ コールの通知バナーを追加し、Webex アプリで制御できます。この通知は、コールが確立されたときにアプリケーションサーバーから送信されるプッシュ通知に依存します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT%	true	true、false	MOBILE_CALL_INFO プッシュ通知のサブスクリプションを有効にします。

6.3.5.5 ネイティブ通話を集約ミーティングに移動

MNO を使用して導入されたユーザの場合、この機能により、1:1 コールの両当事者のミーティングにネイティブ音声コールをエスカレーションできます（相手が Webex ユーザでない場合でも）。リモートユーザーが Webex ユーザーである場合、ミーティングに参加すると、当事者は次の機能を持ちます。

- ミーティング チャットで Webex を開始する
- ビデオの追加 (音声はネイティブ通話で続行されます)
- 画面/コンテンツを共有
- ミーティングの録画をトリガー

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	パワーアップ（招待とミーティング、ビデオミーティングのアクション）を有効にします。

6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット

Android Webex アプリ（モバイルおよびタブレット）のリリース43.7では、新しいコール制御ウィジェット（バブル）が正式に導入され、モビリティ サービスを使用して、Cisco BroadWorks にアンカーされたネイティブコールに対して追加のコール制御を提供します。ウィジェットはネイティブ UI の上に表示され、ユーザーには次のアクションが許可されます。

- 保留/再開
- ブラインド/コンサルタティブ転送 - Webex アプリの転送ダイアログにユーザーを配置します。
- [完全な転送（Complete Transfer）]:コンサルタティブ転送（リリース43.1）を完了するためのオプションを提供します。
- ビデオ ミーティング - 参加者を Webex ミーティングに移動します。
- 通話を終了

```
<config>
<services><calls>
        <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
        <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
        <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットの 保留 アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットで 転送と転送完了 アクションの可用性を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットで ビデオ ミーティング アクションの可用性を制御します。

6.3.6 着信発信者 ID

リリース 44.2 では、名前と番号に基づいて、ユーザに表示される連絡先情報を制御する機能が追加されます。着信通話画面と着信通知でユーザに表示される情報、不在着信通知を制御するための 2 つの設定オプションが追加されています。

6.3.6.1 着信通話画面

Android と iOS は、着信通話画面にデータを表示する場合に、プラットフォームの違いがあります。着信通話の情報を表示するネイティブエクスペリエンスは次のとおりです。

Android - 着信通話画面には 2 つの別々のフィールドがあり、名前と番号の両方が表示されます

iOS - 名前または番号を表示するフィールドは 1 つだけです。両方が利用可能な場合、名前が優先されます。

着信通話の新しい構成オプションを使用して、iOS Webex アプリが名前の隣のコール画面に番号が表示されていることを確認できます (形式: *名前 (番号)*)。Android Webex アプリの動作には影響しません。

6.3.6.2 着信通話通知

場合によっては、着信通話が通知としてユーザーに提示されます。スペースが制限されているため、番号は常に表示されません。

着信通話の新しい設定オプションは、着信通話通知に表示される情報も制御します。有効にして名前と番号の両方が利用可能な場合、Webex アプリは名前の隣に番号を追加します (形式: *名前 (番号)*)。これは Webex アプリの動作が Android と iOS の両方に適用されます。

6.3.6.3 不在着信通知

不在着信通知には、追加の設定パラメータが追加されています。着信コール通知と同様に、リモート側の情報を制御するために使用できます。これにより、リモートユーザの表示名に番号を追加し、不在着信通知に表示できます。これは Webex アプリの動作が Android と iOS の両方に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
```

```
<caller-id>
   <incoming-calls>
      <append-number enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
   </incoming-calls>
   <missed-calls>
      <append-number enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
   </missed-calls>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	着信通話画面 (iOS のみ) および通知の名前に番号を追加するかどうかを制御します。
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	不在着信通知の名前に番号を追加するかどうかを制御します。

注: 番号が表示名として配信される場合、または表示名が番号で終わる場合、Webex アプリは重複を避けるため、番号は 1 回だけ表示されます。

7 アーリーフィールドトライアル（BETA）の特徴

7.1 緊急（911）コール - Cisco 緊急ロケーション情報サービス（Webex Calling のみ）および設定のクリーンアップ

Webex アプリは、6.1.36 1x38d="1" />*6.1.38*に記載されているように、サードパーティ プロバイダーを使用する緊急通話の緊急ロケーションをすでにサポートしています。緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポートこの機能は、米国、その準州（グアム、プエルトリコ、およびバージン諸島）、およびカナダ周辺の Public Safety Answering Points (PSAP) への緊急コールにのみ適用されます。

Webex Calling 展開専用の場合、Cisco は独自の緊急ロケーション情報サービスを追加して、HELD/HELD+ インタラクションを処理して保存し、会社とユーザーが作成したワイヤマップを管理し、PIDF-LO 属性でアドレスを保存し、緊急通話のロケーション情報を送信します。

Webex アプリのリリース45.1により、Cisco 緊急ロケーション サービスとのインテグレーションが追加されます。DMS 構成テンプレートが更新され、さまざまな緊急ロケーション プロバイダーのサポートが追加されます。

- DMS 構成テンプレートの の下の の現在の DMS セクションは廃止されています。代わりに、新しいセクション が追加され、今後は Webex アプリで使用されます。
- 新しい*プロバイダー* オプションが新しいセクションで利用できるようになり、Webex アプリが使用するべき緊急ロケーション プロバイダーを制御できるようになりました。利用可能なオプションには、*redsky*、*intrado*、*9line*、*webex* が含まれます。最初の 3 つのオプションは、BroadWorks 版 Webex 展開で使用でき、主にトラッキング目的で使用され、サードパーティ プロバイダーとの通信に HELD+ プロトコルを利用します。*Webex* オプションは、Webex Calling 展開でのみ利用でき、アプリが Cisco Emergency Location Information Service を利用できるようにします。これにより、ワイヤマップと緊急通話の PIDF-LO サポートが強化されました。
- 手動設定が必要な新しいカスタム タグが追加され、現在の設定 (機能がすでに使用されている場合) と一致します。設定されていない場合、デフォルト値が使用されます。これは、機能を無効にするか、動作を変更する可能性があります。
- 、、 およびに使用されるシステムタグに更新はありません。
- [重要] 設定ミスにより緊急ロケーション機能が無効になるのを防ぎます。緊急ロケーション機能 (%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%) の可用性を制御する新しいカスタム タグが、レガシータグ (%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%) と同じ方法で設定されていることを確認してください。

- [重要] 構成ミスによりこの重要な機能が失われるのを避けるため、Webex アプリには下位互換ロジックが追加されました。テンプレートに新しい構成セクション がない場合、または新しいカスタム タグ (%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%) が設定されていない場合、enabled 属性を "false" に設定すると、Webex アプリは従来の構成セクション () を読み取り、その値を適用しようとします。
- この機能が無効になっている場合、緊急コールは適切な PSAP にルーティングする前に発信者の位置を検証するために ERC (Emergency Relay Center) によってトリアージのためにルーティングされ、追加料金が発生する場合があります。

次のスニペットに、DMS 設定テンプレートの変更を示します。

```
<config><services>
<emergency-dialing enabled="%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%">
   <redsky enabled="%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%">  <!-- DEPRECATED by <emergency-
location> -->
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-timeout>%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-location>%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-
mandatory-location>
      <user-location-prompting>%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </redsky>
   <emergency-location enabled="%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%"
                       provider="%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%">
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-timeout>%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-location>%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-
mandatory-location>
      <user-location-prompting>%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-
location-prompting>
   </emergency-location>
</emergency-dialing>
```

次の表に、新しいカスタム タグとレガシーのカスタム タグ間のマッピングを示します。

構成オプション	非推奨のカスタム タグ	新しいカスタム タグ
タグのenabled属性と、レガシータグの同じ属性です。	%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%
Tag <user-reminder-timeout>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%

Tag <user-mandatory-location>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
Tag <user-location-prompting>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	false	true、false	緊急ロケーション プラットフォームの使用を有効にします。
%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%	レッドキー	redsky, イントラッド, 9ライン, webex	どの緊急ロケーション プロバイダーを使用する必要があるかを指定します。 「webex」は Webex Calling 展開にのみ適用され、Cisco 緊急ロケーション情報サービスを利用するように設定する必要があります。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダーへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダー HTTPS 要求に使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証するためのシークレット。 E911 プロバイダーとして「webex」では使用しない (空)
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV 文字列	E911 プロバイダーがサポートする緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (ユーザは再度プロンプトされません)	番号 [0 - 43200]	現在の緊急ロケーションが入力されていないか、無効の場合に、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用されるタイムアウト（分単位）。 有効にすることを決定した場合の推奨値: 1440（1 日）。
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます)	番号 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーション ダイアログを閉じることを許可する時間（つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることはできません）。 使用可能な値: ▪ N = -1（ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます） ▪ N = 0（ユーザはダイアログをキャンセルできません - 常に必須のロケーション） > 0（ユーザはダイアログが必須になる前に N 回キャンセルできます）

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	例 1 once_per_login	攻撃的、once_per_login	▪ E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。「攻撃的」の値は、ネットワークが不明なロケーションに変更されるたびにユーザーに対してダイアログを表示しますが、「once_per_login」の値は 1 回だけ表示され、ユーザーのポップアップや気が散らないようにします。

8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング

次の表に、UC-One のレガシー カスタム タグと一致する Cisco BroadWorks 版 Webex のカスタム タグを示します。

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_DESKTOP%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	該当しない	%REJECT_WITH_XSI_MODE_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	該当しない	%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_MOBILE%
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	該当しない	%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_DESKTOP%	該当しない
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	%MAX_CONF_PARTIES%	該当しない
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	%ENABLE_CALL_PULL_DESKTOP%	%ENABLE_CALL_PULL_MOBILE%
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	該当しない	%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%MWI_MODE_WXT%	%DESKTOP_MWI_MODE%	%MWI_MODE_MOBILE%
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL%	該当しない
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	%ENABLE_FORCED_LOGOUT%	該当しない
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	%FORCED_LOGOUT_APPID%	該当しない
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENBLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	%USE_RPORT_IP%	%ENABLE_USE_RPORT_MOBILE%
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	該当しない	%RPORT_USE_LOCAL_PORT_MOBILE%
%USE_TLS_WXT%	%USE_TLS%	該当しない
%SBC_ADDRESS_WXT%	%SBC_ADDRESS%	%SBC_ADDRESS%
%SBC_PORT_WXT%	%SBC_PORT%	%SBC_PORT%
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	%USE_PROXY_DISCOVERY%	%USE_PROXY_DISCOVERY_MOBILE%
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	%USE_TCP_FROM_DNS%	該当しない
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	%USE_UDP_FROM_DNS%	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	%USE_TLS_FROM_DNS%	該当しない
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	%DOMAIN_OVERRIDE%	%DOMAIN_OVERRIDE%
%SOURCE_PORT_WXT%	%SOURCE_PORT%	%SOURCE_PORT%
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES%	該当しない
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	%TCP_SIZE_THRESHOLD%	該当しない
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	%SIP_REFRESH_ON_TTL%	該当しない
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_DESKTOP%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_MOBILE%
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_PEM_SUPPORT_DESKTOP%	該当しない
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	該当しない	該当しない
%SRTP_ENABLED_WXT%	%USE_SRTP%	%SRTP_ENABLED_MOBILE%
%SRTP_MODE_WXT%	%SRTP_PREFERENCE%	%SRTP_MODE_MOBILE%
%ENABLE_REKEYING_WXT%	%ENABLE_RE_KEYING_DESKTOP%	%ENABLE_RE-KEYING_MOBILE%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	%ENABLE_RTCP_MUX%	%ENABLE_RTCP_MUX%
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL%	該当しない
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	%CHANNEL_HEARTBEAT%	%CHANNEL_HEARTBEAT_MOBILE%
%XSI_ROOT_WXT%	%XSI_ROOT%	%XSI_ROOT%
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	該当しない	%XSI_ACTIONS_PATH_MOBILE%
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	該当しない	%XSI_EVENTS_PATH_MOBILE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	該当しない	%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_MOBILE%
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	該当しない	%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_MOBILE%
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_URL%
%USE_MEDIASEC_WXT%	%USE_MEDIASEC_MOBILE%	%USE_MEDIASEC_DESKTOP%
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	%ENABLE_CALL_CENTER_DESKTOP%"	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_STANDARD_SETTINGS_CC_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE%
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	該当しない	該当しない
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_DESKTOP%	該当しない
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	該当しない	%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_MOBILE%
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	%ENABLE_CALL_RECORDING_DESKTOP%	%CALL_RECORDING_MOBILE%
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	該当しない	%ENABLE_SINGLE_ALERTING%
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	%ENABLE_CALL_PARK_DESKTOP%	該当しない
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_PORT_WXT%	該当しない	該当しない
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	該当しない	該当しない
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	該当しない	該当しない
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	該当しない	該当しない
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_DESKTOP%	該当しない
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_DESKTOP%	該当しない
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	該当しない	該当しない
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	該当しない	該当しない
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	%DESKTOP_PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED%	%ENABLE_PERSONAL_ASSISTANT_PRESENCE%
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%CALL_PULL_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	該当しない	該当しない
%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	該当しない	該当しない

注: N/A は、UC-One の機能を制御する対応するカスタム タグがないことを示します。デスクトップとモバイルのレガシータグの両方の N/A を持つことは、Cisco BroadWorks 版 Webex タグが新しく、新しい機能または既存の機能のいずれかを制御することを示します。これは、UC-One のカスタム タグで制御されませんでした。

9 別紙A: TLS 暗号化

BroadWorks 版 Webex クライアントは、追加のセキュリティ強化により OpenSSL をベースにした CiscoSSL を使用します。

10 別紙B: DM タグプロビジョニング スクリプト

多くの顧客が新しい構成パラメータにタグを好むため、各リリースでカスタム DM タグの数が増加しています。これらのカスタム DM タグをプロビジョニングするメカニズムをより簡単に提供するために、このセクションには、カスタム DM タグに値を割り当てるためにアプリケーションサーバ（AS）側で実行できるスクリプトが含まれています。これらの関数の動作は、 php.ini の設定により変化します。

このスクリプトは、カスタム DM タグが作成される新しい展開でのみ有効であることに注意してください。既存のカスタム DM タグを変更するには、次のスクリプトのコマンドを “add” から “set” に変更する必要があります。

いくつかのカスタムタグセットのみのスクリプト テンプレート (実際の展開では、より大きなカスタムタグのリストを入力する必要があります)。次の例はモバイル用です。デスクトップの場合は、Connect_Tags の代わりに BroadTouch_tags タグセットを使用します。タブレットでは、Connect_Tags の代わりに ConnectTablet_Tags タグセットを使用します。

```
%% ********************************** Connect_Tags - read file **********************************
%%
%% Instructions:
%% ------------------
%% - This read file can be used to create, add and set Webex for BroadWorks
%% client custom tags
%% - Use %% to comment out any steps not required based on deployment specific
%% service requirements:
%% Step 1 -- for new deployments only, create initial tag set label
%% Step 2 -- add a new custom tag (an entry is required for each new tag)
%% Step 3 -- set value for an existing custom tag (entry required for each applicable tag)
%% Step 4 -- display and visually verify tag settings
%%
%% - Edit, modify file as needed respecting command syntax. Save file (e.g. WxT_Tags.txt)
%% - SFTP read file to AS under directory /tmp
%% - Login to AS, bwcli (login as admin)
%% - Execute the following command from bwcli: AS_CLI> r /tmp/ WxT_Tags.txt
%% - Verify results
%%
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 1: Create Connect tag set label - Connect_Tags
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet
add Connect_Tags
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 2: Add WxT for BWKS custom tags
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below-----------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% true
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 3: Set Connect custom tags (if tag already exists)
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below
set tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% isOverridable true
tagvalue false
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 4: Verify custom tags have been correctly defined and set
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
```

```
get tagSetName Connect_Tags
quit all
```

以下に、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるすべてのカスタム タグを例に示します (デフォルトまたは推奨)。タグの一部には、対応する展開（サーバ アドレスなど）に固有の値が必要です。そのため、これらのタグはスクリプトの最後に追加されますが、空のままであり、それらを指定するために追加のセットコマンドを追加する必要があります。

10.1 デスクトップ

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT% 900
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT% false
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %FORCED_LOGOUT_APPID_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT% 120
add tagSetName BroadTouch_tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName BroadTouch_tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PULL_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT% call_move
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.2 モバイル

```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName Connect_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName Connect_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName Connect_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
```

```
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName Connect_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% 真
add tagSetName Connect_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName Connect_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
```

```
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
```

```
add tagSetName Connect_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName Connect_Tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PULL_MODE_WXT% blind
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.3 タブレット

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-x% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PULL_MODE_WXT% blind
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.4 システム タグ

BroadWorks 版 Webex で使用されるシステム タグを次に示します。

```
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
%BWLINEPORT-n%
%BWHOST-n%
%BWAUTHUSER-n%
%BWAUTHPASSWORD-n%
%BWE164-n%
%BWNAME-n%
%BWEXTENSION-n%
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%
%BWLINEPORT-PRIMARY%
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%
%BWE911-CUSTOMERID%
%BWE911-SECRETKEY%
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
%BW-MEMBERTYPE-n%
%BWUSEREXTID-n%
```

```
%BWVOICEMAIL-CLOUD-STORAGE-ENABLED-n%
```

11 頭字語と略語

このセクションでは、このドキュメントで見つかった頭字語と略語を紹介します。頭字語と略語は、その意味とともにアルファベット順にリストされます。

ACB	自動コールバック
ACD	自動通話分配
ACR	匿名通話の拒否
AES	高度な暗号化標準
ALG	アプリケーション層ゲートウェイ
API	アプリケーションプログラミングインターフェイス
APK	アプリケーションパッケージ
APNS	Apple プッシュ通知サービス
ARS	自動ビット レート選択
AS	アプリケーション サーバー (Cisco BroadWorks)
AVP	音声ビジュアル プロファイル
BW	BroadWorks 版
BWA	BroadWorks Anywhere
BWKS	BroadWorks 版
BWM	BroadWorks モビリティ
BYOD	自分のデバイスを使用
CC	コール センター
CFB	通話転送（話中）
CFNA	着信転送無応答
CFNR	通話転送到達不可
CIF	共通中間形式
CLI	コマンドライン インターフェイス
CLID	Calling 回線 ID
CLIDB	通話回線 ID 配信ブロック
CRLF	キャリッジリターン回線フィード
CS	回線切り替え
CSWV	通話設定 Web ビュー
CW	コール待機中
DB	データベース

DM	デバイス管理
DND	応答不可
DNS	ドメインネームシステム
DPC	卓上電話コントロール
DTAF	デバイス タイプ アーカイブ ファイル
ECACS	緊急通話アドレス変更サービス
FMC	固定モバイルコンバージェンス
FQDN	完全修飾ドメイン名
HMAC	ハッシュメッセージ認証コード
ICE	Interactive Connectivity の確立
iLBC	internet 低ビットレート コーデック
IM	インスタントメッセージ
IM&P	インスタントメッセージとプレゼンス
IOT	相互運用性テスト
IP	インターネット プロトコル
JID	Jabber 識別子
M/O	必須/オプション
MNO	モバイルネットワークオペレーター
MTU	最大送信ユニット
MUC	マルチユーザーチャット
MWI	メッセージ待機インジケータ
NAL	ネットワーク抽象レイヤー
NAPTR	命名権限ポインタ
NAT	ネットワーク アドレス変換
OTT	トップ
PA	パーソナルアシスタント
PAI	P-Asserted-Identity
PEM	P-Early メディア
PLI	画像損失表示
PLMN	公有地モバイルネットワーク
PN	プッシュ通知
QCIF	Quarter 共通中間形式
QoS	サービスの質

RO　リモートオフィス

RTCP　リアルタイム制御プロトコル

RTP　リアルタイム プロトコル

SaaS　サービスとしてのソフトウェア

SAN　サブジェクト代替名

SASL　単純な認証とセキュリティレイヤー

SAVP　セキュアな音声ビデオ プロファイル

SBC　セッション ボーダー コントローラー

SCA　共有コールアピアランス

SCF　セッションの継続性機能

SCTP　ストリーム制御伝送プロトコル

SDP　セッション定義プロトコル

SEQRING　シーケンシャル リング

SIMRING　同時呼び出し

SIP　セッション開始プロトコル

SNR　信号とノイズ比

SNR　単一番号リーチ

SRTCP　セキュアなリアルタイム制御プロトコル

SRTP　セキュアなリアルタイム転送プロトコル

SSL　セキュアソケットレイヤー

NAT 用 STUN　セッション トラバーサル ユーティリティ

SUBQCIF　サブクォーター CIF

TCP　伝送制御プロトコル

TLS　トランスポート層セキュリティ

TTL　存続時間

リレー NAT を使用したトラバーサル

UDP　ユーザーデータグラムプロトコル

UI　ユーザーインターフェイス

UMS　メッセージング サーバー (Cisco BroadWorks)

URI　ユニフォーム リソース識別子

UVS　ビデオ サーバー (Cisco BroadWorks)

VGA　ビデオグラフィックス配列

VoIP　Voice Over IP

VVM	ビジュアル ボイスメール
WXT	Webex
XMPP	Extensible Messaging and Presence プロトコル
XR	拡張レポート
Xsp	Xtended サービス プラットフォーム
Xsi	Xtended Services インターフェイス

Cisco および Cisco ロゴは、米国およびその他の国において Cisco およびその子会社の商標または登録商標です。Cisco 商標一覧は、こちらの URL でご確認ください。https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html. 記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉の使用は、シスコと他の会社間のパートナーシップ関係を意味するものではありません（1721R）。

©2025 Cisco Systems, Inc. 無断複写・転載を禁じます